

ISSN 1344-7920

名古屋大学医学部保健学科

教 育 ・ 研 究 年 報

第 5 卷



*Annual Report
of
Nagoya University School of Health Sciences*

2002

名古屋大学医学部保健学科教育・研究年報第5巻の刊行によせて

名古屋大学医学部保健学科長
古池保雄

名古屋大学医学部保健学科が平成10年4月より、第1期生200名を迎え入れてから本年度には第2期の卒業生218名を送りだすまでになりました。また、平成14年4月に設置された大学院修士課程は1年間の活動の中で、修士課程の基礎を築いてきました。

大幸キャンパスは、教官95名、学部学生865名（内編入生58名）、大学院生65名、職員18名の計1043名が学ぶ賑やかなキャンパスになりました。現在、教職員はじめこのキャンパスに集う全員が平成16年4月の大学院博士課程設置を目指し、その持てる力を振りしぼって実現を待ち望んでいるところです。

大学院博士課程設置を目指すこの平成16年は、日本の大学制度にとって歴史に残る年になると思われます。大学の設置者は「国」から「国立大学法人」になり、これまでの制度は大きく変わると思われます。法人化に係わる変化の一つとして、大学（或いは夫々の学部、学科）がその「存置理由」を示すこと、そしてその理由にふさわしい活動をしているかが評価され、その後の活動に大きく反映される仕組が挙げられます。

名古屋大学医学部保健学科は保健学という学問を通して、その「存置理由」を社会・国民に問うものです。保健学はヒトの健康と疾病に関する医学の一領域と云えましょう。我が国は世界に類の無い速度で高齢化社会を迎えます。保健学は高齢者が生きいきとした生活ができる社会を目指すための諸問題を学問的に検討し、疾病をめぐる病む人がその克服を目指すあらゆる面での介入や援助を目標とした諸問題を学問的に検討し、解決の道を探ろうとしています。また、疾病発現に関する分析法や疾病の診断・発見方法、さらには地球環境に係わる環境分析法などを学問的に築き上げようとしています。

そして、名古屋大学医学部保健学科はこのような保健学を教育し、医療チームをはじめ保健学を実際に担う人材を世に送りだすことを使命としています。そしてこのような活動とその成果をもって「存置理由」を問おうとしています。

このような状況にあって「年報」は名古屋大学医学部保健学科の1年間の全構成員の努力の結果をまとめたものです。夜間開講や土曜開講など多様な活動が求められる中でこのような成果が残せたことは着実な前進を示すものとして評価されることと思います。しかし、同時に「年報」に示される努力が、今後ますます積極的な評価を受けられるように目指していくことは、これまで以上に強く求められています。それは大学院博士課程を設置するうえで必須のことでもあります。

「年報」が、名古屋大学医学部保健学科の発展と飛躍の一里塚を刻むものとなりますよう希望いたします。

目 次

1. 各専攻の教育・研究活動	1
2. 公開講座	19
3. 業績	23
看護学専攻	25
放射線技術科学専攻	45
検査技術科学専攻	63
理学療法学専攻	81
作業療法学専攻	91

1. 各専攻の教育・研究活動
(平成13年度)

看護学専攻

看護学専攻は人々の健康の維持・増進に寄与し、高度に専門化した医療に対応できる基礎力と判断力を備え、かつ医療人として不可欠な倫理観に裏づけられた豊かな人間性を備えた看護師、保健師、助産師の育成を目的に1997年10月に設置された。2001年4月には全学年が揃い、同年3月の短期大学部専攻科助産学特別専攻の閉校に伴い、助産師教育を含めてすべてが学部教育で行われることになった。

2001年4月には、3年次編入生を加えて学生総数336名、教官総数37名（教授15名、助教授6名、講師1名および助手15名）という規模になった。

1. 運営

本専攻の運営は、月2回行われる専攻会議を通して行われている。専攻会議の構成員は、通常は、講師以上の教官で、予算、カリキュラム、実習運営、学生指導全般にわたる問題について討議し、共通認識をもちながら円滑な運営が行われている。また、必要に応じて専攻教授会が開かれている。本専攻は基礎看護学講座、臨床看護学講座、発達看護学講座、地域・在宅看護学講座の4講座があり、構成員は総勢37名のため、専攻主任のほかそれぞれの講座に講座長をおいている。各講座長は専攻運営について主任に協力し主任・講座長会議も不定期に行われている。各講座では、助手を含んだ講座会議を設け、専攻の方針が全員の意志を反映・浸透するようにはからわれている。

2. 教育活動

恒例となった新入生ガイダンスは、4月末に美浜少年の家を使用して行った。本年度は、臨床看護学講座の教官が中心となって、新しく上級生の参加者をまじえて企画、運営した。

教育活動として本年度に新たに始まったこととしては、まず、4年次生の看護学研究法（卒論）があげられよう。学生は、特論に引き続き各担当教官の指導を受けながら研究を進め、論文としてまとめ上げた。そして、12月下旬の冬季休業中に各講座ごとに設けた発表会で、その成果を教官と同・下級生に向けて発表した。

第二には、就職活動および国家試験（保健師・助産師・看護師）受験の為の指導である。

就職担当教官に関係教官を加えてチームを作り、就職のための説明会の実施、対外的な折衝および個別学生の相談応需、国家試験受験の説明会の実施と模擬試験受験案内ほか具体的な準備と個別指導、また個人の就職等進路の把握や国家試験合格状況の確認にあたった。

第三に、カリキュラムについて前年度から提出されていた講義・実習の進行順序や重複内容の整理などを中心にワーキンググループによる見直しを行い、新カリキュラム案を作成した。

第四に、臨地実習環境を整えるために昨年度より取り組み始めた臨床教授制について、さらに拡充を図るべく学内外実習施設の候補者を推薦した。

そして締めくくりの最大事は、初めての卒業生85名を社会に送り出したことである。その進路は、名古屋市、大阪市ほかに保健師として11名、金沢大学医学部附属病院、母子愛育会愛育病院ほかに助産師として15名、名古屋大学医学部附属病院ほかに看護師として51名、その他14名となっている。国家試験については、残念ながら全員合格には至らず、保健師・助産師・看護師によってバラツキがあるが、92%～99%の合格率であった。

3. 研究活動

本年は、来年度の修士課程開設に向けて各教官が一致協力してその準備にあたり、多忙を極めたものの、研究活動にも熱心に取り組んできた。本専攻が中心となっている日本看護医療学会も、会員数が年々増加し、9月に第3回学術集会開催など順調な発展を続けており、6月と12月の2回、学会誌が発行された。本専攻の教官達の研究論文も多数掲載されている。

運営の項で述べたように、本専攻には4講座あり、教官の研究領域・課題および研究方法は多岐に亘っている。以下に教官の研究課題について記す。

後藤節子教授：婦人科治療に伴う妊孕能の温存、周産期における自律神経系の変化、思春期から青年期女性の健康障

害、婦人科腫瘍の化学療法剤への抵抗性

森島恒雄教授：ウイルス感染症の診断と治療、ウイルスの母子感染と対策、中枢神経感染症の現状と対策

河津芳子教授：ヒューマンスティック・アプローチによる看護学教育方法、近代看護婦養成に関する研究、ライフヒストリーを用いた看護学研究

安田道子教授：早期母子関係に問題を持つ事例の心理療法、看護場面におけるカウンセリング的対応とその効果

渡邊順子助教授：身体支援に関する看護介入研究、ポジショニング介入に関する研究、ベッ褥瘡予防に関する基礎的研究、ベッドレストケアに関する研究

中木高夫教授：看護診断学、看護介入学、病院医療情報システムに関する研究

任和子助教授：療養行動に関連して生じるストレスとコーピングに関する研究、慢性疾患を持つ患者のセルフケア行動に関する研究、自律的な健康行動を促す方法に関する研究

松村悠子教授：意識障害患者の看護、看護過程理論、看護の倫理的側面の再構築

安藤祥子助教授：がん性疼痛緩和に関する研究、ターミナルケア領域における研究、病院環境改善に関する研究

渡邊憲子教授：手術患者のQOL、手術患者のボディ・イメージ

片岡秋子助教授：リラクセーションに関する研究、ストレス・マネージメントに関する研究、危機理論に関する研究

水溪雅子教授：精神的問題を持つ患者のケア、精神疾患患者の家族サポート、看護師の認知する感情

石黒彩子教授：アレルギー小児のQOL、喘息時の自己管理、喘息時の環境調整

浅野みどり助教授：母子を中心にした家族の支援、障害児と生活する家族のQOL、喘息児のQOL

森田せつ子教授：周産期における家族形成過程研究、助産技術の歴史的・実証的研究、母性・父性の発達に関する研究、地域母子保健に関する研究

玉里八重子教授：周産期の健康上の生活の問題、出産に関する健康への支援、女性の健康上の問題の要因分析

飯田美代子助教授：自己管理における日記の役割、女性の健康増進と月経管理

伊藤隆之教授：循環器疾患患者の健康管理、内皮由来収縮因子と内皮由来弛緩因子

榊原久孝教授：生活習慣病の健康管理、動脈硬化と生活習慣との関連性、物理的因子（振動）の生体影響

梶田悦子教授：生活習慣病とライフスタイル、成人保健における保健婦活動

前川厚子教授：創傷とオストミーに関する研究、内部障害者のケアマネージメントの開発、ハイテク在宅看護に関する研究

吉田久美子講師：子どもの虐待地域ネットワーク、地域組織活動

4. 対外的な、または社会と関わりのある活動

1) 本年度の新しい試みとして、本専攻教官と海外の看護教育者との交流が2件あった。第一は、11月にワシントン大学のウッズ博士との交流会ならびに講演会である。講演会には本専攻の飯田助教授ならびに浅野助教授による研究発表（国際学会で既発表の内容）も行われた。この会には、高学年の学生・教官・卒業生が多数参加し、よい刺激を受けたとの声が聞かれた。第二は、3月にタイのボロマラジョナニ看護大学のジャムジャン学長ほか看護教官3名の来訪を受け、互いの大学紹介を中心とする交歓会である。後者は先方の希望により偶発的に得られた機会であった。いずれも単なる交歓会にとどまらず学生の相互交流、教官の共同研究へと発展することが期待される。

2) 看護相談外来：1999年6月に地域住民の健康支援拠点をめざして有志によって開設された看護相談外来は、活動が定着し、本年も毎週火曜日に実施している。その内容は、第一週は子ども健康相談、第二週は成人健康相談、第三週は女性健康相談、第四週は在宅看護相談とし、各教官の専門を生かしたものとなっている。相談例数は平均すると毎週1～2例、内容は成人健康相談が最も多く、相談回数は1回の相談で終了したケースが大半であるが、継続して相談にのっている例もある。

看護相談外来の活動は、2月初旬に雑誌「看護教育」医学書院の取材をうけ、平成14年4月発行の第43巻第4号で紹介される。このことは、開設後3年足らずの本活動が社会的な評価を受けつつあるとの根拠となろう。

3) 前述の通り、「日本看護医療学会」は本専攻が運営の中心となっており、本会を通じて主に東海地区の大学との連携をはかっている。また、各教官は日本看護系大学協議会、愛知県看護協会ほか各種関連団体の委員、役員ま

たは研修会講師を担当することなどを通して多様な対外活動を行っている。

個人的に目立った社会活動としては、後藤教授のヴェトナム社会主義共和国における口唇口蓋裂児への医療援助・技術指導があげられる。同教授はこの活動を数年来継続して行っている。

(主任：河津芳子)

放射線技術科学専攻

1895年のレントゲンによるX線の発見と、引き続きベクレルによる放射性同位元素からの放射線の発見以来、放射線が理学、医療、工業、農業などの分野において人類に多大なる貢献を示している。しかし、一方で放射線による死を含めて、その影響の大きさも知られてきている。20世紀における科学技術の発展はめざましく、日常生活にもそれらが反映されて、今日の日本の医療で放射線技術の果たす役割は非常に重要であり、その業務は多岐にわたっている。医療における放射線技術のさらなる進歩が予想され、21世紀における当専攻の果たすべき役割とその責任が増してきている。現在、医療における放射線の利用方法は、診断と治療であり、それらに付属して線量の計測や安全管理が重要な問題である。今日における一般的な画像診断装置は、X線診断装置、核磁気共鳴診断装置、超音波診断装置、ガンマカメラなどであり、これらのなかでもCTなどを含む各種X線装置が重要な地位を占めている。さらに、これらの画像の記録もフィルムからデジタルデータへと移行しつつあり、IT化が進行することが予想される。一方、放射線を用いる治療は初期におけるガンマ線から加速器によるX線へと移行してきて治療部位に対する線量の正確な制御が可能になりつつある。これらをふまえて当専攻では社会の要求や科学の進歩を取り入れた医療現場で、医療人としての心構えを有し、問題解決能力を備えた診療放射線技師を育成し、さらには企業において開発研究やシステムエンジニアリングに携わる技術者、教育・研究機関で診療放射線技師としての能力を発揮しうる学生の養成に務めている。

1. 運営

平成13年度の本専攻の教官総数は19名であり、そのうちの約半数の9名が診療放射線技師の資格を有し、残り5名が理工学出身者、5名は医師免許所持者である。本専攻は基礎放射線技術学講座と医用放射線技術学講座の2つの大講座により構成されているが、専攻の運営は講座とは関係なく専攻教授会及び専攻会議によりなされている。研究活動も講座ごとではなく教官個人が有機的に結びつき、広い分野で先端的な研究を行っている。

教育面では新指定規則に基づくカリキュラムの改訂に向けて積極的に検討を行い、教育内容の重複、教育プログラムの系統性、各々の講義や実験の実施時期の変更を行い、2年次にも専門科目を増やし専攻に対する興味を持続的に維持できるようにした。

2. 教育活動

放射線技術科学専攻の第4期生として40名の入学生を迎え入れた。入学生の内訳は男子24名、女子16名であった。推薦入学9名、前期日程試験入学20名、後期日程試験入学11名であった。3年次編入生は6名であり、編入生全員が診療放射線技師の資格をもっている。平成14年3月には放射線技術科学専攻の第1回の卒業生として、編入生を含めて42名を送り出すことができた。診療放射線技師国家試験には1名以外は全員合格し、体調が悪い1名以外は進学もしくは就職した。1年生から4年生まで共通教育と専門教育が組まれているが、教育の効果を高めるためにそれら以外に以下のような活動を行っている。

ガイダンス

4月9日 編入生ガイダンス

4月10日 新入生ガイダンス

4月11日 2年生ガイダンス、3年生ガイダンス、4年生ガイダンス

新入生ガイダンスは高校時代とは環境の大きく異なる大学に入学してきた新入生に対して、4年間のカリキュラムの目指すもの、卒業後の診療放射線技師国家試験及び進学・就職について説明し、勉学の進め方、クラブやサークル活動、友人関係等についてアドバイスを与える場であり、それと同時に当専攻の学生間でお互いに面識を高める機会でもあった。2・3年生に対するガイダンスでは専門教育、特に実験・実習等に対する注意を与え、忘れがちな一般的な連絡事項、安全に関する事項等について再度注意を喚起した。4年生ガイダンスでは進学、就職、夏期病院実習、国家試験模擬試験等について説明した。名古屋大学付属病院と愛知県ガンセンターでの臨床実習については、実習開始前にそれぞれの病院に向いて病院担当者とともに説明を行った。また編入生ガイダンスでは新入生と同様のこと

がらに加えて、編入生向けのカリキュラム及び名古屋大学付属病院における臨床研究等について説明を行った。

特別講義

14年2月5日 3年生

「最近の放射線治療について」青山裕一（名古屋大学医学部附属病院）
「臨床における一般撮影法の基礎」近藤智昭（名古屋大学医学部附属病院）
4年生から始まる臨床実習に関連して標題の講義を特別講義として実施した。

施設見学

9月4日 島津製作所見学

診療放射線技師としてCTを含めたX線装置を理解することは、適切な画像を取得し、患者及び本人の被ばくを最小限にするために重要である。講義で広い知見を得、実験でかなりの部分を体験するが、最新の装置について内部構造を含めて学ぶ機会は少ない。そこで、4年生が医療用及び工業用X線装置のメーカーである島津製作所を医用機器工学の講義の一部として見学した。

9月7日 中部電力浜岡原子力発電所見学

我国は電力の3割以上を原子力発電に頼っていて、今後もその比率は増すものと考えられる。原子力発電そのものは工学と強いつながりを示すが、その中でも放射線管理は重要な一部であり、放射線技術科学専攻とも強い関係がある。そこで、放射線管理学の一環として、3年生が中部電力浜岡原子力発電所で管理区域への入退出を実際に行い、中央制御室、タービン建家等を見学した。

2月5日 臨床実習のための病院見学

4年生の前期・後期に行われる病院実習のために、3年生が名大付属病院の外来一般撮影部門、中央検査部門、RI検査部門、放射線治療部門、PET等を見学した。

講習会

7月30～8月1日 EGS4（モンテカルロシミュレーション）講習会

高エネルギー物理学研究所で開催された第9回EGS4研究会の一部であるEGS4（モンテカルロシミュレーション）講習会に学生1名を参加させた。EGS4は放射線の挙動を計算により求める点で理工学分野において広く使用されてきたが、最近では保健物理や医療の分野で応用されつつある。特に線量分布決定等これまでの手法ではあまり精度がなかった領域で有用性が認められてきたため、X線治療における線量分布決定の補助手段として増々モンテカルロシミュレーションが利用されると考えられる。

大学説明会

8月3日（金）豊田講堂及び経済学部第1講義室

午前中に行われた全学説明の後、午後は経済学部第1講義室に移り保健学科進学希望者に対し説明と懇談を行った。まず、保健学科進学希望の高校生全体に対し学科長より保健学科の概要について説明がなされた後、放射線技術科学専攻の概要と放射線の有効利用について説明した。個々の専攻に分かれた時間帯では、放射線に興味のある高校2年生が本人の進路を決定するにあたり、多くの質問をしてきた。又、放射線に対する不安を抱く学生に対して、一般的な使用では放射線が安全であることを説明しむやみな不安を解消した。

編入学試験

9月1日（土）本館講義室

本学3年次編入学希望者を対象に試験を行い、全国の短期大学からの受験者17名の内5名が合格した。

3. 研究活動

個々の専攻教官独自の研究活動及びグループによる研究活動に加え、専攻以外との共同の研究活動も行っている。以下に示す研究活動はその一部である。

医療用ライナックから放出される光中性子の計測実験（青山、小山、緒方）

9月19～20日、11月29日、1月21日：名古屋大学医学部附属病院

医療用ライナックから光核反応で放出される中性子による患者被ばく線量を評価するため、人体ファントム中の中性子フルエンス率並びにフルエンス分布を測定する実験を名古屋大学医学部附属病院放射線部と共同で行った。

γ 線放出率精密測定（宮原）

6月11～15日、10月29～11月2日：京都大学原子炉研究所

京都大学原子炉研究所の原子炉を使用して、濃縮安定同位体を中性子照射することにより中性子過剰核である ^{65}Ni 、 ^{72}Ga 、 ^{122}Sb 、 ^{127}Te 等を製造し、名古屋大学より持ち込んだ $4\pi\beta\text{-}\gamma$ 同時計測装置により測定を行い、 γ 線放出率を精密測定した。

4月2日、10月2日：日本原子力研究所

日本原子力研究所のタンデム加速器を使用して、濃縮安定同位体を陽子照射することにより陽子過剰核である ^{56}Co 、 ^{66}Ga 、 ^{147}Eu を製造し、その後名古屋大学に持ち帰り $4\pi\beta\text{-}\gamma$ 同時計測装置により測定を行い、 γ 線放出率を測定した。

4. 対外的または社会と関わりのある活動

日本放射線技術学会及び日本放射線技師会のメンバーを主な対象として、画像の取得・評価、診断領域X線の線量測定等について、講演や講習を行い、診療放射線技師の質的向上と患者を含めた被曝低減への活動を広く行った。又、国立大学診療放射線技師教育施設協議会及び全国診療放射線技師教育施設協議会に参加し、カリキュラムの大綱化、国家試験ガイドラインの案作成に協力してきた。

地域における活動としては放射線障害防止法に基づく放射線業務従事者の新規教育、再教育に講師として専門知識を社会に還元し、さらにはX線作業主任者試験受験のための講義を行い社会に貢献した。又、地域にとどまらず全国的に放射線に対する理解を深めていただくため、中学生や教諭をはじめ老年層までを対象として講演・実験などを行い社会的な啓蒙にも務めている。

国際的な観点においては、小寺吉衛教授が日本の代表委員としてISOのTC-215委員会に出席し、日本放射線技術学会が診療放射線分野でISO規格を取り入れ標準化を行うための作業を行っている。田伏勝義教授はIAEA-RCAによる放射線によるガン治療における放射線生物学的、物理学的観点に対するトレーニングに講師として貢献した。宮原洋教授はICRMの日本代表委員の一人として会議に出席し、放射能計量学の発展のために努力した。

（主任：宮原 洋）

検査技術科学専攻

本専攻は、高度に専門化した医療に対応できる基礎力と応用力を備え、かつ医療人として不可欠な倫理観に裏付けられた豊かな人間性を備えた臨床検査技師、さらに検査技術科学を学問として追及する教育・研究者を育成することを目的としている。

1. 運営

本専攻は2つの大講座によって構成されているが、講座の壁をなくし、専攻が一丸となって運営している。

(1) 基礎検査学講座：人体から得られる、あらゆる情報を分析・整理・総合して、健康状態や病的状態を把握するために、生体情報修得のためのハードウェアおよび情報処理のソフトウェア、生体情報取得のための管理・運営と精度管理の方法、人体に関する外的病因を環境分析によって認識する方法等、科学的根拠の提供に必要な基礎知識および技術について教育・研究を行う。

(2) 病因・病態検査学講座：生体情報の基礎的理解に基づき、病原体および病因を病原体側と宿主反応側から検索する方法、形態変化としての情報を認識する方法、生理機能の変化を情報として記録・認識する方法、体液・分泌物・排泄物等の検体物中微量物質の変化を主として化学的・物理的に情報化する等、病的状態の把握や病因の解析に必要な知識および技術について教育・研究を行う。

学年進行に伴い、本専攻に2名の助手の定員増が認められ、平成13年4月、基礎検査学講座に川村久美子助手（名古屋大学医学部附属病院検査部）と巽康彰助手（金沢大学大学院自然科学研究科博士課程）を迎え、教官の総数は19名となった。

専攻の運営は全教官が参加する専攻会議の決定に従って行われた。専攻会議は第2と第4水曜日の12時および第1と第3水曜日の5時30分から開催された。

2. 教育活動

- 4月に第4期の入学生40名（推薦入学生10名、前期試験入学生22名、後期試験入学生8名）を迎えた。
- 4月の新入生ガイダンスには専攻主任、学生生活担当教官、学生教育担当教官と全員の学生が参加し、専攻の教育と学生生活のガイダンス、教官の紹介、指導教官の紹介、学生の自己紹介などが行われた。
- 4月の第2期編入生ガイダンスには専攻主任、学生生活担当教官、学生教育担当教官が教育と学生生活、教官紹介、研究室紹介、研究指導教官などについて説明した。
- 4月には検査技術科学専攻の2年生が中心になって教官と共に新入生歓迎会を大幸会館にて開催した。
- 全学共通教育の総合科目「生体情報と健康」を放射線技術科学専攻の教官と共同して担当した。
- 9月に第3回の3年次編入試験を行い、6名の合格者を決定した（北海道大、筑波大、信州大、藤田保健衛生大、鳥取大、徳島大の医療技術短期大学部）。
- 第1期生の臨地実習を充実させることを目的に医学部附属病院検査部の教官および技師との合同会議を9月に開催した。
- 大綱化および文部科学大臣指定校規則に基づいて、教育カリキュラムを再編した。
- 第1期生の第48回臨床検査技師国家試験（平成14年9月13日、3月1日）の合格率を上げるために、全教官による教育指導と3回の模擬試験を実施した。その成果として合格率が95%と極めて高い合格率をあげることができた。
- 平成14年3月には本専攻の第1期生の卒業生として、編入生を含めて43名を社会に排出した。なお、10名が大学院修士課程への進学を希望し、就職希望の33名は国公立大学病院、公私立病院等の検査部に就職できた。

3. 研究活動

本専攻では大学院修士課程設置に向けて各系独立型および融合型の研究体制を構築し、研究設備の充実に重点を置き、大学院修士課程病態解析学分野への大学院生の受け入れ態勢ができた。その結果として研究活動が活発になり、

国際学術雑誌への投稿論文数と国際学会への発表演題数が増加してきた。また、その成果の1つが9月28日に開催された第1期生による卒業研究発表でもある。以下に各講座における卒業研究発表内容を示す。

【免疫・微生物系（病因病態解析学）】

担当教官：長瀬文彦、伊藤秀郎、杜 軍、川村久美子

1. メタロ-β-ラクタマーゼ産生菌の耐性機構と検出法
2. Disk法を用いた臨床分離グラム陰性桿菌におけるメタロ-β-ラクタマーゼ遺伝子の保有分布調査
3. インフルエンザ脳炎・脳症患者における血液・脳脊髄液中セレクチン、サイトカイン
4. Methylglyoxalが誘導するアポトーシスのPMAによる抑制

【病理系（形態情報解析学）】

担当教官：横井豊治、倉科正徳、橋本克訓

1. 乳腺症を主体とした筋上皮の組織所見と細胞所見について
2. 硬癌を主体とした浸潤性乳管癌の再発予測の検討
3. 肺癌・胃癌におけるEBVのPNA-ISH法を用いた解析
4. パソコンによる遠隔細胞診断と教育資料作成に関する基礎的研究
5. 陳癌・胃癌におけるp53遺伝子およびタンパクの酵素抗体法およびFISH法を用いた解析

【生理系（生体生理解析学）】

担当教官：古池保雄、岩瀬三紀、野田明子

1. 緑膿菌由来エンドトキシンにより惹起される心血管動態の変容
2. 肺高血圧症の発症進展過程における心エコー所見—病理所見と対比して—
3. 睡眠時の自律神経活動—皮膚交感神経活動の動態—
4. 閉塞性睡眠時無呼吸症候群における心拍変動における自律神経機能評価
5. 閉塞性睡眠時無呼吸症候群と動脈硬化
6. 閉塞性睡眠時無呼吸症候群におけるValsalva試験による圧受容体反射機能評価

【血液系（分子病態解析学）】

担当教官：村手 隆、小嶋哲人、高木 明

1. スフィンゴ脂質代謝の調節機序の解明（hSPHK2における遺伝子構造の決定とプロモーター解析に向けて）
2. スフィンゴシンキナーゼのプロモーター解析—スフィンゴ脂質代謝の調節機序の解明に向けて—
3. TPAおよびTPOによるTIMP-1の発現誘導機序の解析—5'-promoter領域の解析を中心に—
4. TIMP-3遺伝子promoterのTPA responsive elementの同定
5. Long PCR法を用いた血液凝固第VIII因子遺伝子の逆位解析
6. ウサギへのNaked DNA皮内投与による抗マウスPAI-1抗体の作製
7. 発現ベクターを用いた抗マストロンボモジュリン抗体の作製
8. Naked DNA皮内投与による抗マウスTissue Factor抗体の作製
9. ウサギへのNaked DNA皮内投与による抗マウスProtein C抗体の作製
10. ウサギへのNaked DNA皮内投与による抗マウスTFPI抗体の作製
11. 発現ベクターを用いた抗マウスアンチトロンビン抗体の作製

【分析系（病態化学解析学・環境病因解析学）】

担当教官：高木健三、長谷川高明、高木健次、柴田英治、北市清幸、巽 康彰

1. ウルトラフィルトレーション法を用いたカテコールアミン測定に関する基礎的検討
2. エンドトキシンで誘発される肝薬物代謝酵素活性の低下におけるサイトカインの関与
3. 覚醒剤依存症動物モデルにおける覚醒剤体内動態の変化に関する研究
4. 生理活性ペプチドによる肥満細胞からのヒスタミン遊離機構に関する研究
5. フタル酸エステルの環境中の濃度・挙動と生態系への影響
6. TO-2ハムスター（拡張型心筋症）における心筋逸脱物質の血中濃度の継時的変化と生化学的診断の試み

7. 職場環境を原因とするシックハウス症候群を呈した1例

4. 対外的な、または社会と関わりのある活動

A) 国際交流

長谷川高明教授および高木健次助教授は華西医科大学国家漢方薬安全性研究所建築プロジェクト会議と共同研究打合せのため、平成13年7月21日～29日に中国成都市を訪問した。また、長谷川教授は同研究所研究員であるZhao Ying Lan医師を本学科外国人特別研究員として迎えた。

野田明子助手は平成13年6月に開催された米国睡眠学会に参加、Association of Polysomnographic TechnologistによるComprehensive Registry ExaminationによりRegistered Polysomnographic Technologist (RPSGT)を取得した。また、睡眠検査医学の向上のため、California Center for Sleep Disordersを視察した。同助手は平成13年9月に睡眠医学の権威であるElliot A. Phillipson博士との研究交流を進めた。

B) 大学間交流 - 国立大学検査技師教育施設協議会

平成13年度は九州大学医療技術短期大学部を主幹校にして、6月に第38回国立大学臨床検査技師教育施設協議会が開催された（出席者：古池教授、伊藤教授）。検査技師養成資格を持つ国立大学が文部科学省指定校でない現状に対して、国立大学医学部保健学科検査技術科学専攻の「文部科学大臣指定学校」への申請の是非について検討することになった。

C) 地域との連携

古池保雄教授は医師、検査技師に対する問題脳波の検討・相談を目的に毎月1回東市民病院地域連携室にて中部脳波研究会を主催した。また同教授は自律神経懇話会、睡眠研究会及び基底核研究会の世話人として活発に東海地区の幅広い神経学領域の研究交流を促進した。また、同教授は野田助手と共に、平成11年4月に開設された睡眠呼吸障害外来（いびき外来）を継続させ、平成12年度から鶴舞キャンパスの病棟において入院検査も開始し、検査機能の向上を図った。将来、地域の睡眠障害センターの設置とともに、本学学生が高度医療技術を習得するための教育と研究の場としての発展を目指す。

横井豊治教授は専門である呼吸器疾患の病理診断学の知識と経験を生かし、日本病理学会の呼吸器コンサルタントとして、東海地区を中心とする多数の医療施設より、呼吸器疾患を中心に病理診断のコンサルテーションを受け入れている。平成13年度は約100例の症例を検討・報告し、各施設における呼吸器領域における診療・研究に貢献した。また、同教授は東海びまん性肺疾患研究会の病理コンサルトとしても3回の症例検討に参加し、びまん性肺疾患の診断治療の研究に貢献した。

小嶋哲人教授は医師、検査技師を対象とする東海血栓症研究会、東海血栓症セミナー、ならびに凝固線溶セミナーの世話人として活発に東海地区の幅広い血液凝固学領域の研究交流を促進した。また、同教授は愛知県特定疾患研究協議会において血液凝固異常症調査研究を行った。

村手隆教授は愛知県特定疾患研究協議会の構成員として研究報告を行った。また、同教授は愛知県特定疾患認定審査会議構成員として審査にあっている。

岩瀬三紀助教授は関西不全心研究会世話人として、また第17回東海心機能研究会および第3回東海ハートセミナーを当番世話人として主催し、関西地区および中部地区の「心不全に対する基礎から臨床にいたる幅広い研究」の交流を積極的に行った。さらに内科専門医会の評議員、役員として、循環器領域のみならず広い臨床領域にわたる内科学会の活動を行っている。

高木健三教授は愛知・岐阜在宅酸素療法研究会および東海喘息研究会の会長として、また愛知成人喘息研究会および愛知県RTI研究会の代表世話人として、呼吸器・アレルギー領域の東海地区における医師、医療従事者の卒後教育の一端を担った。

伊藤秀郎教授は愛知県下11病院の検査部細菌室の臨床検査技師との共同研究として高度薬剤耐性菌の分布状況調査や耐性機構の解析を行った。また、同教授は愛知県健康福祉部主管の精度管理専門委員として、県下の登録衛生検査所の立ち入り指導調査を行い、調査結果を報告した。

柴田英治助教授は愛知県衛生研究所・旭労災病院との共同で殺虫剤散布作業者の殺虫剤曝露評価のための生物学的

モニタリングに関する研究を行った。また、同助教授は名古屋市衛生研究所との共同でシックハウス症候群症例の環境調査などの研究を行った。

(主任：長谷川高明)

理学療法学専攻

本専攻は、学士課程を有する理学療法士の教育・研究機関である。また、平成14年度からは、大学院修士課程が保健学科に設置され本専攻は作業療法学専攻とともにリハビリテーション療法学専攻を構成し、さらにこの分野の高等教育を担うことになった。本専攻の教育・研究目標は、高度医療・技術を支える豊かな人間性の形成を基本とし、理学療法に必要な基礎・臨床医学的知識を身体機能と障害の観点から再編して、体系化し、機能と障害を生体の情報として分析・評価し、それらの回復や予防への科学的関連づけを可能にすることである。これにより新たな理学療法を理論的に構築し、より高度な知識と技術を身に付けた理学療法士を養成するとともに、最近必要性が高まりつつあるスポーツ障害リハビリテーションや生涯スポーツ医科学領域への道を開き、さらに高齢社会に対応できるよう地域や高齢者に対する理学療法を強化する。さらには、理学療法研究を通じて理学療法を実証的学問として確立し、医療の場、教育の場、地域において指導的役割を果たすことができる教育・研究者の養成を目指している。開設以降、こうした理念・目標を理解した有能な学生が入学してきている。また、平成14年度から、さらに選りすぐられた大学院生が入学し、研究の質を高めてくれることが期待される。

1. 運営

本専攻は教官総数10名により基礎理学療法学講座と病態理学療法学講座の2大講座から構成されているが、専攻運営は、講座の壁をはずし全教官による専攻会議（毎週水曜日12時から開催）における協議の決定にしたいが進められている。

(1) 基礎理学療法学講座：理学療法研究の基礎となる知識や技術を開発・発展させるための生体の構造と機能を関連づけた体系的な基礎教育、身体運動からみた人体機能の体系的教育、機能と障害に重点を置いた臨床医学実践の基盤となるような基礎（医学）教育、機能異常や障害を病態として把握し的確な分析・評価能力を培う教育を実践しつつ、それらを裏付けるための研究を推進している。

(2) 病態理学療法学講座：理学療法の実践に必要となる科学的知識と技術を発展させるため、経験や感覚に頼りがちな生体反応の認識を生体情報として定量的に評価すること、障害を機能的に分析し理学療法の適用との理論的関連を追求すること、またそれらを通して障害からの回復のための治療法・障害の予防方略などに科学性を持たせることを目標とし教育・研究を行っている。

これらの教育・研究を実践するため、全教官が基礎的テーマと臨床的テーマをできるだけ合わせ持つようにして、研究を推し進めている。

病態理学療法学講座の講武芳英講師の後任として、本専攻河上敬介教官が新講師に昇任し、教育・研究・専攻運営にますます積極的に活動している。また、短期任用教官の宮津真寿美助手、加藤智香子助手は継続任用となり、専攻の強力な戦力になっている。

2. 教育活動

4月に保健学科理学療法学専攻第4期生として21名の入学生を迎え入れた。内訳は推薦入学5名、前期日程試験入学11名、後期日程試験入学5名であった。男子学生9名、女子学生12名であった。また、編入生3名（1名が短大出身、2名が専門学校出身）を受け入れた。その時点での保健学科としての学生数は、第1期生20名、第2期生18名、第3期生22名、第4期生21名、3年次編入生8名であった。この結果、保健学科として四年制大学の学年進行が完成された。

4月11日（水）に理学療法学専攻・作業療法学両専攻合同で、在校生ガイダンスを開催し、各学年別に1時間ずつを使い、13年度のカリキュラムの説明、学生生活のルールの再確認を行った。学部教育委員、学生生活委員、授業担当教官がこの説明会を担当した。

4月15日（土）に専攻内での新入生ガイダンスを行った。年度の始めの土曜日半日を使い、在校生、新入生、教官が全員参加し、新2年生が幹事となり、全員自己紹介、スポーツリクレーション（バレーボール、体育館）、懇親会（大幸厚生会館）を通じて人間的交流・連携の強化を達成した。まだ入学して間もない新入生の緊張を解きほぐすた

めの良い企画であった。

4月18日（水）午前中の授業の一部を割愛し、新入生と理学療法学専攻、作業療法学専攻の全教官との顔合わせを行い、さらに大幸キャンパスにおける学生生活のルール説明、注意点の説明が学生生活委員によってなされた。

連休明けの5月7日（月）から、4年生の臨床実習Ⅱ・Ⅲが始まった。これは保健学科第1期生として初めての長期連続の臨床実習であった。この実習は各種疾患を観察し、臨床実習指導者のもとに基本的検査技術を実施することを目的としている。多くの不安を抱きながら、今年度は14名が実習先に向かった。4週ごとに反省会が行われ、種々の問題点などが指摘されたが、全員無事この実習を終えることが出来た。この実習の反省のもとに、次年度からは実習Ⅱ・Ⅲの前に、臨床実習Ⅰの一部として学内実習を施行し、Ⅱ・Ⅲの実習に備えることとなった。

5月23日（水）、3年次編入生8名と指導教官2名で編入学後の状況把握と相互理解のための話し合いを持った。内容はおもに教科履修、研究テーマ、学生生活についてであり、現況および将来構想、大学への要望など活発に話し合った。今後も毎年開催する予定にしている。

6月2日（土）～3日（日）にかけて、1年生21名（全員）、2年生14名、3年生8名、4年生4名、教官7名、職員1名、講師1名、医療短期大学部卒業生1名の参加のもと、中津川東海地区国立大学研修センターにおいて厚生補導特別企画が実施された。この企画は、新入生がスムーズに快適で充実した大学生活を送れるようにするための導入部としての研修旅行であり、教官・職員・学生・先輩・後輩が寝食を共に生活することにより、縦と横の強い人間関係を構築することを目的として、短期大学部時代から毎年実施されてきたものである。今年度は、1日目に広島大学大学院医学系研究科博士課程在学中の山田崇史氏（名古屋大学医療技術短期大学部理学療法学科第11期生）の講演「学際領域での理学療法士の役割」、スポーツ活動（バレーボール、ソフトボール）、懇親会を開いた。とくに山田氏の講演は理学療法学における研究の意味、なぜ氏が大学院進学を目指したか、氏自身の大学院での研究成果、理学療法士の卒後の進路を明確に示し、将来理学療法士としてどのように研究や臨床に関わっていくべきかについて、学生に強烈な印象を与えた。2日目は研修所の周囲一帯にある夜明けの森のハイキングに約半数が参加し、残りの者で再びスポーツ活動を行った。企画の目的は十分に達成し得た。小林教授、鈴木教授が担当した。

6月6日（水）の名大祭第1日目の夕刻、保健学科別館中庭において、理学療法学・作業療法学両専攻の学生・教官を交えて、バーベキューパーティーを開催し両専攻の交流を図った。

7月28日（土）午後3時から、平成14年度設置予定の保健学科大学院修士課程の理学療法学専攻の説明会が行われた。本学医療技術短期大学部卒業生を中心に数十名が参加し、説明に聞き入った。多くの質問もなされた。猪田教授、河村教授が説明を担当した。

8月3日（金）に開催された名古屋大学説明会では、近隣の高校生が多数参加し多くの質問と回答が交わされた。本専攻への質問も鋭くかつ多く、高校生の興味の深さが示された。河村主任が担当した。

9月1日（土）に編入学試験を実施した。今年度は専門学校出身者が3名受験し、3名とも合格となった。

前期補講期間を用い、9月3日（月）～7日（金）の5日間、夏期特別実習（人体解剖実習）が開催され、理学・作業両専攻の多数の学生が参加した。指導は両専攻の教官が共同で行った。医学部主催の人体解剖トレーニングセミナーで解剖された遺体が提供された。学生にとっては、人体構造と機能の理解を深めるとともに、遺体に対する感謝の念を通して人の命の尊厳を考え、将来の医療人としてのあり方を考えるよい機会となった。

後期授業では4年生の卒業研究の後半部分が再開され、12月7日（金）に大学院講義室において、最終発表がなされた。編入生を含め19題の発表があり、活発な討論がなされた。研究テーマは動物の炎症モデル実験5題、動物脳出血モデル実験3題、動物関節拘縮モデル実験1題、疼痛生理関連実験3題、自律神経系研究1題、筋生理関連研究2題、リハビリテーション臨床関連研究4題であった。この発表会には1、2年生も参加し、将来の自身の研究の参考になったと思われた。また、3年生の卒業研究中間発表会が平成14年2月27日（水）に大学院講義室で行われた。合計20題の発表があった。

平成14年3月25日（月）には保健学科第1期生の卒業式が執り行われた。本専攻は14名の新卒業者を世に送り出した。

後期期間中に隣接する大幸医療センターの改装工事が完成し、本専攻は新たに2研究室を開設した。現在、それぞれの研究室の体制・設備を整備している最中である。

今年度中に開催された特別講義は以下の如くであった。

- 1) 「小児疾患の理学療法」講師：小塚直樹（札幌医大助教授）、平成13年11月28日（金）
- 2) 「循環器の理学療法」講師：山田純生（聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部課長補佐）、平成14年1月16日（金）
- 3) 「修士課程の現状と問題点及び博士課程設置に向けての課題」講師：石川齋（神戸大学副学長）、平成14年3月13日（金）

3. 研究活動

前述の通り本専攻は、全教官が基礎的テーマと臨床的テーマを可及的に併せ持つように努力し、研究を進めている。各教官の研究テーマは、以下の通りである。

猪田邦雄教授：「関節の生理・バイオメカニクス・病態とリハビリテーション」、「関節の拘縮と軟骨代謝」、「高齢者の関節疾患と医療経済」

小林邦彦教授：「関節拘縮の病態と微細構造」、「コラーゲンの分子解剖学—分子レベルの可視化—」、「結合組織と運動器の肉眼および微細構造」

辻井洋一郎教授：「外力刺激と炎症のメカニズム」、「筋痛症候群の病態と治療」、「徒手療法の臨床的効果」

河村守雄教授：「実験的異所性骨化と関節運動および不動化の関係」、「骨形成因子の特性と臨床応用」、「高齢者脊椎手術とリハビリテーション」

鈴木重行教授：「実験的炎症モデル動物を用いての理学療法的治療への応用」、「女性尿失禁に対するバイオフィードバック療法」、「筋・関節ストレッチングの臨床的効果」

木山喬博助教授：「超音波の皮膚・筋・骨における反射・吸収・透過」、「物理療法機器の特性と臨床効果」

河上敬介講師：「機械刺激に対する培養細胞の形態応答のメカニズムの解明」、「伸張刺激による骨格筋の可塑性のメカニズム」、「筋・筋膜連結の形態と臨床的意義」

肥田朋子助手：「炎症時における交感神経機能と皮膚血流動態」、「筋痛と筋特性の関連性」

石田和人助手：「脳出血モデル動物における中枢神経の病理変化」、「脳出血モデル動物を用いての運動療法の効果」、「ニューロンの最初期障害像の解析とその予後に関する研究」「地域リハビリテーションと理学療法士の役割」

宮津真寿美助手：「伸張刺激による内皮細胞の細胞骨格・接着斑の動態」、「伸張刺激による骨格筋の可塑性のメカニズム」

加藤智香子助手：「高齢者の筋力・バランス」、「転倒予防」

現在は、これらの研究テーマをもとに、リハビリテーションに関係した臨床系の研究、生体の微細構造究明に関する研究、物理療法の機器の開発と治療効果に関する研究、モデル動物を用いた各種病態究明と治療・予防法の確立に関する研究の4本柱を構築して、それぞれの研究室を整備・充実している過程である。

4. 対外的な、または社会と関わりのある活動

今年度も臨床実習指導者連絡協議会（スーパーバイザー会議）を2回開催した。第1回は平成13年6月28日（木）に行い、今年度が第1回目となった臨床実習Ⅱ・Ⅲの反省を中心に会議を進めた。さらに臨床実習Ⅰの概要と本学の臨床実習の理念と流れについても協議を行った。第2回は平成14年2月7日（木）に開催し、臨床実習Ⅰの反省と次期に始まる臨床実習Ⅱ・Ⅲおよび理学療法コミュニケーションの実施方法について協議を行った。

専攻代表が今年度出席した学外関係会議は、臨床実習東海地区理学療法士養成施設連絡協議会（6月1日および11月16日、会場：中部リハビリテーション専門学校）、全国理学療法士・作業療法士学校養成施設連絡協議会（6月16日、会場：横浜市）、第4回国立大学理学療法士・作業療法士教育施設協議会（10月25日、26日、担当：群馬大学）であった。なお、第5回国立大学理学療法士・作業療法士教育施設協議会は本学が担当することになった。

平成13年7月28日に愛知医療学院（名古屋市）にて行われた「高校生向けの理学療法士養成校紹介」に出席し本学及び本専攻の特徴等をアピールした。

その他の対外活動としては、隣接する大幸医療センターにおいて、河村守雄教授は毎月第1木曜日に腰痛相談室を開き、日頃腰痛に悩む地域住民の問題解決に当たった。また、猪田邦雄教授の転倒予防・骨粗鬆症外来と鈴木重行教授の女性尿失禁対策の外来が開設された。

(主任：河村守雄)

作業療法学専攻

作業療法学専攻は作業療法に関する論理的学問体系を確立し、作業療法学領域のスペシャリストの養成と教育・研究者の育成を目的として設置された専攻である。ちなみに作業療法とは人間行動の本質的な理解の上に立って、自己自らが積極的、創造的で生産的な生命活動を導き出すことで障害を克服ないし、受容して生きることを支援するリハビリテーション科学の1分野である。

本専攻は基礎作業療法学講座と病態作業療法学講座の2つの大講座から構成されている。

基礎作業療法学講座は人体構造機能学、神経障害学、精神障害学といった作業療法の基礎となる学問領域で構成されており、人体の構造と機能に関する研究、精神あるいは神経障害の病態の分析と評価が主要な教育・研究領域である。

病態作業療法学講座は作業療法理論、作業評価学、作業治療学、地域作業療法学に関する教育と研究にあたっている。また病態作業療法学講座は対象となる障害によって身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害の各領域について研究している。同時に領域を越えた総合的な視点での研究にも対応できるように学際的領域や情報科学など関連領域との交流にも心掛けている。

このように本専攻の教官は、それぞれ医学分野と作業療法学分野の各領域の教官から編成され、各々の背景分野を生かした研究活動を通してともに作業療法学の発展に資するよう努力をしている。

1. 運営

本専攻の運営は全員参加して行われる毎週水曜日の専攻会議を中心に行われる。またさまざまな点で密接に連携をとっている理学療法学専攻との月1回の両専攻会議も専攻運営上重要な会議となっている。こうした会議では予算、教育、学生生活など学科の委員会から求められた専攻の意向や方針が審議決定される他、実習や成績判定など専攻独自の方針や行事予定が審議決定される。また各教官がそれぞれ専攻運営のために19種類にもおよぶ専攻の任務を分担して担っている。

人事的には本年度山田恭子助手が9月30日付けで新設の星城大学リハビリテーション学部の助教授として栄転された。その後任には森明子を選考し、3月16日に就任した。彼女は当専攻にとって初めての本学卒業の作業療法士である。

大学院修士課程の設置準備が最終段階を迎え、保健学科全体の中で専攻に関する設置申請書類の作成と同時に、学生募集要項(案)、教育課程表、授業計画表、講義要覧などを作成した。こうした準備作業は教官数の少ない本専攻でも大きな専攻と同じように行わなければならない教官の負担は実に大きなものがあった。大学院設置準備として7月28日大学院ガイダンスを理学療法学専攻と共同して開催した。

2. 教育活動

専攻として初めての4年生の総合臨床実習は大過なく終了し、まずまずの成績と臨床実習指導者の評価を得ることができた。さらに4年生は後期から卒業研究、就職活動、卒業研究発表会、国試準備と慌ただしく過ごし、全員が卒業にこぎ着けることができた。また、大学院に進学した3名を除く全員がそれぞれ希望する医療機関などに就職することができた。

保健学科完成年度以降の新生生に対する新カリキュラムの改正作業が理学療法学専攻と共同歩調で行われたが、臨床実習や作業分析学実習の実施時期の変更や大綱化に伴って学生の過重な講義負担を解消し、ゆとりある人間教育を進めるための改正作業が行われた。

3. 研究活動

当専攻の教官はそれぞれの異なった専門分野から構成されているため、専攻としての共同研究が成立しにくい側面を持っている。そのため専攻の研究は各個研究が多くなっている。

(1) 共同研究

- a. スモン患者の運動能力評価に関する研究（杉村、清水、美和、宝珠山、伊藤）
- b. スモン患者の基本動作時間の経時的変化に関する研究（清水、杉村、美和、宝珠山、伊藤）
- c. 若年スモン患者のADLとQOL（伊藤、杉村、清水、美和、宝珠山）

(2) 各個研究

- a. 老年痴呆の障害分析学的研究（杉村）
- b. 老年痴呆患者の行動評価法の開発（杉村）
- c. 介護老人保健施設等における作業療法の効果に関する研究（田川）
- d. 老人痴呆患者の問題処理能力等の定量的評価に関する研究（田川）
- e. 分裂病の精神病理学的研究（鈴木）
- f. 青年期の精神医学的研究（鈴木）
- g. 神経疾患の性差に関する研究（鈴木）
- h. 動物介在療法（原）
- i. 介助犬に関する研究（原）
- j. 補装具と福祉機器に関する研究（原、伊藤）
- k. 作業療法の歴史に関する研究（加賀谷）
- l. 作業療法と自律神経機能に関する研究（美和）
- n. 精神障害に対する作業療法介入効果に関する研究（美和）
- m. 水浸と入浴の自律神経機能に与える影響に関する研究（美和）
- o. 脳磁図と体性感覚に関する研究（宝珠山）
- p. 自閉症児に対する作業療法介入効果に関する研究（山田）
- q. 認知機能と情動の関係についての研究（清水）
- r. QOLに関する研究（清水）
- s. 地域リハビリテーションシステムに関する研究（伊藤）
- t. 住宅改造における作業療法介入の効果に関する研究（伊藤）
- u. 精神分裂病に対する作業療法介入効果に関する研究（向）
- v. 児童虐待の精神心理学的研究（向）

4. 対外的な、または社会と関わりのある活動

教育面では、国立大学理学療法士作業療法士教育施設協議会総会に出席し意見を交換し、さまざまな有益な情報を得た。また次年度の総会開催当番校として準備活動を行った。

全国理学療法士作業療法士養成施設連絡協議会に出席し作業療法教育に関する諸問題、養成校の抱える諸問題を討議した。

各教官がそれぞれ市町村が行う機能訓練事業やヘルパー養成、介護実務者研修などに講師として協力した。

介護保険に関しては介護認定審査会委員、介護支援専門員の指導などに参画した。

各種の公開講座や市民のための講演会に講師として協力した。

このように当専攻では少数の教官が忙しい教育、研究の合間をぬってできるだけ市民のための、あるいは他職種のための教育活動に参画し、協力してきた。

(主任：杉村公也)

2. 公開講座 (平成13年度)

ケアの時代 ―少子高齢化社会の暮らしの中で―

名古屋大学医学部保健学科では、医療短期大学部からの昭和58年以来、健康問題や医療問題を中心に人間生活に関する公開講座を開催し、多くの皆様に参加して頂いて参りました。今回は、看護学専攻が中心になり、現代の少子高齢化社会の暮らしにおいて必要とされる心と身体の幅広い「ケア」をテーマに、名古屋大学医学部保健学科大講義室において講義を計画しました。特に、実践の紹介を通して、日常生活で困った時には、どのように対応するのかという具体的な場面を展開しながら公開講座を開催しました。

実施要綱

主 催	名古屋大学医学部保健学科
後 援	愛知県、名古屋市、名古屋大学医師会、愛知県医師会、名古屋市医師会、名古屋市教育委員会
開催日時	平成13年9月8日（土）14：00～16：00 9月22日（土）14：00～16：00
開催場所	名古屋大学医学部保健学科大講義室
募集人員	150名
受講料	4,500円
修了書	3回（3つの講演題目）以上出席の受講者に修了書を授与

講義題目（講義内容）と講師

第1回 9月8日 「患者・家族を支えるターミナルケア」（安藤詳子助教授）

「ターミナルケア」とは、「この世から死後の世界への渡し守のような役目を果たす」ケアと捉えることができます。看護職は、一般病院・緩和ケア病棟・訪問看護ステーション等のスタッフとして、患者と家族の生活場面に触れながら、その人らしく日々を過ごせるようケアに努めています。緩和ケア病棟についてスライドによる施設紹介や全国の所在地一覧表を示し、ターミナルケアに携わる人々や緩和ケアチームに関する情報を提供しました。また、全人的苦痛としての身体的・精神的・社会的苦痛およびスピリチュアルペインとその対処法、家族の悲嘆とそのサポートについて述べました。そして、全ての人が生まれたときからもっている死の迎え方の課題について共に考えました。

第2回 9月8日 「病院と在宅のケアの連携」（前川厚子教授）

慢性疾患や障害をもちながら病院から在宅ケアに移行する患者さんは、退院が決まったそのときから生活課題への取り組みが始まります。医療と福祉面の複合的な課題を持つ高齢者や障害者は「要介護者」として認定される場合、介護保険法の制度のもとに多職種が構造化され、ケアマネジメントによってケアが提供されます。クライアントの視点からのケアの見直し、在宅療養の対応、費用効果の評価について話題提供しました。

さて、内部障害者（心臓、呼吸機能、膀胱または直腸機能障害等）では生涯における医療管理下の生活を余儀なくされます。継続教育を通じ、在宅ケアサービスの充実を目指しつつ、クライアントに喜ばれる具体的なケアのあり方を障害別に紹介しました。

第3回 9月22日 「健康の記録がケアを深める」（飯田美代子助教授）

少子高齢化の時代においては、自己の責任のもとで、自己決定・健康自己管理の健康増進が求められています。古来から病気・健康に関する日記は存在し、その一般的な効用は自己洞察、備忘録、コミュニケーションとして挙げられています。19世紀頃からは心理学や精神医学の分野で個人的な日記が注目され、治療に利用されて来られています。健

健康管理の日記の種類は、食事日記、闘病日記等12種類以上あります。健康管理日記を書くためには、「何を書くかを定める」「どのように書くかの様式を決める」ことです。共同記録の日記では、医療者も共同で記入した記録の活用を直接見ていただきました。

第4回 9月22日 「子どもが育つということ」(安田道子教授)

最近の若者は、いつも周りに気を遣って合わせていたり、親や世間の「こうすべき」という基準に従って生きています。これは、小さい時から母親の期待に応えようとして良い子になりすぎているために、自分の「こころ」を見失い、「こうしたい」とか「こう思う」という自分自身の感覚に自信が持てないからです。こうした心の発達の歪みが、不登校や鬱状態につながっていること、したがって、親や教師は自分の期待を押し付けず、子どもの様子を見て育て方を修正したり、自分の価値観を見直すことが大切であることを、具体的な事例や発達の理論を踏まえて、解りやすく説明させていただきました。

今回の講座は44名の方が受講されました。受講者の年齢層では30・40・50歳代の方が多く、20から70歳代の方まで幅広いものでした。職業別では「主婦」と「看護師」が最も多く、続いて「介護職員」、「保健師」が多く、「会社員」、「事務員」、「パート」の方々でした。公開講座のアンケート項目、1) 参加の動機、2) 本公開講座を知った経緯、3) 受講後の感想、4) 開設時期、曜日、場所、受講料等気がついた点、5) 今後、希望するテーマにそって集計した結果を報告します。

1) 参加の動機

「興味・関心を持ったから」が34%、「職業上の知識・理解を増すため」が25%、「生活上の知識向上のため」が約16%で、その他は「余暇の利用」等であった。

2) 本公開講座を知った経緯

「中日新聞」が18%、「本学科からのダイレクトメール」が11%、「区役所、社会教育センターに配置してあった要綱等」7%、その他は「友人」や「医療機関に配置してあった要綱等」、「本学内掲示のポスター」であった。

3) 受講後の感想

「スライド、OHPなど多用されて見やすく、ホスピス、ストーマ等、未知の分野について興味深く聞くことができ参考になった」との感想が記述されていた。また、「介護では『社会』に委ね家族をあてにしない心構えが必要か」という自問や「健康カルテを作りたい」という積極的な思いが書かれていた。子どもを持つ人等、生活場面と直接関わる講義内容は、タイムリーで非常に興味深いものと受け止められていた。さらに、生活面に関わる話や健康・医療の未知の話に関しての幅広い看護学の講義は、充実感、自己確認などを得られるため、受講していない人に広めたいという評価を得た。

4) 開設時期、曜日、場所、受講料等気がついた点

「参加し易くほぼ適当と思う」の意見が多い中で、「できれば年間を通じて生涯教育講座として（1回／2週間）開催してほしい」との希望があった。受講料は、「テキストを読んで納得できた」との意見と、「高すぎるのでは」との双方の意見が混在した。「今後もこのような講座がある時は是非案内がほしく、受講者の少ないのは残念である」という意見があった。

5) 今後、希望するテーマ

「医学、医療面での新発見、新治療と効果の現状と改善点について」等や現代の問題である「虐待、子育て、成人病予防、心の問題、鬱、引きこもり、地球環境、医師—看護師—患者の信頼関係について」等、多岐にわたるテーマの希望があった。

平成13年度名古屋大学医学部保健学科公開講座「ケアの時代—少子高齢化社会の暮らしの中で—」は、大学の成果を地域へ還元すべく開催しました。心と身体の問題等、幅広いテーマとする一般市民向けの公開講座として、看護学は、研究・実践的な学問である特性が注目され、人々の日常生活に有効であったことを示すことができました。

(平成13年度公開講座委員：安田道子、前川厚子、安藤詳子、飯田美代子、委員長：玉里八重子)

3. 業 績 (2001年)

凡 例

◎業績の収録期間は2001(平成13)年1月～12月とした。

◎業績は下記の種別に分類した。

- * 著書
- * 原著論文
- * 総説・解説・その他
- * 科研費・班研究等
- * その他の印刷物等
- * 学会発表
- * 公開講座・講演会

◎掲載順位は ①専攻, ②業績種別, ③著者のアルファベット順 とした。

看護学専攻

〔著書〕

浅野みどり

第 III 章 発達に障害のある子どもの日常生活のケア 2. 発達に障害のある子どもの日常生活のケア技術

B. 遊び, レクリエーション

『発達に障害のある子どもの看護 (小児看護学叢書; 4)』(森秀子編著, 及川郁子監修)メヂカルフレンド社, 2001.
pp 167-174

浅野みどり

第 III 章 発達に障害のある子どもの日常生活のケア 2. 発達に障害のある子どもの日常生活のケア技術 C. 学習

『発達に障害のある子どもの看護 (小児看護学叢書; 4)』(森秀子編著, 及川郁子監修)メヂカルフレンド社, 2001.
pp 174-179

浅野みどり

第 III 章 発達に障害のある子どもの日常生活のケア 2. 発達に障害のある子どもの日常生活のケア技術 D. 移動
方法の獲得 2) 子どもの状態に沿った移動方法 E. コミュニケーション

『発達に障害のある子どもの看護 (小児看護学叢書; 4)』(森秀子編著, 及川郁子監修)メヂカルフレンド社, 2001.
pp 183-193

浅野みどり

第 IV 章 発達に障害のある子どもの健康管理 1. 障害のある子どもの健康管理の基本的な考え方

『発達に障害のある子どもの看護 (小児看護学叢書; 4)』(森秀子編著, 及川郁子監修)メヂカルフレンド社, 2001.
pp 216-225

飯田美代子, 森田せつ子

『10年女性健康手帳』(女性の健康手帳を考える会著)

博文館新社, 2001. 175 p

前川厚子

障害の種別とその様相, リハビリテーションの特徴—内部障害

『リハビリテーション論 新版 (介護福祉士養成講座 4)』(福祉士養成講座編集委員会編集)中央法規出版, 2001.
pp 36-59

前川厚子

排泄機能障害者の介護 ストーマ増設による排泄機能障害 (内部障害)

『形態別介護技術 (新・セミナー介護福祉 13)』(一番ヶ瀬康子 [ほか] 編) ミネルヴァ書房, 2001. pp 143-157

松村悠子, 西川晶子

脳血管患者の排尿ケア

『排尿ケアの技とコツ』(合谷信行, 岩坪暎二編著, 東間紘監修)メヂカルフレンド社, 2001. pp 117-126

TOGASHI Takehiro, MATSUZONO Yoshihiro, MORISHIMA Tsuneo, NARITA Mitsuo

Acute encephalitis-encephalopathy during influenza epidemics in Japanese children

OSTERHAUS Albert D.M.E., HAMPSON Alan W. and COX Nancy (eds): Options for the Control of Influenza IV :

proceedings of the World Congress on Options for the Control of Influenza IV held in Crete, Greece, 23rd-28th September 2000 (Excerpta Medica international congress series 1219). Amsterdam : Elsevier Science, 2001. pp 609-613

森島恒雄, 後藤泰浩

抗ウイルス剤

『小児薬物療法ハンドブック』(吉田一郎編著) 中外医学社, 2001. p 469

渡邊あゆみ, **森島恒雄**

感染症

『新生児・小児科疾患 (看護のための最新医学講座 第14巻)』(原 寿郎編集, 日野原重明・木村裕夫監修) 中山書店, 2001. pp 403-432

渡邊憲子

XVIII. 肺切除術を受ける患者の看護

『周手術期看護 第2版 (成人看護学 B. 急性期にある患者の看護; 2)』(泉キヨ子, 大森武子編集, 氏家幸子監修) 廣川書店, 2001. pp 391-415

渡邊憲子

XV. 手術中の看護 2. 麻酔時の看護

『周手術期看護 第2版 (成人看護学 B. 急性期にある患者の看護; 2)』(泉キヨ子, 大森武子編集, 氏家幸子監修) 廣川書店, 2001. pp 301-303

[原著論文]

浅野みどり, 立岡弓子, 杵淵恵美子, 森 秀子, 宮里和子

1993年以降の母子看護領域における家族看護学研究の動向
家族看護学研究 6(2):122-132, 2001

浅野みどり, 今西洋子, 友田尋子, 岡田由香, 野崎祐子, 島田 静, **三浦清世美**

子どものサインの感受性と援助—子どもの視点から
子どもの虐待とネグレクト 3(1):151-154, 2001

浅野みどり, 高橋昌久, 長田泰子, 根来民子, 市川みどり, 近藤夏子, 吉田 京, 長嶋正實

新生児・乳児の命を守るネットワーク～妊娠・出産・育児の場面で～
子どもの虐待とネグレクト 3(1):83-86, 2001

NAWA Akihiro, OBATA Naoko, KIKKAWA Fumitaka, KAWAI Michiyasu, NAGASAKA Tetsuo, **GOTO Setsuko**,

NISHIMORI Katsuhiko, NAGASHIMA Nobuo

Prognostic factors of patients with yolk sac tumors of ovary

Am J Obstet Gynecol 184:1182-1188, 2001

OKAMOTO Tomomitsu, **GOTO Setsuko**

Resistance to multiple agent chemotherapy including cisplatin after chronic low-dose oral etoposide administration in gestational choriocarcinoma

Gynecol Obstet Invest 52 : 139-141, 2001

長谷川洋子, 渡邊順子, 河津芳子, 任 和子

看護基礎教育における三角筋部の筋肉注射について

日本看護医療学会雑誌 3(2) : 37-46, 2001

廣瀬允美, 飯田美代子, 玉里八重子, 森田せつ子

在日ブラジル人女性の出産・育児の生活支援を考えるための実態調査

愛知母性衛生学会誌 19 : 13-20, 2001

藤田麻美, 飯田美代子, 前嶋七海, 森田せつ子, 玉里八重子, 榊原久孝, 宮里和子

乳児を持つ母親の児に対する憎らしい感情に関する研究

母性衛生 42(4) : 539-544, 2001

石黒彩子, 浅野みどり, 杉浦太一, 山田知子, 土井まつこ, 三浦清世美, 鳥居新平

在宅療養中の気管支喘息学童のQOL調査—低得点群の状況を中心に—

日本看護医療学会雑誌 3(1) : 8-14, 2001

塩見美幸, 石黒彩子, 藤井千恵, 浅野みどり, 三浦清世美, 堀 文子, 稲葉早苗, 花木玲子

小児臨床実習における遊びの援助の実態と学生の学び

日本小児看護学会誌 10(1) : 64-72, 2001

TOMIDA Takahito, NUMAGUCHI Yasushi, MATSUI Hideo, TOKI Yukio, **ITO Takayuki**, OKUMURA Kenji, HAYAKAWA Tetsuo

Altered expression of prostacyclin synthase in a subset of the thick ascending limb cells and mesangial cells in 5/6-nephrectomized rats

Hypertens Res 24 : 411-419, 2001

MOKUNO Shinji, **ITO Takayuki**, NUMAGUCHI Yasushi, MATSUI Hideo, TOKI Yukio, OKUMURA Kenji, HAYAKAWA Tetsuo

Impaired nitric oxide production and enhanced autoregulation of coronary circulation in young spontaneously hypertensive rats at prehypertensive stage

Hypertens Res 24 : 395-401, 2001

UCHIDA Takanori, TOKI Yukio, FUKAMI Yasumasa, KAMIYA Hiroki, MATSUI Hideo, OKUMURA Kenji, **ITO Takayuki**, HAYAKAWA Tetsuo

Relative importance of calcium-activated potassium channels in nipradilol-induced aortic relaxation in rats

Arzneimittelforschung 51 : 383-386, 2001

安部 良, 中林美奈子, 梶田悦子, 成瀬優知

家族介護者のショートステイサービス利用実態に関する調査

富山医科薬科大学看護学会誌 4(1) : 109-115, 2001

笠井恭子, 梶田悦子

在宅高齢者の主観的健康感と痛みの関係

富山医科薬科大学看護学会誌 4(1):13-22, 2001

梶田悦子, 伊木雅之, 西野治身, 三田村純枝, 日下幸則

閉経後女性のライフスタイル要因からみた骨粗鬆症予防対策に関する研究

北陸公衆衛生学会誌 27(2):118-123, 2001

片岡秋子, 渡邊憲子, 榎原久孝

3技法による生理的効果—腹式呼吸・足部マッサージ・両技法併用—

ヒューマン・ケア研究 2:60-66, 2001

KATAOKA Akiko, SAKAKIBARA Hisataka, INOUE Takuya, UHEYAMA Masashi, MIYAO Masaru

Method to predict severity in burn patients with inhalation injury

Crit Care & Shock 4:177-182, 2001

河津芳子

19世紀のイギリスに近代看護婦を誕生させた社会的背景

看護研究 34(6):521-527, 2001

前川厚子, 門田直美, 渡邊憲子, 毛受矩子, 神里みどり, 中里博昭

ストーマ保有者にやさしい「共用トイレ」のあるまちづくり

作業療法ジャーナル 35(6):587-590, 2001

前川厚子, 安藤詳子, 門田直美, 渡邊憲子, 神里みどり, 渋谷優子

ストーマ保有者に対する心理面のケア

Urological Nursing 6(8):700-706, 2001

前川厚子, 安藤詳子, 渋谷由紀, 滝本宏美, 山本亜矢, 鈴木愛美, 伊藤美智子, 積美保子

看護職から見た虚弱・高齢・要介護オストメイトに対する在宅ケアの課題

日本ストーマリハビリテーション学会誌 17(3):40-42, 2001

大浦武彦, 阿曾洋子, 近藤喜代太郎, 真田弘美, 志度晃一, 杉山みち子, 徳永恵子, 西村秋生, 藤井 徹,

前川厚子, 宮地良樹, 村山志津子, 森口隆彦

褥瘡危険要因とわかりやすい褥瘡予防・治療ガイドライン

日本医事新報 4037:19-29, 2001

大浦武彦, 阿曾洋子, 近藤喜代太郎, 真田弘美, 志度晃一, 杉山みち子, 徳永恵子, 西村秋生, 藤井 徹, 前川厚子

褥瘡危険要因と分かりやすいガイドライン

日本褥瘡学会誌 3(2):137-138, 2001

吉田和枝, 松岡 薫, 前川厚子

小児一時的ストーマに使用する装具の経費

東海ストーマリハビリテーション研究会誌 21(1):5-8, 2001

片平洸彦, 渋谷優子, 小松喜子, 山崎京子, **前川厚子**
難病患者の実態と保健医療福祉ニーズ—炎症性長疾患の場合 (第一報)
社会医学研究 19:57-63, 2001

前川厚子, 渡邊憲子, 安藤詳子, 門田直美, 毛受矩子
尿路ストーマ保有者とパートナーへのセクシュアリティの援助
Urological Nursing 6(11):1025-1029, 2001

前川厚子, 古澤恭子, 安藤詳子
両下肢と右腕切断を伴うダブルストーマ保有者の一人暮らし支援
日本ストーマリハビリテーション学会誌 17(1):33-40, 2001

前川厚子, 吉田和枝, 古澤恭子, 安藤詳子, 藤井千恵, 渡邊憲子
両下肢と右腕切断を伴うダブルストーマ保有者の一人暮らし支援
東海ストーマリハビリテーション研究会誌 21(1):97-100, 2001

塩見美幸, 三浦清世美, 浅野みどり, 原田久美, 山下一味, 石黒彩子
小児看護実習における遊びの援助に関する学生の学び~集団プレイを実施して~
日本看護医療学会雑誌 3(2):47-54, 2001

水溪雅子, 渋谷菜穂子, 立石充子
精神科看護実習への不安の測定と実習経過
日本看護医療学会雑誌 3(1):49-53, 2001

水溪雅子, 渋谷菜穂子, 立石充子, 齊木美保
精神科入院患者とその母親へのシステムズアプローチの一例
日本看護医療学会雑誌 3(1):17-21, 2001

水溪雅子
慢性疾患患者の家庭内管理と家族システム
健康文化紀要 30:24-27, 2001

KIMURA Hiroshi, HOSHINO Yo, KANEGANE Hirokazu, TSUGE Ikuya, OKAMURA Takayuki, KAWA Keisei,
MORISHIMA Tsuneo
Clinical and virologic characteristics of chronic active Epstein-Barr virus infection
Blood 98:280-286, 2001

KUDO Toyochiro, EGAWA Hiroto, KUZUSHIMA Kiyotaka, KIMURA Hiroshi, **MORISHIMA Tsuneo**, ICHIYAMA
Satoshi
Diagnostic testing in Epstein-Barr virus infection
Clin Chem Lab Med 39:789-794, 2001

TSUGE Ikuya, **MORISHIMA Tsuneo**, KIMURA Hiroshi, KUZUSHIMA Kiyotaka, MATSUOKA Hiroshi
Impaired cytotoxic T lymphocyte response to Epstein-Barr virus-infected NK cells in patients with severe chronic active EBV infection
J Med Virol 64 : 141-148, 2001

ITO Yoshinori, KIMURA Hiroshi, HARA Shinya, KIDO Shinji, OZAKI Takao, NISHIYAMA Yukihiro, **MORISHIMA Tsuneo**
Investigation of varicella-zoster virus DNA in lymphocyte subpopulations by quantitative PCR assay
Microbiol Immunol 45 : 267-269, 2001

HOSHINO Yo, KIMURA Hiroshi, TANAKA Naoko, TSUGE Ikuya, KUDO Kazuko, HORIBE Keizo, KATO Koji, MATSUYAMA Takaharu, KIKUTA Atsushi, KOJIMA Seiji, **MORISHIMA Tsuneo**
Prospective monitoring of the Epstein-Barr virus DNA by a real-time quantitative polymerase chain reaction after allogenic stem cell transplantation
Br J Haematol 115 : 105-111, 2001

KIMURA Hiroshi, NAGASAKA Tetsuro, HOSHINO Yo, HAYASHI Naomi, TANAKA Naoko, XU Jing Lan, KUZUSHIMA Kiyotaka, **MORISHIMA Tsuneo**
Severe hepatitis caused by Epstein-Barr virus without infection of hepatocytes
Hum Pathol 32 : 757-762, 2001

KIMURA Hiroshi, MORITA Makoto, TSUGE Ikuya, HOSHINO Yo, TANAKA Naoko, ITO Yoshinori, **MORISHIMA Tsuneo**
Vidarabine therapy for severe chronic active Epstein-Barr virus infection
Am J Pediatr Hematol/Oncol 23 : 294-299, 2001

渡辺綾佳, 吉田丈俊, 野村恵子, 金兼弘和, 田中直子, 木村 宏, **森島恒雄**, 宮脇利男
DNA コピー数を経時的に観察し得た先天性サイトメガロウイルス感染症の一例
日本小児科学会雑誌 105 : 715-718, 2001

祖父江文子, 木下知子, 西崎 彰, 長井典子, 早川文雄, 小倉良介, 矢沢 武, 森田 誠, 木村 宏, **森島恒雄**
Vidarabine が効果を示した治療抵抗性 Epstein-Barr ウイルス関連血球貪食症候群の一例
日本小児科学会雑誌 105 : 33-36, 2001

因田祥子, **森島恒雄**
小児におけるインフルエンザワクチンの効果
日本小児科医会会報 22 : 133-137, 2001

加藤丈典, 遠藤大一, 長谷川泰三, 本庄孝江, 二村真秀, 木村 宏, **森島恒雄**, 井上浩行
定量 PCR 法による治療効果の判定を行った全身型新生児ヘルペスの一例
日本小児科学会雑誌 105 : 592-595, 2001

任 和子, 中木高夫, 江藤真紀, 安藤詳子, 北川裕子, 渡邊あゆみ, 飯田美代子, 浅野みどり, 藤井千恵, 勝山貴美子, 渋谷菜穂子, 西川晶子, 美濃祐紀子, 三浦清世美, 奥村太志, 長谷川洋子

看護基礎教育における臨床実習の新しい方法—アセスメントに焦点をあてた週1回の実習の試み—
日本看護医療学会雑誌 3(1):23-29, 2001

UCHIYAMA Miyoko, KONDO Tadaaki, TSUZUKI Yoshie, ZHU Shankuan, TAMAKOSHI Koji, **SAKAKIBARA Hisataka**, UCHIYAMA Shuji, TOYOSHIMA Hideaki

Difference in the occurrence of cardiovascular events according to class of antihypertensive agents, based on a follow-up study of Japanese hypertension patients
Jpn Heart J 42:585-595, 2001

榊原久孝, 藤井千恵, 近藤高明

住民基本検診での高血糖者に対する訪問保健活動の効果
日本農村医学会雑誌 50(1):15-22, 2001

渋谷菜穂子, 水溪雅子

在宅高齢者と施設高齢者の主観的幸福感に関する一考察
日本看護医療学会雑誌 3(1):39-47, 2001

玉里八重子

就労妊産婦の健康と生活上の課題
京都母性学会誌 9(1):27-33, 2001

伊藤良子, 玉里八重子

母性看護学における退院パンフレットの内容と傾向
京都市立看護短期大学紀要 26:87-91, 2001

吉田久美子

子どもの虐待とネットワーク
健康医文化振興財団紀要 33:26-29, 2001

〔総説・解説・その他〕

安藤詳子, 松村悠子, 前川厚子, 西川晶子

緩和ケア病棟開設期におけるケアの質の構築に関する研究
笹川医学医療研究財団 研究業績年報 16(1):119-123, 2001

小島照子, 浅野みどり

ドッキリ体験を未然に防ぐチェックリスト (特集 あなたもできるドッキリ事故防止)
プチナース 10(13):17-22, 2001

江藤真紀

転倒・転落の予測・予防は難しい～いま“転倒・転落”が注目されている理由
月間ナーシング 21(6):18-23, 2001

後藤節子

ベトナムの絨毛性疾患克服への援助活動
健康文化振興財団紀要 29：29-32, 2001

後藤節子

死亡率80%から妊孕能温存治療へ—絨毛癌患者のQOL向上への軌跡—
日本看護医療学会雑誌 3(1)：1-7, 2001

三井 崇, 野村誠二, 井篁一彦, 吉川史隆, **後藤節子**, 水谷栄彦
非奇胎妊娠後の絨毛癌
東海産科婦人科学会雑誌 38：1-7, 2001

辻本好子, 勝山貴美子

COML10年の軌跡と展望—患者の声から看護の課題が見える
看護学雑誌 65(1)：1-5, 2001

勝山貴美子

様々な看護理論を知ろう (特集：看護理論を学んでみよう)
クリニカルスタディ 22(4)：65-71, 2001

河津芳子

看護学とライフヒストリー
看護学雑誌 65(7)：629-636, 2001

前川厚子, 毛受矩子, 門田直美

開業ナースの歩みと進展
看護展望 26(2)：117-120, 2001

前川厚子, 河野聖夫, 林 和美, 平井俊圭

事例検討のすすめ
ケアマネジャー 2(9)：14-19, 2001

前嶋七海, 森島恒雄

1. 周産期感染症の現在 7) 新生児とウイルス感染症 (特集 産婦人科感染症の現在)
化学療法の領域 17(6)：1100-1107, 2001

三浦清世美, 浅野みどり, 石黒彩子

看護理論は看護をサポート 事例2：エクソンの発達理論を用いて対象をとらえてみる (特集：看護理論を学んでみよう)
クリニカルスタディ 22(4)：74-76, 2001

中木高夫, 岩井郁子, 石田昌宏, 香春知永, 小谷野康子, 佐藤紀子, 辻本好子, 鳥羽克子, 豊増佳子, 樋口範雄, 勝山貴美子, 下谷恵美

医療への患者参加を促進する情報提供に関する実態調査—医師・歯科医師を対象として

日本 POS 医療学会雑誌 6(1):146-151, 2001

豊増佳子, 岩井郁子, 石田昌宏, 香春知永, 小谷野康子, 佐藤紀子, 辻本好子, 鳥羽克子, **中木高夫**, 樋口範雄, **勝山貴美子**, 下谷恵美

医療への患者参加を促進する情報提供に関する実態調査—国民／患者（非医療従事者）を対象として
日本 POS 医療学会雑誌 6(1):141-145, 2001

下谷恵美, 鳥羽克子, 岩井郁子, 石田昌宏, 香春知永, 小谷野康子, 佐藤紀子, 辻本好子, 豊増佳子, **中木高夫**, 樋口範雄, **勝山貴美子**

医療への患者参加を促進する情報提供に関する実態調査—診療情報管理士を対象として
日本 POS 医療学会雑誌 6(1):156-158, 2001

小谷野康子, 岩井郁子, 石田昌宏, 香春知永, 佐藤紀子, 辻本好子, 鳥羽克子, 豊増佳子, **中木高夫**, 樋口範雄, **勝山貴美子**, 下谷恵美

医療への患者参加を促進する情報提供に関する実態調査—診療情報提供に関する精神科看護婦・看護師の認識調査
一般科看護婦・看護師と比較して
日本 POS 医療学会雑誌 6(1):151-155, 2001

任 和子

看護理論を学んでみよう（特集：看護理論を学んでみよう）
クリニカルスタディ 22(4):62-64, 2001

榊原久孝

ここまで来た人体振動規格（ISO/TC104/SC4），WG8（振動感覚）
騒音制御 25(6):359-362, 2001

〔科研費・班研究等〕

安藤詳子, 竹内康浩, 山内一信, 谷口 元, 小野雄一郎, 柴田英治, 坂本龍雄, 酒井 潔, 杉浦太一
新築病棟の環境変化がもたらす患者及び医療スタッフへの身体的・心理的影響
平成11～12年度文部省科学研究費補助金（基盤研究(B)(2)）研究成果報告書 1冊, 2001

石黒彩子, 鳥居新平, 土井まつ子, **浅野みどり**, 神戸俊夫, 杉浦太一, **三浦清世美**, **藤井千恵**
アレルギー小児の QOL の向上（QOL 評価票の開発と、それを用いた環境改善の評価）
平成10～12年度科学研究費補助金（基盤研究(B)(2)）研究成果報告書 1冊, 2001

松村悠子, **安藤詳子**, **前川厚子**

重度意識障害者における味覚の感受性についての研究
平成12～13年度文部省科学研究費補助金萌芽研究研究成果報告書 1冊, 2001

森島恒雄, 富樫武弘, 水口 雅, 田代眞人, 横田俊平, 岡部信彦, 奥野良信, 宮崎千明, 細矢光亮, 黒木春郎,
河島尚志, 岩崎琢也, 栗原まな, 塩見正司, 市山高志, 豊田哲也, 布井博幸
インフルエンザの臨床経過中に発生する脳炎・脳症の疫学及び病態に関する研究

平成12年度厚生科学研究費補助金研究成果報告書 1冊, 2001

岩井郁子, 豊増佳子, 石田昌宏, 香春知永, 小谷野康子, 佐藤紀子, 辻本好子, 鳥羽克子, **中木高夫**, 樋口範雄,
勝山貴美子, 下谷恵美

医療への患者参加を促進する情報公開と従事者教育の基盤整備に関する研究
平成10～12年度厚生科学研究費補助金研究成果報告書 1冊, 2001

豊嶋英明, 近藤高明, 玉腰浩司, 八矢 寛, **榊原久孝**, 川村 孝, 外山淳治, 島 正吾, 朱 善寛
事業所健診成績の有効利用による脳・心血管疾患の第一次予防—データベースの作成とコホート内症例対照研究—
平成9～12年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書 1冊, 2001

〔その他の印刷物等〕

安藤詳子, **前川厚子**, **西川晶子**

癌性疼痛緩和に関する医療従事者の認識(2)
第2回愛知がん疼痛緩和勉強会調査結果報告書 1冊, 2001

藤井千恵, **榊原久孝**

消防団の健康診断結果とマルチプルリスクファクター症候群の関与
平成12年度長野県松川町国保総合健康指導事業報告書 1冊, 2001

榊原久孝, **藤井千恵**

住民健康診断結果からみた生活習慣病の管理
平成12年度長野県松川町国保総合健康指導事業報告書 1冊, 2001

渡邊憲子

看護学生の「名声会」見学について
名古屋市名声会 31:15, 2001

〔学会発表〕

赤川里美

母親と共有する母乳カルテの導入とその効果(抄録集 p4, 2001)
愛知県母性衛生学会, 2001.9(名古屋)

加藤経子, 安藤幸子, **安藤詳子**, **前川厚子**

治療コーディネーターに期待される役割—看護婦を対象としたアンケート調査より—(抄録集 p23, 2001)
第5回日本看護研究学会東海地方会, 2001.1(津)

安藤詳子, **西川晶子**, 青山裕子

病院改築による環境改善—ホルムアルデヒド測定値の推移(抄録集 p17, 2001)
第5回日本看護研究学会東海地方会, 2001.1(津)

安藤詳子, 西川晶子, 前川厚子, 松村悠子

緩和ケア病棟開設期における看護者のケアの質向上に関するニーズ (日本看護研究学会誌 24(3):223, 2001)
第27回日本看護研究学会, 2001.7 (横浜)

安藤詳子, 前川厚子, 吉田和枝, 松岡 薫, 渡邊憲子

術後5年以上経過したオストメイトの自己適応 (日本ストーマリハビリテーション学会誌 17(1):19, 2001)
第41回東海ストーマリハビリテーション研究会, 2001.7 (名古屋)

中村みゆき, 池山陽子, 加藤美穂, 武田尚代, **安藤詳子**

初めての遺伝子治療から学んだ高度先端医療における看護の役割 (抄録集 pp 33-37, 2001)
第23回脳神経外科セミナー, 2001.7 (松本)

ANDO Shoko, NISHIKAWA Akiko, MAEKAWA Atsuko

Psychological aspects of nurses in a palliative care ward. (Abstract. p 149, 2001)
4th International Nursing Research Conference/Japan Academy of Nursing Science, 2001.8 (Tsu)

安藤詳子

看護学生への倫理教育 (予稿集 p 90, 2001)
第13回日本生命倫理学会, 2001.10 (名古屋)

浅野みどり, 森 秀子, 杉下知子, 三浦清世美, 石黒彩子

CPS-M97を用いた幼稚園児をもつ両親の子育て観 (講演集 pp 200-201, 2001)
第11回日本小児看護学会学術集会, 2001.7 (神戸)

ASANO Midori, MORI Hideko, MIURA Kiyomi, NAITO Naoko, HASHIMOTO Yuriko, SUGISHITA Tomoko, ISHIGURO Ayako

Childrearing Perspectives of the parents with children attending kindergarten : examined by the CPS-M scale
4th International Nursing Research Conference/Japan Academy of Nursing Science, 2001.8 (Tsu)

藤井千恵, 安藤詳子, 前川厚子, 飯田美代子

在宅療養・健康回復増進の支援とシステム構築について—大学教官による看護相談外来活動の報告— (抄録集 p 21, 2001)
日本看護研究学会東海地方会学術集会, 2001.1 (津)

藤井千恵, 堀 容子, 古田真司, 内藤道孝, 榊原久孝

小中学生における血漿フィブリノーゲン濃度と関連因子との関係 (抄録集 pp 98-99, 2001)
第47回東海公衆衛生学会, 2001.7 (名古屋)

藤井千恵, 堀 容子, 古田真司, 榊原久孝

児童・生徒の血液凝固因子(血漿フィブリノーゲン濃度)と関連因子の検討 (日本公衆衛生雑誌 48 (10, 特別附録): 529, 2001)
第60回日本公衆衛生学会総会, 2001.10-11 (高松)

大村いづみ, 後藤節子, 水溪雅子

更年期女性の血漿バイオプテリンとうつ症状について (2)
日本生物学的精神医学会, 2001.4 (長崎)

大村いづみ, 後藤節子

更年期女性の不定愁訴と抑うつ状態について—SDS および SMI 得点, 血漿中バイオプテリン値による検討— (日本産科婦人科学会雑誌 53(2):325, 2001)
日本産科婦人科学会, 2001.5 (札幌)

長谷川洋子, 渡邊順子, 任 和子, 河津芳子

三角筋筋肉内注射部位に関する記述内容の検討 (講演集 p182, 2001)
第11回日本看護学教育学会学術集会, 2001.8 (横浜)

IIDA Miyoko, IIDA Hiroyuki, YOSHIMURA Jin

An introduction of baby-diary on infant care in Japan
22nd Quadrennial Congress/International Council of Nurses, 2001.6 (Copenhagen, Denmark)

飯田美代子, 宮里和子

45歳女性の月経状況と更年期症状に関する調査 (日本更年期医学会雑誌 9(Suppl.):81, 2001)
第16回日本更年期医学会学術集会, 2001.11 (東京)

齊藤麻子, 土井まつ子, 梶山委都子, 石黒彩子, 浅野みどり, 山田知子, 杉浦太一

アトピー性皮膚炎を持つこどもの QOL 調査に関する基礎的研究 (抄録集 p20, 2001)
第3回日本看護医療学会学術集会, 2001.9 (愛知県長久手町)

KAJITA Etsuko, HIROTA Naomi, MAEHATA Natsuko, YAMAGUCHI Etsuko, OONO Masami,
MORIGUCHI Yoshiko, SEKI Machiko

IADL and QOL after leaving the hospital in hip-fracture and non-fracture patients. (Abstract. p 84, 2001)
Pan-Pacific Conference Taking QOL Research into the New Millennium, 2001.4 (Tokyo)

KAJITA Etsuko, HIROTA Naomi, MAEHATA Natsuko, YAMAGUCHI Etsuko, MORIGUCHI Yoshiko, SEKI Machiko,
KIBAYASHI Yoneko.

Activity of daily living and quality of life in patients with and without hip fracture. (Abstract. p 600, 2001)
17th World Congress of Gerontology/IAG, 2001.7 (Vancouver, Canada)

KAJITA Etsuko, HIROTA Naomi, YOSHIDA Kumiko

Study on health status after breavement in patients without hip fracture. (Abstract. p 657, 2001)
Joint Conference of the Society for Social Medicine, 2001.9 (Oxford, UK)

梶田悦子, 吉田久美子, 広田直美, 西野治身

骨折患者と非骨折患者の退院後における IADL と QOL (日本公衆衛生雑誌 48(10, 特別附録):656, 2001)
第60回日本公衆衛生学会総会, 2001.10-11 (高松)

片岡秋子, 北川裕子, 渡邊憲子

足部マッサージと腹式深呼吸併用の生理的効果

第28回日本集中治療医学会総会，2001.3（東京）

勝山貴美子

病棟婦長の役割遂行およびそれに関連する要因（日本看護管理学会誌 5（1）：91-93，2001）

第5回日本看護管理学会年次大会，2001.8（佐賀）

朝倉輝一，岩倉孝明，**勝山貴美子**，和田恵美子

ケア概念の深化のために（抄録集 p 14，2001）

日本医学哲学倫理学会大会，2001.10（東京）

清水みどり 河津芳子

臨地実習における学生の学習への動機づけの分析

第3回日本看護医療学会学術集会，2001.9（名古屋）

佐久間直美 河津芳子

結核病棟でのカウンテクニクの現状を考える（医療 55(Suppl.1)：163，2001）

第56回国立病院療養所総合医学会，2001.10（東京）

前川厚子，渋谷優子，神里みどり，**安藤詳子**，**渡邊あゆみ**，**吉田久美子**，吉田和枝，**西川晶子**，**安田道子**

がんを有するストーマ保有者の自己適応スコアの比較（日本がん看護学会誌 15(Suppl.)：101，2001）

第15回日本がん看護学会学術集会，2001.1（横浜）

前川厚子，吉田和枝，**安藤詳子**，**藤井千恵**，**渡邊憲子**，古澤恭子

両下肢と右腕切断を伴うダブルストーマ保有者の一人暮らし支援（日本ストーマリハビリテーション学会誌 17(1)：33-40，2001）

第42回東海ストーマリハビリテーション研究会，2001.7（名古屋）

前嶋七海，**森島恒雄**，**飯田美代子**，**玉里八重子**，**森田せつ子**

多施設共同研究によるC型肝炎ウイルス母子感染の検討—小児の側の要因について—（抄録集 p 207，2001）

第42回日本母性衛生学術集会，2001.9（大阪）

前嶋七海，**森島恒雄**，**飯田美代子**，**玉里八重子**，**森田せつ子**

多施設共同研究によるC型肝炎ウイルス母子感染の検討—母体の側の要因について—（抄録集 p 207，2001）

第42回日本母性衛生学術集会，2001.9（大阪）

原田久美，**三浦清世美**，今井里佳，浅沼佳織，熊谷智恵，山下一味

子どもの手術を待つ母親の思い（講演抄録集 p 24，2001）

第3回日本看護医療学会学術集会，2001.9（名古屋）

三浦清世美，塩見美幸，**浅野みどり**，**石黒彩子**

小児看護における遊びの援助に関する学生の学び～集団プレイを実施して～（抄録集 p 23，2001）

第3回日本看護医療学会学術集会，2001.9（名古屋）

水溪雅子，**渋谷菜穂子**，日比美樹子

看護活動で経験する快, 不快感情の体験とその影響—悲しみ, 喜び, 怒りの分析— (抄録集 pp 34-35, 2001)
第11回日本精神保健看護学会総会, 2001.6 (東京)

TANAKA Naoko, KIMURA Hiroshi, HOSHINO Yo, NISHIKAWA Kazuo, KOJIMA Seiji, NISHIYAMA Yukihiro,
MORISHIMA Tsuneo

Expression of tegument protein pp65 of human cytomegalovirus (CMV) and its application to the analysis of viral-specific cellular immunity CMV-infected individuals

8th International Cytomegalovirus Conference, 2001.5 (Monterey, USA)

HAYASHI Naomi, TANAKA Naoko, HARA Shinya, HOSHINO Yo, KIMURA Hiroshi, **MORISHIMA Tsuneo**

Monitoring four herpesviruses after living related liver transplantation

8th International Cytomegalovirus Conference, 2001.5 (Monterey, USA)

森島恒雄

サイトメガロウイルス感染症 (小児科): シンポジウム「血液・胎盤を介する母子感染症の最近の動向」

第11回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会, 2001.6 (宇都宮)

HOSHINO Yo, HARA Shinya, KIMURA Hiroshi, KUZUSHIMA Kiyotaka, **MORISHIMA Tsuneo**

Control of Epstein-Barr virus by virus-specific CD8+T cells in chronic active EB virus infection

21st Sapporo Cancer Seminar Symposium, 2001.7 (Sapporo)

森島恒雄

インフルエンザ脳炎・脳症の現状と薬剤の影響について

第28回日本小児臨床薬理学会, 2001.9 (神戸)

HOSHINO Yo, HARA Shinya, KIMURA Hiroshi, KUZUSHIMA Kiyotaka, **MORISHIMA Tsuneo**

Control of Epstein-Barr virus by virus-specific CD8+T cells in chronic active EB virus infection

10th International Congress of Herpes Virus Infection, 2001.10 (Osaka)

森島恒雄

インフルエンザ脳症: シンポジウム「髄膜炎, 脳炎・脳症—発症のメカニズムを探る—」

第33回日本小児感染症学会, 2001.11 (山口)

森島恒雄

インフルエンザ脳症の実態と今後の課題

第7回日本薬剤疫学会学術総会, 2001.11 (東京)

森島恒雄

インフルエンザ脳症の病態と治療・予防について

第26回東日本小児科学会, 2001.11 (千葉)

森田せつ子, 石走知子, 岡山久代, 飯田美代子, 玉里八重子, 後藤節子

出産前後における夫婦の里方との経済的・情緒的な面での二世代間関係

第42回日本母性衛生学術集会, 2001.9 (大阪)

西川晶子, 安藤詳子, 前川厚子, 渡邊あゆみ, 吉田久美子, 吉田和枝, 神里みどり, 安田道子
がん性疼痛緩和に関する医療関係者の認識 (日本がん看護学会誌 15(Suppl.):181, 2001)
第15回日本がん看護学会学術集会, 2001.1 (横浜)

西川晶子, 前田久美子, 池田美里, 渡邊三紀子, 天野幹子, 沼田玲子, 稲田久美子, 長澤利枝, 稲田三津子, 小島通代
注射業務における看護職の安全確認行動の分析 (第1報) (抄録集 pp 42-43, 2001)
第2回日本赤十字看護学会学術集会, 2001.5 (千葉)

西川晶子, 安藤詳子, 松村悠子
臨床実習におけるインフォームドコンセントの意義 (第一報) 患者満足を得られた一事例の分析 (日本看護研究学会誌 24(3):171, 2001)
第27回日本看護研究学会, 2001.7 (横浜)

西川晶子, 安藤詳子, 松村悠子
臨床実習で学ぶ看護倫理—インフォームドコンセント用紙を活用して— (抄録集 p 14, 2001)
第3回日本看護医療学会学術集会, 2001.9 (名古屋)

岡山久代, 高橋真理
日本語版 Prenatal Self-Evaluation Questionnaire の作成 (女性心身医学 6:45, 2001)
第30回日本女性心身医学会学術集会, 2001.7 (京都)

岡山久代, 高橋真理
胎児への愛着モデルの検証—妊婦の母親との関係及び夫との関係の影響について— (日本看護研究学会雑誌 24(3):250, 2001)
第27回日本看護研究学会学術集会, 2001.8 (金沢)

榊原久孝
振動障害の診断に関する国際ワークショップ (2000.9.11-13)
日本産業衛生学会東海地方会第14回振動障害研究会, 2001.2 (名古屋)

平田 衛, 榊原久孝
振動障害患者における橈骨神経伝導速度—白指との関連— (抄録集 p 404, 2001)
第74回日本産業生成学会, 2001.4 (高知)

榊原久孝, 樋端規邦
振動障害患者の手指巧緻性の低下と末梢神経障害 (抄録集 p 403, 2001)
第74回日本産業生成学会, 2001.4 (高知)

SAKAKIBARA Hisataka, Maeda Setsuo, YONEKAWA Yoshiharu
Head vibration of operator during using pneumatic tools in quarry work. (Abstract. pp 109-110, 2001)
9th International Conference on Hand-Arm Vibration, 2001.6 (Nacy, France)

TOIBANA Norikuni, **SAKAKIBARA Hisataka**

Quantitative assessment of manipulative dexterity in patients with hand-arm vibration syndrome. (Abstract. pp 142-143, 2001)

9th International Conference on Hand-Arm Vibration, 2001.6 (Nancy, France)

HIRATA Mamoru, **SAKAKIBARA Hisataka**, ABE Mitsuru

Sensory nerve conduction velocities of the median, ulnar and radial nerve among patients with vibration syndrome. (Abstract. pp 42-43, 2001)

9th International Conference on Hand-Arm Vibration, 2001.6 (Nancy, France)

SAKAKIBARA Hisataka, MAEDA Setsuo, YONEKAWA Yoshiharu

Thermal perception testing for vibration-induced nerve dysfunction. (Proceedings pp 71-82, 2001)

9th Japan Group Meeting on Human Response to Vibration, 2001.7 (Mito)

平田 衛, **榊原久孝**

振動症患者における正中、尺骨、橈骨神経伝導速度

第13回産業神経・行動学研究会, 2001.7 (大阪)

榊原久孝, 藤井千恵

住民基本検診での血液凝固因子(血漿フィブリノーゲン濃度)の検討(日本公衆衛生雑誌 48(10, 特別附録): 530, 2001)

第60回日本公衆衛生学会総会, 2001.10-11 (高松)

榊原久孝, 平田 衛, 樋端規邦

振動障害の末梢神経機能検査法としての電流知覚検査と温冷覚, 振動覚, 痛覚検査との比較(抄録集 pp 52-53, 2001)

平成13年度日本産業衛生学会東海地方学会, 2001.11 (名古屋)

渋谷菜穂子, 水溪雅子

看護婦の怒りの表出について—日常生活場面と対患者場面における「外向性/内向性」のパターンを中心に—(抄録集 pp 32-33, 2001)

第11回日本精神保健看護学会総会, 2001.6(東京)

渋谷菜穂子, 水溪雅子

対患者場面における看護婦の怒りの対処行動について—Averillの質問紙による調査(怒りに対する反応を中心に)から—(発表論文集 pp 122-123, 2001)

第14回日本健康心理学会大会, 2001.11 (仙台)

玉里八重子, 鈴木和代

分娩時間とその影響因子についての検討—自然分娩した褥婦の意識調査から—(抄録集 pp 53-63, 2001)

第57回日本助産婦学会, 2001.5 (倉敷)

玉里八重子, 飯田美代子, 前嶋七海, 美濃祐紀子, 森田せつ子

助産学実習の評価と課題(学術集録集 p 321, 2001)

第42回日本母性衛生学会総会, 2001.9 (大阪)

吉田久美子, 梶田悦子, 横井豊子

子どもの虐待防止ネットワーク構築時における保健婦の役割 (日本公衆衛生雑誌 48(10, 特別附録): 588, 2001)
第60回日本公衆衛生学会総会, 2001.10-11 (高松)

〔公開講座・講演会〕

安藤詳子

患者・家族を支えるターミナルケア (『ケアの時代—小子高齢化社会の暮らしの中で—』 pp 1-8)
平成13年度名古屋大学医学部保健学科公開講座, 2001.9 (名古屋)

後藤節子

婦人病の早期発見と治療
トワイライトスクール運営連絡会, 2001.6 (名古屋)

後藤節子

女性のホルモン分泌の変化
愛知県薬剤師会, 2001.9 (名古屋)

後藤節子

妊娠初期妊婦の母親教室「よい赤ちゃんを生むために」
愛知県産婦人科医会, 2001.10 (名古屋)

後藤節子

胞状奇胎後患者の管理と HCG 測定法
ベトナム: ヴェンチェ省医療委員会, 2000.11 (ヴェンチェ, ベトナム)

後藤節子

女性ホルモン周期と避妊方法
ベトナム: ヴェンチェ省医療委員会, 2001.12 (ヴェンチェ, ベトナム)

飯田美代子

健康の記録がケアを深める (『ケアの時代—小子高齢化社会の暮らしの中で—』 pp 19-23)
平成13年度名古屋大学医学部保健学科公開講座, 2001.9 (名古屋)

前川厚子

病院と在宅のケアの連携 (『ケアの時代—小子高齢化社会の暮らしの中で—』 pp 9-17)
平成13年度名古屋大学医学部保健学科公開講座, 2001.9 (名古屋)

榊原久孝

有害業務管理 (振動障害)
日本医師会認定産業医研修会, 2001.1 (名古屋)

榊原久孝

振動障害の最近の動向

第6回高知振動病研究会，2001.4（高知）

榊原久孝

生活習慣病について

平成13年度蛭川村健康セミナー，2001.8（岐阜県蛭川村）

榊原久孝

生活習慣病と成人病

明德小学校トワイライトスクール，2001.10（名古屋）

安田道子

子どもが育つということ（『ケアの時代—少子高齢化社会の暮らしの中で—』 pp 25-31）

平成13年度名古屋大学医学部保健学科公開講座，2001.9（名古屋）

安田道子

ストレスからの解放を目指して

看護協会桑名支部研修会，2001.10（桑名）

放射線技術科学専攻

〔著書〕

磯村高之，伊藤茂樹

術後出血に対する治療

『がん診療における Interventional Radiology：臨床腫瘍医が知っておくべき活用法』（荒川保明編集）南江堂，2001. pp 120-127

佐久間洋一，山西弘城，飯田孝夫，森泉 純，緒方良至，辻 成人

環境水中トリチウム測定の正確・迅速・簡素化

Proceedings of the 2nd Workshop on Environmental Radioactivity. 高エネルギー加速器研究機構，2001. pp 204-208

緒方良至，佐久間洋一，大谷暢夫，小高正敬

電気分解による重水からのトリチウム分離

Proceedings of the 2nd Workshop on Environmental Radioactivity. 高エネルギー加速器研究機構，2001. pp 209-214

田伏勝義，中村 譲

密封小線源

『放射線治療科学概論』（渡部洋一〔ほか〕著，中村 実監修）医療科学社，2001. pp 207-226

津坂昌利

第2章 ネットワークの基礎

『パーフェクトガイド！医用 internet（インターネット）』（高橋正樹，津坂昌利編；古賀佑彦監修）金原出版，2001. pp 82-105

津坂昌利

第3章 ネットワークとハードウェア ① LAN の知識と高速画像ネットワークの構築

『パーフェクトガイド！医用 internet（インターネット）』（高橋正樹，津坂昌利編；古賀佑彦監修）金原出版，2001. pp 108-158

津坂昌利

第3章 ネットワークとハードウェア ② リモートアクセス技術 ③ 画像圧縮・伸展技術 ④ 画像蓄積装置

『パーフェクトガイド！医用 internet（インターネット）』（高橋正樹，津坂昌利編；古賀佑彦監修）金原出版，2001. pp 164-191

津坂昌利

第4章 ネットワークとセキュリティ ③ ユーザ側の局面からセキュリティを考える ④ ファイアウォール技術 ⑤ VPN 技術 ⑥ UPS（無停電電源装置）

『パーフェクトガイド！医用 internet（インターネット）』（高橋正樹，津坂昌利編；古賀佑彦監修）金原出版，2001. pp 204-234

津坂昌利

第5章 DICOM ① DICOM の概要とネットワーク ② パソコンで DICOM 画像を扱うには？

『パーフェクトガイド！医用 internet（インターネット）』（高橋正樹，津坂昌利編；古賀佑彦監修）金原出版，2001. pp 236-262

津坂昌利

第6章 学術大会におけるデモと放射線科 LAN の構築事例 ①学術大会における LAN の構築事例
『パーフェクトガイド！医用 internet（インターネット）』（高橋正樹，津坂昌利編；古賀佑彦監修）金原出版，2001.
pp 268-286

〔原著論文〕

今井國治

模擬トリーから伸展するトリーのワイブル分布に基づく解析とそれに及ぼす温度の影響
静電気学会誌 25(5)：271-276, 2001

今井國治

模擬トリーからの摩耗的トリー伸展開始についての検討
電気学会論文誌 A 121(8)：803-804, 2001

IKEDA Mitsuru, **ITOH Shigeki**, ISHIGAKI Takeo, YAMAUCHI Kazunobu
Application of resampling techniques to the statistical analysis of the brier score
Methods Inf Med 40：259-264, 2001

LEE Yongbum, HARA Takeshi, FUJITA Hiroshi, **ITOH Shigeki**, ISHIGAKI Takeo
Automated detection of pulmonary nodules in helical CT images based on an improved template-matching technique
IEEE Trans Med Imaging 20：595-604, 2001

ITOH Shigeki, **KOYAMA Shuji**, IKEDA Mitsuru, OZAKI Masahiro, SAWAKI Akiko, IWANO Shingo, ISHIGAKI Takeo
Further reduction of radiation dose in helical CT for lung cancer screening using small tube current and a newly
designed filter
J Thorac Imaging 16：81-88, 2001

李 鎔範，中川俊明，原 武史，藤田広志，**伊藤茂樹**，石垣武男
高次局所自己相関特徴を用いた胸部 X 線 CT 画像上の腫瘍陰影の自動検出
医用画像情報学会雑誌 18(3)：135-143, 2001

SUNAMI Eiji, **KANAZAWA Hiroaki**, HASHIZUME Hiroya, TAKEDA Masaei, HATAKEYAMA Katsuyoshi,
USHIKI Tatsuo
Morphological characteristics of Schwann cells in the islets of Langerhans of the murine pancreas
Arch Histol Cytol 64：191-201, 2001

金澤寛明，川浦稚代，本間光彦

放射線による味覚異常の形態学的検討
日本味と匂学会誌 8(3)：473-476, 2001

小山修司

診断領域における線量標準測定法の確立—標準測定法の確立—

日本放射線技術学会計測分科会誌 9(1):40-46, 2001

加藤二久, 西谷源展, **小山修司**, 熊谷道朝, 岩波 茂, 菊池 透, 寿藤紀道

入射表面線量測定用線量計のトレーサブルシステム確立の可能性—病院施設における測定・照射の再現性と線質の調査—

日本放射線技術学会計測分科会誌 9(1):47-53, 2001

MAEDA Hisatoshi, KOYAMA Shuji, TSUCHIYA Seiya

Segmental cardiac function computed from ECG-gated SPECT images through solution of equations of continuity for fluids

Phys Med Biol 46:347-367, 2001

MIYAHARA Hiroshi, IKEDA Keiichi, NADA MARNADA

Development of two-dimensional data-acquisition apparatus using 8 mm data cartridge for $4\pi\beta\text{-}\gamma$ coincidence measurement

J Nucl Sci Technol 38:270-272, 2001

NADA MARNADA, **MIYAHARA Hiroshi**, GATOT WURDIYANT, IKEDA Keiichi, HAYASHI Nobuo, KATOH Yoshichika

Precise determination of gamma-ray emission probabilities and beta-ray intensities for nuclides with relatively short half-lives

JAERI-Conf 2001-006:206-211, 2001

NADA MARNADA, **MIYAHARA Hiroshi**, UEDA Naoyoshi, HAYASHI Nobuo, IKEDA Keiichi

Precise emission probabilities of gamma-rays for ^{159}Gd

Appl Radiat Isot 54:695-700, 2001

宮原 洋, 成田憲彦, 加藤義親, 富田憲一郎, 池田圭一, 百瀬琢磨, 栗原 治, 林 直美

Ge 検出器による体内放射能測定の $\gamma\text{-}\gamma$ 同時計測法による高度化(1)

Radioisotopes 50(5):155-162, 2001

HIROTA Masahiro, SAZE Takuya, **OGATA Yoshimune**, NISHIZAWA Kunihide

Feasibility of in vivo thyroid ^{131}I monitoring with an imaging plate

Appl Radiat Isot 55:513-516, 2001

IWANO Shingo, ISHIGAKI Takeo, **SHIMAMOTO Kazuhiro**, INAMURA Kiyoya, MADA Tomoe, IKEDA Mitsuru, ISHIGUCHI Tsuneo, KOZUKA Takahiro

Detection of subtle pulmonary disease on CR chest images: monochromatic CRT monitor vs color CRT monitor

Eur Radiol 11:59-64, 2001

HIROTA Hideki, **SHIMAMOTO Kazuhiro**, IKEDA Mitsuru, ISHIGAKI Takeo, MARUYAMA Kunihiro, YAMADA Tetsuya, SATAKE Hiroko, ISHIGUCHI Tsuneo, TAKAHASHI Yukio, NISHIHARA Eitaro

Display method can affect interobserver agreement: comparison of 'zoom-and-pan' and 'browse-and-paste' at primary CT interpretation

Comput Med Imaging Graph 25 : 327-333, 2001

SAWAKI Akiko, **SHIMAMOTO Kazuhiro**, HATTORI Tomohiko, IKEDA Mitsuru, ISHIGUCHI Tsuneo, ISHIGAKI Takeo, SAKUMA Sadayuki

Three-dimensional image display without special eyeglasses : observation of magnetic resonance angiography using the stereoscopic liquid crystal display

J Digit Imaging 14 : 111-116, 2001

日比野幸子, 田宮 正, 小山修司, 本間光彦, 田伏勝義, 小幡康範

治療用 Co-60照射装置を利用したチェレンコフ光の観察

医学物理 21(2) : 111-117, 2001

〔総説・解説・その他〕

小寺吉衛

評価する

JIRA テクニカルレポート 11(1) : 1, 2001

小寺吉衛

保健医療情報と国際化—ISO/TC215の動向

日本放射線技術学会雑誌 57(3) : 319-324, 2001

宮原 洋

第13回放射能計量学とその応用に関する国際会議

日本原子力学会誌 43(8) : 784-785, 2001

佐竹弘子, 島本佳寿広, 伊藤茂樹, 澤木明子, 野口由美子, 石垣武男

乳癌の診断における cutting edge : マルチスライス CT による乳癌の画像診断

日獨医報 46(2) : 225-233, 2001

長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 古賀佑彦

インターネット入門 (58) : 北米放射線学会 (RSNA) のネットワーク (1)

臨床放射線 46(1) : 184-188, 2001

長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 古賀佑彦

インターネット入門 (59) : 北米放射線学会 (RSNA) のネットワーク (2)

臨床放射線 46(2) : 301-303, 2001

江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 長嶋宏和, 古賀佑彦

インターネット入門 (60) : DICOM と CTN

臨床放射線 46(3) : 411-413, 2001

長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 古賀佑彦

インターネット入門 (61) : WAN 回線の帯域変更 (DA1500)

臨床放射線 46(4) : 526-528, 2001

長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 古賀佑彦

インターネット入門 (62) : インターネットに接続する危険性

臨床放射線 46(5) : 641-643, 2001

長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 古賀佑彦

インターネット入門 (63) : IP 電話

臨床放射線 46(6) : 757-759, 2001

津坂昌利, 長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, 古賀佑彦

インターネット入門 (64) : CyberRad 2001 Net の報告

臨床放射線 46(7) : 872-876, 2001

長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 古賀佑彦

インターネット入門 (65) : 最新ネットワーク情報を得るための展示会

臨床放射線 46(8) : 992-995, 2001

長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 古賀佑彦

インターネット入門 (66) : 屋内無線 LAN 接続

臨床放射線 46(9) : 1105-1107, 2001

津坂昌利, 長嶋宏和, 高橋正樹, 江本 豊, 市橋卓司, 辻村善樹, 古賀佑彦

インターネット入門 (67) : Super SINET

臨床放射線 46(11) : 1469-1474, 2001

長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 古賀佑彦

インターネット入門 (68) : 必要な場所に必要なネットワークを！ネットワーク総合+IEEE802.1Q

臨床放射線 46(12) : 1583-1586, 2001

長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 古賀佑彦

インターネット入門 (69) : 近くて近い国・韓国

臨床放射線 46(13) : 1689-1691, 2001

〔科研費・班研究等〕

石垣武男, 河野道雄, 中田 肇, 吉田祥二, 松本満臣, 稲邑清也, 西谷 弘, 宮坂和男, 池添潤平, **小寺吉衛**,

安藤 裕, 村田喜代史, 尾辻秀章, 池田 充, 楠本昌彦, **島本佳寿広**

画像観察 CRT モニタの医学的安全基準設定に関する研究

平成10~12年度厚生科学研究費補助金 (医療技術評価総合研究事業) 研究成果報告書 1 冊, 2001

宮原 洋

ガンマ線放出率の精密及び超精密測定

平成10～12年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）研究成果報告書 1冊，2001

石垣武男，池田 充，宮坂和男，板井悠二，小西淳二，稲邑清也，吉田祥二，西谷 弘，池添潤平，高橋睦正，炭田修身，倉西 誠，増田一孝，山口 宏，真田泰三，春田隆昌，**島本佳寿広**

画像管理とその臨床的有効性

国立大学放射線診療部門会議画像管理を検討する小委員会 pp 61-63，2001

田宮 正，小幡康範，田伏勝義，津坂昌利，小山修司，成田憲彦，緒方良至

放射光の単色 X 線による蛍光ガラス線量計のエネルギー依存性の検討

平成11～12年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）研究成果報告書 1冊，2001

〔その他の印刷物等〕

本間光彦

第21回人体解剖トレーニングセミナーに参加して

第21回人体解剖トレーニングセミナー報告書 p 34，2001

MIYAHARA Hiroshi, NADA MARNADA, KATOH Yoshichika, KATOH Keiji, FUJIKI Kazuo, ICHIKAWA Shin-ichi, TSUKADA Kazuaki, NISHINAKA Ichiro, HABA Hiromitsu, NAGAME Yuichiro, SAKAMA Minoru

Emission probability measurement of principal gamma rays for ^{147}Eu

JAERI-Review 2001-030 pp 329-331, 2001

MIYAHARA Hiroshi, NADA MARNADA, KATOH Yoshichika, FUJIKI Kazuo

Precise emission probability of principal γ -rays for ^{159}Gd

KURRI Progress Report 2000 p 44, 2001

宮原 洋，**成田憲彦**，池田圭一，加藤義親，藤木一雄，百瀬琢磨，田崎 隆，栗原 治，林 直美

内部被ばく線量評価高度化に係わる共同研究

名古屋大学・核燃料サイクル開発機構共同研究成果報告書（JNC TY8400, 2001-002）1冊，2001

〔学会発表〕

阿知波正剛，三宅良和，野口由美子，河村美奈子，石橋一都，山口 宏，**青山隆彦**，**伊藤茂樹**，**小山修司**

マルチスライス CT における可変管電流方式の基礎的検討（予稿集 p 184，2001）

第57回日本放射線技術学会総会学術大会，2001.4（神戸）

本間光彦，**田伏勝義**，**小幡康範**，**田宮 正**，**小山修司**，石垣武男

CR システムによる線量分布測定法（医学物理 21(Suppl.3)：102-105，2001）

第82回日本医学物理学会学術大会，2001.9（大阪）

西本卓矢，**本間光彦**，大塚千枝子，村山和宏，米澤伸哉，石橋一都，勝 利彦，近藤智昭，山口 宏

CRによる光学照射野確認システムによるポータブル撮影装置の管理（日本放射線技術学会雑誌 57：1057, 2001）
第29回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2001.11（名古屋）

本間光彦, 西本卓矢, 大塚千枝子, 近藤智昭, 山口 宏

CRによる光学照射野確認システムの開発（日本放射線技術学会雑誌 57：1056, 2001）
第29回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2001.11（名古屋）

大塚千枝子, **本間光彦**, 西本卓矢, 竹中和幸, 村瀬多美, 石橋一都, 堀部廣恵, 近藤智昭, 山口 宏

CRによる光学照射野確認システムの性能評価（日本放射線技術学会雑誌 57：1056, 2001）
第29回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2001.11（名古屋）

今井國治

メタロセン触媒で合成させたLLDPE内における模擬トリーからのトリー伸展開始（静電気学会講演論文集 pp 217-220, 2001）

2001年静電気学会, 2001.9（東京）

今井國治

模擬トリーにおける摩耗的トリー伸展の解析（抄録集 p 353, 2001）

2001年電気学会基礎・材料・共通部門大会, 2001.9（松山）

IMAI Kuniharu

Mechanism of tree propagation of fatigue failure type from a simulated tree channel. (Proceedings pp 45-48, 2001)
2001 Japan-Korea Joint Symposium on Electrical Discharge and High Voltage Engineering, 2001.11 (Miyazaki)

今井國治, 木全浩市

メタロセン系LLDPEにおける模擬トリーからのトリー伸展（抄録集 p 111, 2001）

平成13年度電気関係学会東海支部連合大会, 2001.11（豊橋）

今井國治, 平石義博

模擬ポイドモデルを用いたトリー発生特性（抄録集 p 119, 2001）

平成13年度電気関係学会東海支部連合大会, 2001.11（豊橋）

ITOH Shigeki, OHTA Toyohiro, SATAKE Hiroko, TATAI Katufumi, ISHIGAKI Takeo

Pancreatic and intrapancreatic bile ducts : Assessment using 0.5mm collimation scans and multiplanar reformation images on multidetector row CT. (Eur Radiol 11(Suppl.) : 342, 2001)

13th European Congress of Radiology, 2001.3 (Vienna, Austria)

ITOH Shigeki, IKEDA Mitsuru, OZAKI Masahiro, ISHIGAKI Takeo

Usefulness of a method for tube current changing during low-dose helical scanning in lung cancer screening. (Eur Radiol 11(Suppl.) : 372, 2001)

13th European Congress of Radiology, 2001.3 (Vienna, Austria)

金澤寛明, 川浦稚代, **本間光彦**

放射線による味覚異常の解明（解剖学雑誌 76：140, 2001）

第106回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2001.2 (南国)

岩瀬三紀, 野田明子, 古池保雄, 北市清幸, 高木健次, **金澤寛明**, 高木健三, 井澤英夫, 西澤孝夫, 横田充弘
DCM ハムスターにおける左室機能および β 交感神経脱感作の計時的評価 (超音波医学 28:448, 2001)
第74回日本超音波医学会学術集会, 2001.5 (東京)

NISHIZAWA Takao, IWASE Mitsunori, TAKAGI Kenji, **KANAZAWA Hiraoki**, FUJITA Yoko, ISHIKAWA Yoshihiro,
IZAWA Hideo, YOKOTA Mitsuhiro

Ischemia may induce attenuated adenylyl cyclase activities in TO-2 cardiomyopathic hamsters

Scientific conference on Molecular, Integrative, and Clinical Approaches to Myocardial Ischemia, 2001.8 (Seattle, USA)

IWASE Mitsunori, TAKAGI Kenji, KATO Yosuke, HASEGAWA Takaaki, **KANAZAWA Hiroaki**, NISHIZAWA Takao,
YOKOTA Mitsuhiro

The differential myolysis of myocardium vs. skeletal muscle in cardiomyopathic hamsters. (J Cardiac Failure 7
(3, Suppl.): 84, 2001)

第5回日本心不全学会学術集会, 2001.10 (仙台)

金澤寛明, 保住 功, 松山善次郎, 犬塚 貴, 内田洋子, 永沼 章

MT-III (GIF), MT-IV の局在に関する検討 (メタロチオネイン2001 p 59, 2001)

メタロチオネイン2001, 2001.11 (仙台)

保住 功, 松山善次郎, 犬塚 貴, 内田洋子, **金澤寛明**, 渡部和彦

MT-III(GIF)を用いた組織修復治療への試み (メタロチオネイン2001 p 45, 2001)

メタロチオネイン2001, 2001.11 (仙台)

川浦稚代, 本間光彦, 小山修司, 青山隆彦, 津坂昌利, 成田憲彦, 田宮 正

半導体式線量計 PTW 社 DIADOS (Type 11003) の物理特性 (日本放射線技術学会中部部会誌 3(1):198-199,
2001)

日本放射線技術学会平成12年度中部部会冬季研究発表会, 2001.1 (名古屋)

西郷康正, 隅田博臣, 大塚昌彦, 小寺吉衛, 丸橋一夫, 角田 明, 加藤 誠, 大喜雅文

口腔領域におけるデジタル X 線写真のピクセルサイズ最適化—第3報

第57回日本放射線技術学会総会学術大会, 2001.4 (神戸)

宮本秀幸, 稲津 博, 小寺吉衛, 林 建佑, 町田佳士, 飯山清美

コントラスト法による骨塩量の測定

医用画像情報学会平成13年度総会(第130回)大会, 2001.6 (名古屋)

市川勝弘, 小寺吉衛, 小山修司

デジタルカメラを用いたバーパターンによる CRT の解像度測定

医用画像情報学会平成13年度総会(第130回)大会, 2001.6 (名古屋)

林 建佑, 町田佳士, 小寺吉衛, 稲津 博, 宮本秀幸, 飯山清美

画像解析を用いた骨粗鬆症診断の研究

医用画像情報学会平成13年度総会(第130回)大会, 2001.6 (名古屋)

山本修司, 井ノ上信一, 櫻井邦昭, 松本光弘, 松本 貴, 中西省三, 小山修司, 青山隆彦

マルチスライス CT における retrospective ECG-gating の利点と欠点 第2報 —retrospective ECG-gating による被曝線量について— (予稿集 p 184, 2001)

第57回日本放射線技術学会総会学術大会, 2001.4 (神戸)

小山修司, 本間光彦, 川浦稚代, 青山隆彦, 津坂昌利, 田宮 正, 海老原弘一, 北條正道

半導体式空気カーマ測定器 (PTW DIADOS) の特性 (予稿集 p 137, 2001)

第57回日本放射線技術学会総会学術大会, 2001.4 (神戸)

小山修司, 青山隆彦, 川浦稚代, 本間光彦, 成田憲彦, 津坂昌利, 田宮 正

Multidetector-row CT の広ビーム化にともなう線量計の適応性について (日本放射線技術学会雑誌 57: 1019, 2001)

第29回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2001.11 (名古屋)

服部寿史, 堀田勝平, 小山修司, 前越 久

フラットパネルディテクタ搭載乳房撮影装置の線量表示値の検討 (日本放射線技術学会雑誌 57: 1034, 2001)

第29回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2001.11 (名古屋)

小山修司, 西谷源展, 加藤二久

診断領域用線量計 3 機種相互比較 (診断 X 線の線量標準研究会誌 1: 33, 2001)

第1回診断 X 線の線量標準研究会, 2001.12 (東京)

加藤佳志, 宮原 洋, ナダマルナダ, 林信夫, 池田圭一, 加藤義親, 藤木一雄, 池田豊義

^{165}Dy の γ 線放出率精密測定 (要旨集 p 87, 2001)

日本原子力学会2001年春の年会, 2001.3 (東京)

藤木一雄, 林 信夫, 宮原 洋, 竹内紀男, 岩本清吉, 檜野良穂

^{72}Ga の相対 γ 線放出率の精密測定 (要旨集 p 86, 2001)

日本原子力学会2001年春の年会, 2001.3 (東京)

宮原 洋, 成田憲彦, 加藤義親, 池田圭一, 百瀬琢磨, 栗原 治, 林 直美

γ - γ 同時計測法による体内摂取放射性物質の崩壊率絶対測定 (I) (要旨集 p 88, 2001)

日本原子力学会2001年春の年会, 2001.3 (東京)

MIYAHARA Hiroshi, HAYASHI Nobuo, FUJIKI Kazuo, TAKEUCHI Norio, IWAMOTO Shinkichi, HINO Yoshio

Highly precise determination of emission probabilities of principal gamma-rays for ^{134}Cs . (Abstract. 009, 2001)

13th International Conference on Radionuclide Metrology and its Applications, 2001.5 (Braunschweig, Germany)

MIYAHARA Hiroshi, YOSHIDA Atsushi, GATOT WURDIYANT, NAGATA Hideaki, NADA MARNADA

Precise determination of gamma-ray emission probabilities for ^{88}Rb . (Abstract. 008, 2001)

13th International Conference on Radionuclide Metrology and its Applications, 2001.5 (Braunschweig, Germany)

藤木一雄, 宮原 洋, ナダマルナダ, 加藤義親, 加藤佳志

^{56}Mn の相対 γ 線放出率の精密測定 (要旨集 p 21, 2001)
第38回理工学における同位元素・放射線研究発表会, 2001.7 (東京)

KATOHI Keiji, **MIYAHARA Hiroshi**, NADA MARNADA, UEDA Naoyoshi, IKEDA Keiichi, FUJIKI Kazuo, HABA Hiromitsu, TSUKADA Kazuaki, NAGAME Yuichiro, ASAI Masato, ICHIKAWA Shin-ichi
Production of ^{147}Eu for gamma-ray emission probability measurement. (Abstract. pp 36-37, 2001)
International Symposium on Isotope Effects in Physics, Chemistry and Engineering, 2001.8 (Nagoya)

加藤佳志, **宮原 洋**, 藤木一雄, 市川進一, 羽場宏光, 西中一郎, 塚田和明
 ^{147}Eu の γ 線放出率測定 (予稿集 p 205, 2001)
日本原子力学会2001年秋の大会, 2001.9 (札幌)

藤木一雄, 林 信夫, 池田豊義, **宮原 洋**
 ^{194}Ir の γ 線放出率の精密測定 (予稿集 p 206, 2001)
日本原子力学会2001年秋の大会, 2001.9 (札幌)

宮原 洋, 成田憲彦, 加藤義親, 池田圭一, 百瀬琢磨, 栗原 治, 林 直美
 γ - γ 同時計測法による体内摂取放射性物質の崩壊率絶対測定 (II) (予稿集 p 207, 2001)
日本原子力学会2001年秋の大会, 2001.9 (札幌)

HIROTA Masahiro, SAZE Takuya, **OGATA Yoshimune**, NISHIZAWA Kunihide
Feasibility of in vivo thyroid ^{131}I monitoring by imaging plate. (Abstract. p222, 2001)
IRPA Regional Congress on Radiation Protection in Central Europe, 2001.5 (Dubrovnik, Croatia)

OGATA Yoshimune, SAKUMA Yoichi, OHTANI Nobuo
Tritium separation from heavy water by electrolysis. (Abstract. p 223, 2001)
IRPA Regional Congress on Radiation Protection in Central Europe, 2001.5 (Dubrovnik, Croatia)

佐久間洋一, 山西弘城, 飯田孝夫, 森泉 純, **緒方良至**, 辻 成人
液シンによるトリチウム測定のための電解操作の簡素化 2 (抄録集 p 52, 2001)
第38回理工学における同位元素研究発表会, 2001.7 (東京)

緒方良至, 佐久間洋一, 大谷暢夫, 佐藤裕之
固体高分子電解質膜を用いた電気分解による重水からのトリチウム分離 (抄録集 p 47, 2001)
第38回理工学における同位元素研究発表会, 2001.7 (東京)

SAKUMA Yoichi, **OGATA Yoshimune**, TSUJI Naruhito, IIDA Takao
Removal of impurities from environmental water samples for tritium measurement by means of LS counter. (Abstract. p 108, 2001)
2001 Asia-pacific Symposium on Radiochemistry, 2001.10 (Fukuoka)

OGATA Yoshimune, SAKUMA Yoichi, OHTANI Nobuo, KOTAKA Masahiro
Tritium separation from heavy water by electrolysis with solid polymer electrode. (Abstract. p 181, 2001)
2001 Asia-pacific Symposium on Radiochemistry, 2001.10 (Fukuoka)

辻 成人, 山西弘城, 佐久間洋一, 緒方良至

液シンによる環境水中トリチウム濃度測定 of 簡素化 (要旨集 p 79, 2001)
第42回放射線取扱主任者研修会, 2001. 11 (名古屋)

緒方良至, 佐久間洋一, 小高正敬, 大谷暢夫

固体高分子電解質膜を用いた電気分解による重水からのトリチウム分離 (要旨集 p 78, 2001)
第42回放射線取扱主任者研修会, 2001. 11 (名古屋)

SATAKE Hiroko, **SHIMAMOTO Kazuhiro**, ITOH Shigeki, SAWAKI Akiko, ISHIGAKI Satoko, OHTA Toyohiro,
ODA Kouji, FUNAHASHI Hiroomi, ISHIGAKI Takeo

Diagnostic value of multiplanar reconstruction by multislice CT for surgical planning of breast cancer. (Eur Radiol 11 (Suppl.) : 345, 2001)

13th European Congress of Radiology, 2001. 3 (Vienna, Austria)

ISHIGAKI Takeo, IKEDA Mitsuru, **SHIMAMOTO Kazuhiro**, KODERA Yoshie, KATO Katsuhiko, USAMI Hisashi,
HIDANO Satoshi, SUZUKI Satoe

Influence of degradation of CRT monitor luminance on observer's performance in the detection of simulated pulmonary nodules. (Eur Radiol 11(Suppl.) : 446, 2001)

13th European Congress of Radiology, 2001. 3 (Vienna, Austria)

SHIMAMOTO Kazuhiro, IKEDA Mitsuru, SATAKE Hiroko, ISHIGAKI Satoko, SAWAKI Akiko, ISHIGAKI Takeo
Interobserver agreement in quality control using a breast phantom : screen-film mammography versus computed radiography. (Eur Radiol 11(Suppl.) : 353, 2001)

13th European Congress of Radiology, 2001. 3 (Vienna, Austria)

ISHIGAKI Satoko, **SHIMAMOTO Kazuhiro**, SATAKE Hiroko, SAWAKI Akiko, ITOH Shigeki, ISHIGAKI Takeo

Three-dimensional imaging of the thyroid nodule : value of multi-detector helical CT and Fusion 3D Ultrasound. (Eur Radiol 11(Suppl.) : 399, 2001)

13th European Congress of Radiology, 2001. 3 (Vienna, Austria)

SAWAKI Akiko, **SHIMAMOTO Kazuhiro**, SATAKE Hiroko, ISHIGAKI Satoko, ISHIGAKI Takeo

Three-dimensional ultrasonography of the breast : impact of Fusion 3D technology. (Eur Radiol 11(Suppl.) : 355, 2001)

13th European Congress of Radiology, 2001. 3 (Vienna, Austria)

島本佳寿広, 池田 充, 佐竹弘子, 石垣聡子, 澤木明子, 石垣武男

マンモグラムの読影における画像表示方法と読影者間の差異
第3回画像認知研究会, 2001. 3 (名古屋)

島本佳寿広

画像認知と診断プロセス

第20回医用画像工学会, 2001. 7 (名古屋)

島本佳寿広

甲状腺

第16回日本超音波医学会中部地方会, 2001.7 (名古屋)

島本佳寿広, 石垣武男, 池田 充, 小寺吉衛, 石原俊一, 宇佐見寿志, 森 芳峰, 加藤克彦

臨床現場からみた CRT モニタの精度管理

第21回医療情報学連合大会, 2001.11 (東京)

田伏勝義, 日比野幸子, 松岡祐樹, 河井淑裕, 長瀬友繁, 田宮 正, 八島美穂子, 本間光彦, 小山修二, 小幡康範

チェレンコフ光の観察写真における等濃度曲線 (医学物理 21 (Suppl.3) : 82-84, 2001)

第82回日本医学物理学会学術大会, 2001.9 (大阪)

津坂昌利, 長嶋宏和, 満島岳珠, 小山修司, 高橋正樹, 小寺吉衛, 石垣武男

病院 LAN とインターネットの接続技術に関する検討 (予稿集 p 256, 2001)

第57回日本放射線技術学会総会学術大会, 2001.4 (神戸)

津坂昌利, 中川真由美, 橋本真規子, 水野千陽子, 伊勢可奈子, 小寺吉衛, 長嶋宏和

WWW でアクセスできるビデオストリーミング技術を用いた動画のネットワーク配信システムの試作

医用画像情報学会平成13年度総会(第130回)大会, 2001.6 (名古屋)

中川真由美, 津坂昌利, 橋本真規子, 水野千陽子, 伊勢可奈子, 金澤寛明, 伊藤茂樹, 島本佳寿広, 三宅良和,

河村美奈子, 阿知波正剛, 山口 宏

マルチスライス CT 画像を用いた WWW 版電子教科書の試み

第130回医用画像情報学会年次大会, 2001.6 (名古屋)

水野千陽子, 津坂昌利, 伊勢可奈子, 中川真由美, 橋本真規子, 智原大郎, 日比野幸子, 本間光彦, 田宮 正,

田伏勝義, 近藤智昭, 勝利彦, 山口 宏

Web でアクセスできる骨 X 線撮影法と画像解剖学電子教科書の試作 (日本放射線技術学会雑誌 57 : 1057, 2001)

第29回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2001.11 (名古屋)

中川真由美, 津坂昌利, 橋本真規子, 水野千陽子, 伊勢可奈子, 多田昌代, 遠地志太, 金澤寛明, 三宅良和,

河村美奈子, 阿知波正剛, 山口 宏

マルチスライス CT 画像を用いた Web 版 X 線解剖電子教科書の試作 (日本放射線技術学会雑誌 57 : 1057, 2001)

第29回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2001.11 (名古屋)

TSUZAKA Masatoshi, MIYAKE Toshikazu, KANAZAWA Hirokazu, HARA Takeshi, FUJITA Hiroshi, ISHIGAKI Takeo

Web-based interactive electronic atlas using multi-slice X-ray CT image database. (Suppl. to Radiology 221(P) : 731, 2001)

87th Scientific Assembly and Annual Meeting Radiological Society of North America (RSNA 2001), 2001.12 (Chicago, USA)

〔公開講座・講演会〕

青山隆彦

中学生のための放射線教室
半田市立成岩中学校, 2001.8 (半田)

青山隆彦

中学生のための放射線教室
上越市立春日中学校, 2001.10 (上越)

青山隆彦

放射線と人間
高瀬老人クラブ教養教室, 2001.12 (静岡県大東町)

小寺吉衛

大学における教育カリキュラムの問題点
第20回山口ゼミ, 2001.2 (宇部)

小寺吉衛

CRT時代を迎えて臨床現場はどのように対応するか—画質の評価および維持の立場から
平成12年度日本放射線技術学会中部部会・北陸ブロック研修会, 2001.3 (金沢)

小寺吉衛

放射線技術学のめざすもの
第57回日本放射線技術学会総会学術大会, 2001.4 (神戸)

増田康治, 小寺吉衛 (司会)

病む人にやさしい医療
JMCP2001合同パネルディスカッション, 2001.4 (神戸)

小寺吉衛

モニタの診断精度とその管理—臨床工学の立場からみた精度管理
第20回日本医用画像工学会, 2001.7 (名古屋)

小寺吉衛

臨床工学の立場からみた精度管理
RadInfoNagoya, 2001.9 (名古屋)

小寺吉衛

教育制度の変革に伴う本学会の将来ビジョン—IT化への取り組み
第29回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2001.11 (名古屋)

小寺吉衛

デジタル画像の画像評価—なっとくするノイズ特性
日本放射線技術学会第50回画像分科会, 2001.11 (名古屋)

小寺吉衛

臨床工学の立場からみた精度管理
JRA, JSRT 合同秋季大会, 2001.11 (名古屋)

小山修司

診断領域 X 線の被曝線量測定の実際
兵庫県放射線技師会学術研修会「線量測定講習会」, 2001.2 (神戸)

小山修司, 青山隆彦, 前越 久

長尺シンチレーションファイバ線量計の開発と X 線 CT 患者被曝線量の測定
第57回日本放射線技術学会総会学術大会瀬木賞講演, 2001.4 (神戸)

小山修司, 青山隆彦, 川浦稚代

MDCT 技術的諸問題—被曝について—
Multidetector-Row CT Symposium II, 2001.5 (大阪)

小山修司

診断領域 X 線の被ばく線量評価法
九州地域放射線技師会九州放射線技師学術大会招待講演, 2001.11 (福岡)

小山修司

平均乳腺線量と皮膚近傍の吸収線量との比較検討
第18回日本放射線技術学会計測分科会, 2001.11 (名古屋)

宮原 洋

エックス線の管理
エックス線作業主任者勉強会講習会, 2001.2 (名古屋)

宮原 洋

放射線と RI の安全取扱の基礎
平成13年度放射線業務従事者教育訓練講習会, 2001.5 (名古屋)

宮原 洋

エックス線の管理
エックス線作業主任者勉強会講習会, 2001.6 (名古屋)

宮原 洋

放射線と放射能
平成13年度エネルギー研究会, 2001.6 (名古屋)

田伏勝義

小線源治療の治療計画 (『子宮頸癌の腔内照射の放射線生物学的, 物理学的基礎』 pp 43-46, 2001)
IAEA-RCA Regional Training Course on Radiobiological and Physical Aspects of Brachytherapy in Uterine Cervix Cancer, 2001.9 (前橋)

田宮 正

密封線源の安全取扱い

放射線業務従事者教育訓練講習会，2001.5(名古屋)

検査技術科学専攻

〔著書〕

岩瀬三紀, 横田充弘, 祖父江俊和

第3章 検査法 2. 胸部X線

『標準循環器病学』(小川 聡, 井上 博編集) 医学書院, 2001. pp 52-57

北市清幸, 土井悠子, ZHAO Ying Lan, 巽 康彰, 高木健次, 高木健三, 長谷川高明

K. pneumoniae 由来エンドトキシンによる肝薬物代謝酵素活性低下および一酸化窒素過剰産生に対するサイトカインの関与

『世界をリードするわが国の研究 (エンドトキシン研究4)』(日本エンドトキシン研究会編) 医学図書出版, 2001. pp 125-130

小嶋哲人

III 治療 4. 抗凝固療法 1) ヘパリン

『新しいDICの病態・診断・治療』(中川雅夫編) 医薬ジャーナル社, 2001. pp 90-91

小嶋哲人

III 治療 4. 抗凝固療法 2) 低分子ヘパリン

『新しいDICの病態・診断・治療』(中川雅夫編) 医薬ジャーナル社, 2001. pp 92-93

小嶋哲人

III 治療 4. 抗凝固療法 3) ヘパリン硫酸

『新しいDICの病態・診断・治療』(中川雅夫編) 医薬ジャーナル社, 2001. pp 94-95

小嶋哲人

第6章 細胞外マトリックス・ヘパリン硫酸

『Vascular Biology ナビゲーター』(丸山征郎, 安藤譲二, 佐藤靖史共同編集) メディカルレビュー社, 2001. pp 212-213

野田明子, 祖父江俊和, 横田充弘

第3章検査法 3. 心エコー図

『標準循環器病学』(小川聡, 井上博編集) 医学書院, 2001. pp 58-65

高木健三

治療薬剤:(2) β 刺激薬・抗コリン薬

『新しい診断と治療のABC 2. 呼吸器: 2. 喘息』(泉 孝英編) 最新医学社, 2001. pp 120-128

横井豊治

呼吸器

『細胞診断学入門: 基礎と臨床』(社本幹博, 長村義之編) 名古屋大学出版会, 2001. pp 84-103

〔原著論文〕

AKHAND Anwarul A., HOSSAIN Khaled, KATO Masashi, MIYATA Toshio, **DU Jun**, SUZUKI Haruhiko, KUROKAWA Kiyoshi, NAKASHIMA Izumi
Glyoxal and methylglyoxal induce lyoxal and methylglyoxal induce aggregation and inactivation of ERK in human endothelial cells
Free Radic Biol Med 31 : 1228-1235, 2001

AKHAND Anwarul A., HOSSAIN Khaled, MITSUI Hiroko, KATO Masashi, MIYATA Toshio, INAGI Reiko, **DU Jun**, TAKEDA Kozue, KAWAMOTO Yoshiyuki, SUZUKI Haruhiko, KUROKAWA Kiyoshi, NAKASHIMA Izumi
Glyoxal and methylglyoxal trigger distinct signals for map family kinases and caspase activation in human endothelial cells
Free Radic Biol Med 31 : 20-30, 2001

DU Jun, SUZUKI Haruhiko, **NAGASE Fumihiko**, AKHAND A. Anwarul, MA Xiu-Yang, YOKOYAMA Toshihiro, MIYATA Toshio, NAKASHIMA Izumi
Superoxide-mediated early oxidation and activation of ASK1 are important for initiating methylglyoxal-induced apoptosis process
Free Radic Biol Med 31 : 469-478, 2001

TAKEICHI Yasushi, YOKOTA Mitsuhiro, **IWASE Mitsunori**, IZAWA Hideo, NISHIZAWA Takao, ISHIKI Ryoji, SOMURA Fuji, NAGATA Kohzo, ISOBE Satoshi, **NODA Akiko**
Biphasic changes in left ventricular end-diastolic pressure during dynamic exercise in patients with nonobstructive hypertrophic cardiomyopathy
J Am Coll Cardiol 38 : 335-343, 2001

IWASE Mitsunori, YOKOTA Mitsuhiro, **KITAICHI Kiyoyuki**, WANG Li, **TAKAGI Kenzo**, NAGASAKA Tetsuro, IZAWA Hideo, **HASEGAWA Takaaki**
Cardiac functional and structural alterations induced by endotoxin in rats : importance of platelet-activating factor
Crit Care Med 29 : 609-617, 2001

SOMURA Fuji, IZAWA Hideo, **IWASE Mitsunori**, TAKEICHI Yasushi, ISHIKI Ryoji, NISHIZAWA Takao, **NODA Akiko**, NAGATA Kohzo, YAMADA Yoshiji, YOKOTA Mitsuhiro
Reduced myocardial sarcoplasmic reticulum Ca²⁺-ATPase mRNA expression and biphasic force-frequency relations in patients with hypertrophic cardiomyopathy
Circulation 104 : 658-663, 2001

KAWAMURA-SATO Kumiko, IINUMA Yoshitsugu, HASEGAWA Tadao, YOMASHINO Takashi, OHTA Michio
Postantibiotic suppression effect of macrolides on the expression of flagellin in *Pseudomonas aeruginosa* and *Proteus mirabilis*
J Infect Chemother 7 : 51-54, 2001

YOSHIDA Mitsunobu, YOSHIDA Hiroshi, **KITAICHI Kiyoyuki**, HIRAMATSU Kenju, KIMURA Tomoki, ITO Yasushi, KUME Hiroaki, YAMAKI Kenichi, SUZUKI Ryujiro, **SHIBATA Eiji**, **HASEGAWA Takaaki**, **TAKAGI Kenzo**

Adrenomedullin and proadrenomedullin N-terminal 20 peptide induce histamine release from rat peritoneal mast cell
Regul Pept 101 : 163-168, 2001

YOSHIDA Norio, SHIMIZU Yasuo, **KITAICHI Kiyoyuki**, HIRAMATSU Kenju, TAKEUCHI Masayuki, ITO Yasushi, KUME Hiroaki, YAMAKI Kenichi, SUZUKI Ryujiro, **SHIBATA Eiji**, **HASEGAWA Takaaki**, **TAKAGI Kenzo**
Differential effect of phosphodiesterase inhibitors on IL-13 release from peripheral blood mononuclear cells
Clin Exp Immunol 126 : 384-389, 2001

ANDO Hideyuki, NISHIO Yuki, ITO Katsuki, NAKAO Akimasa, WANG Li, ZHAO Ying Lan, **KITAICHI Kiyoyuki**, **TAKAGI Kenzo**, **HASEGAWA Takaaki**
Effect of endotoxin on P-glycoprotein-mediated biliary and renal excretion of rhodamine-123 in rats
Antimicrob Agents Chemother 45 : 3462-3467, 2001

YOSHIDA Mitsunobu, KIMURA Tomoki, **KITAICHI Kiyoyuki**, SUZUKI Ryujiro, BABA Kenji, MATSUSHIMA Miyoko, **TATSUMI Yasuaki**, **SHIBATA Eiji**, **TAKAGI Kenji**, **HASEGAWA Takaaki**, **TAKAGI Kenzo**
Induction of histamine release from rat peritoneal mast cells by histatins
Biol Pharm Bull 24 : 1267-1270, 2001

HOTTA Nigishi, TOYOTA Takayoshi, MATSUOKA Kempei, SHIGETA Yukio, KIKKAWA Ryuichi, KANEKO Toshio, TAKAHASHI Akira, SUGIMURA Kimiya, **KOIKE Yasuo**, ISHII Jun, SAKAMOTO Nobuo, SNK-860 Diabetic Neuropathy Study Group
Clinical efficacy of fidarestat, a novel aldose reductase inhibitor, for diabetic peripheral neuropathy
Diabetes Care 24 : 1776-1782, 2001

落合 淳, 若山忠士, 茂木禧昌, **古池保雄**
一側の高振幅脳波, 体性感覚誘発電位の振幅低下を伴った脳回形成異常症
神経内科 54 : 483-485, 2001

西村 麗, **古池保雄**, 平山正昭, 伊藤宏樹, 祖父江 元
睡眠時の自律神経活動—効果器からみた皮膚交感神経活動—第2報
自律神経 38 : 408-414, 2001

伊藤宏樹, 平山正昭, 家田俊明, **古池保雄**, 祖父江 元
特異な持続性低血圧徐脈発作を示した1症例: 筋交感神経活動記録による病態解析
自律神経 38 : 38-41, 2001

SHIRAHATA Akira, KAMIYA Tadashi, TAKAMATSU Junki, **KOJIMA Tetsuhito**, FUKUTAKE Katsuyuki, ARAI Morio, HANABUSA Hideji, TAGAMI Hisamichi, YOSHIOKA Akira, SHIMA Midori, NAKA Hiroyuki, FUJITA Shigeru, MINAMOTO Yoko, KAMIZONO Junji, SAITO Hidehiko
Clinical trial to investigate the pharmacokinetics, pharmacodynamics, safety, and efficacy of recombinant factor VIIa in Japanese patients with hemophilia with inhibitors
Int J Hematol 73 : 517-525, 2001

IWAKI Takayuki, MATSUSHITA Tadashi, KOBAYASHI Takeo, YAMAMOTO Yukako, NOMURA Yuka, KAGAMI

Kazuo, NAKAYAMA Takayuki, SUGIURA Isamu, **KOJIMA Tetsuhito**, TAKAMATSU Junki, KANAYAMA Naohiro, SAITO Hidehiko

DNA sequence analysis of protein S deficiency-identification of four point mutations in twelve Japanese subjects
Semin Thromb Hemost 27 : 155-160, 2001

SHIMOKAWA Takayoshi, YAMAMOTO Koji, YAMAFUJI Eriko, **KOJIMA Tetsuhito**, SAITO Hidehiko

Expression of protein S in the murine heart and cultured mouse cardiomyocytes, is down-regulated by cytokines
Thromb Haemost 86 : 623-629, 2001

KUNISHINA Shinji, MATSUSHITA Tadashi, **KOJIMA Tetsuhito**, AMEMIYA Norihiko, CHOI Yong Mook, HOSAKA Naoki, INOUE Masakazu, JUNG Yongzoon, MAMIYA Shigeo, MATSUMOTO Kimikazu, MIYAJIMA Yuji, ZHANG Guangsen, RUAN Changgeng, SAITO Koki, SONG Kyung Soon, YOON Hwi-Joong, KAMIYA Tadashi, SAITO Hidehiko

Identification of six novel *MYH9* mutations and genotype-phenotype relationships in autosomal dominant macrothrombocytopenia with leukocyte inclusions
J Hum Genet 46 : 722-729, 2001

KUNISHINA Shinji, **KOJIMA Tetsuhito**, MATSUSHITA Tadashi, TANAKA Toshihiro, TSURUSAWA Masahito, FURUKAWA Yoshio, NAKAMURA Yukitsugu, OKAMURA Takashi, AMEMIYA Norihiko, NAKAYAMA Takayuki, KAMIYA Tadashi, SAITO Hidehiko

Mutations in the *MMHC-A* gene cause autosomal dominant macrothrombocytopenia with leukocyte inclusions (May-Hegglin anomaly/Sebastian syndrome)
Blood 97 : 1147-1149, 2001

KOJIMA Tetsuhito, **TAKAGI Akira**, MAEDA Masahiro, SEGAWA Tetsuya, SHIMIZU Atsuya, YAMAMOTO Koji, MATSUSHITA Tadashi, SAITO Hidehiko

Plasma levels of syndecan-4(ryudocan) are elevated in patients with acute myocardial infarction
Thromb Haemost 85 : 793-799, 2001

ISHIGURO Kazuhiro, KADOMATSU Kenji, **KOJIMA Tetsuhito**, MURAMATSU Hisako, MATSUO Seiichi, KUSUGAMI Kazuo, SAITO Hidehiko, MURAMATSU Takashi

Syndecan-4 deficiency increases susceptibility to κ -carrageenan-induced renal damage
Lab Invest 81 : 509-516, 2001

ISHIGURO Kazuhiro, KADOMATSU Kenji, **KOJIMA Tetsuhito**, MURAMATSU Hisako, **IWASE Mitsunori**,

YOSHIKAI Yasunobu, YANADA Masamitsu, YAMAMOTO Koji, MATSUSHITA Tadashi, NISHIMURA Masahiko, KUSUGAMI Kazuo, SAITO Hidehiko, MURAMATSU Takashi

Syndecan-4 deficiency leads to high mortality of lipopolysaccharide-injected mice
J Biol Chem 276 : 47483-47488, 2001

YOSHIDA Katsushi, TOSAKA Aki, KAMIYA Hiroyuki, **MURATE Takashi**, KASAI Hiroshi, MIMURA Yuji, OGAWA Masanori, YOSHIDA Shonen, SUZUKI Motoshi

Arg660Ser mutation in *Thermus aquaticus* DNA polymerase I suppresses T→C transitions : implication of wobble base pair formation at the nucleotide incorporation step

Nucleic Acids Res 29 : 4206-4214, 2001

MURATE Takashi, BANNO Yoshiko, TAMIYA-KOIZUMI Keiko, WATANABE Kazuko, MORI Naoyoshi, WADA Atsushi, IGARASHI Yasuyuki, **TAKAGI Akira**, **KOJIMA Tetsuhito**, ASANO Haruhiko, AKAO Yukihiro, YOSHIDA Shonen, SAITO Hidehiko, NOZAWA Yoshinori
Cell type-specific localization of sphingosine kinase 1a in human tissues
J Histochem Cytochem 49 : 845-855, 2001

OHASHI Haruhiko, TSUSHITA Keitaro, UTSUMI Makoto, SHIMOYAMA Masanori, **MURATE Takashi**, UCHIDA Toshiki, AOKI Etsuko, SAITO Hidehiko, KINOSHITA Tomohiro
Relationship between methylation of the *p15* gene and ectopic expression of the *EVI-1* gene in myelodysplastic syndromes (MDS)
Leukemia 15 : 990-991, 2001

ITO Yasutomo, TAMIYA-KOIZUMI Keiko, KOIDE Yuuki, NAKAGAWA Masako, KAWADE Tomohiko, NISHIDA Atsushi, **MURATE Takashi**, TAKEMURA Masaharu, SUZUKI Motoshi, YOSHIDA Shonen
Structural requirements of sphingosine molecules for inhibition of DNA primase : biochemical and computational analysis
Biochemistry 40 : 11571-11577, 2001

山田貴之, 高木 明, 中出祐介, 村手 隆, 柳田正光, 中山享之, 山本晃士, 松下 正, 高松純樹, 齋藤英彦, 小嶋哲人
Long-PCR 法を用いた血液凝固第 VIII 因子遺伝子の逆位解析
日本血栓止血学会誌 12(3) : 187-196, 2001

NADAI Masayuki, ZHAO Ying Lan, WANG Li, NISHIO Yuki, **TAKAGI Kenji**, **KITAICHI Kiyoyuki**, **TAKAGI Kenzo**, YOSHIZUMI Hideo, **HASEGAWA Takaaki**
Endotoxin impairs biliary transport of sparfloracin and its glucuronide in rats
Eur J Pharmacol 432 : 99-105, 2001

BABA Kenji, SAKAKIBARA Ayako, YAGI Takeo, NIWA Sayaka, HATTORI Tsutomu, KOSHIKAWA Isao, YOSHIDA Kazuhito, KOBAYASHI Tadashi, **TAKAGI Kenzo**
Effects of Theophylline withdrawal in well-controlled asthmatics treated with inhaled corticosteroid
J Asthma 38 : 615-624, 2001

SUZUKI Ryujiro, KATO Toshiyuki, MIYAZAKI Yutaka, IWATA Masaru, NODA Yasunobu, NAKASHIMA Nobuo, **TAKAGI Kenzo**, TORII Keizo
Matrix metalloproteinases and tissue inhibitors of matrix metalloproteinases in sputum from patients with bronchial asthma
J Asthma 38 : 477-484, 2001

TATSUMI Yasuaki, ARIOKA Hitoshi, IKEDA Shun-ichi, FUKUMOTO Hisao, MIYAMOTO Ken-ichi, FUKUOKA Kazuya, OHE Yuichiro, SAIJO Nagahiro, NISHIO Kazuto
Enhancement of in vivo antitumor activity of a novel antimitotic 1-phenylpropenone derivative, AM-132, by tumor

necrosis factor-alpha or interleukin-6
Jpn J Cancer Res 92 : 768-777, 2001

NISHIMURA Osamu, SHIMIZU Makoto, ITO Yasushi, KUME Hiroaki, SUZUKI Ryujiro, **YOKOI Toyoharu**, YAMAKI Kenichi
Effect of prolonged low-dose methylprednisolone therapy in acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis
Respir Care 46 : 698-701, 2001

中山雅弘, 青木康博, 濱松晶彦, 中川 聡, 高島幸男, 山中龍宏, 山南貞夫, 齋藤一之, 新津直樹, 戸荊 創, 加藤
稲子, 武内康雄, 西 克之, 西村明儒, 的場梁次, 河野朗久, 北島博之, 水戸 敬, 吉永宗義, 岡崎悦夫, 舟山眞
人, 水田隆三, **横井豊治**, 小林庸次, 福永龍繁
乳幼児突然死症例・診断の手引き
日本 SIDS 学会雑誌 1 (1) : 63-83, 2001

〔総説・解説・その他〕

北市清幸, 森下友喜, **長谷川高明**
逆耐性動物モデルにおけるメタンフェタミンの生体内挙動変化
日本神経精神薬理学会誌 21(5) : 133-144, 2001

中山享之, **小嶋哲人**
プロテイン S 欠乏症
日本血栓止血学会誌 12(3) : 235-239, 2001

小嶋哲人
ヘパラン硫酸の基礎と臨床
医薬ジャーナル 37(4) : 126-132, 2001

柳田正光, **小嶋哲人**
先天性出血性疾患の病態と治療—最近の進歩— 3. 血友病 B
血液フロンティア 11(9) : 33-41, 2001

小嶋哲人
幅広い分野の参加者が集う学際的学術集会
臨床検査 45(4) : 453, 2001

鈴木 元, **村手 隆**
トポイソメラーゼの細胞機能調節と発がん—2 次がんと乳児白血病を考える
ゲノム医学 1(3) : 249-253, 2001

NODA Akiko, YASUMA Fumihiko, OKADA Tamotsu, YOKOTA Mitsuhiro
Influence of movement arousal on circadian rhythm of blood pressure in obstructive sleep apnea syndrome
福田記念医療技術振興財団情報 14 : 83-88, 2001

野田明子, 古池保雄, 横田充弘
睡眠時無呼吸症候群(SAS)の診療の実際—SASと交通事故
Home Care Today 5(2):24-27, 2001

馬場研二, 高木健三
成人気管支喘息における血清 ECP 測定—経験症例からとらえた適応条件に関する考察—
International Review of Asthma 3(2):90-101, 2001

〔科研費・班研究等〕

長谷川高明, 高木健次, 北市清幸
エンドトキシン血症における一酸化窒素及びサイトカイン類の病態生理的役割の解明
平成11~12年度文部省科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書 1冊, 2001

長谷川高明, 高木健三, 柴田英治, 高木健次, 北市清幸
メタンフェタミン逆耐性動物モデルにおけるメタンフェタミン体内動態の解析—有機カチオン輸送担体の機能変化に関する検討—
平成12年度厚生科学研究費補助金(医薬安全総合研究事業)総括研究報告書 pp 91-99, 2001

長谷川高明, 高木健三, 柴田英治, 高木健次, 北市清幸
覚醒剤による神経毒性と精神病の発現下における覚醒剤体内動態の変化に関する基礎的検討
平成13年度厚生科学研究費補助金(医薬安全総合研究事業)総括研究報告書 pp 113-120, 2001

長谷川高明, 高木健三, 柴田英治, 高木健次, 北市清幸
薬物依存発症時における覚醒剤の体内動態の変化に関する研究
平成12年度厚生科学研究費補助金(医薬安全総合研究事業)総括研究報告書 pp 32-36, 2001

岩瀬三紀, 横田充弘, 長坂徹郎, 長谷川高明, 北市清幸
エンドトキシン誘発心血管系障害における各種メジエータの役割
平成11~12年度文部省科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書 1冊, 2001

鍋島俊隆, 山田清文, 中島 晶, 永井 拓, 内山武久, 宮本嘉明, 野田幸宏, 北市清幸, 長谷川高明, 齋藤邦明
メタンフェタミンの精神神経毒性に関する神経薬理学的研究:メタンフェタミンの精神神経毒性における TNF α の役割
平成13年度厚生科学研究費補助金(医薬安全総合研究事業)総括研究報告書 pp 104-112, 2001

小嶋哲人, 国島伸治, 高木 明, 村手 隆, 柳田正光, 中山享之, 竹下享典, 清水敦哉, 山本晃士, 松下 正, 齋藤英彦
ポジショナルクロニングによる May-Hegglin Anomaly 原因遺伝子の同定
厚生省特定疾患:血液凝固異常症調査研究班平成12年度報告書 pp 30-32, 2001

小嶋哲人, 石黒和博, 高木 明, 村手 隆, 柳田正光, 中山享之, 竹下享典, 清水敦哉, 山本晃士, 松下 正, 齋藤英彦

血液流動性維持機構障害と特発性血栓症

厚生省特定疾患：厚生省特定疾患調査研究事業班（重点研究）平成12年度報告書 pp 30-31, 2001

〔その他の印刷物等〕

北市清幸, ZHAO Ying Lan, 高木健次, 柴田英治, 高木健三, 長谷川高明

生活習慣病によって誘発される感染症に関する基礎的研究

医科学応用研究財団研究報告 19: 155-161, 2001

佐々木秀忠, 中村雅夫, 木田厚瑞, 神戸真之, 高橋敬治, 藤村政樹, 榊原博樹, 堀江孝至, 西村正治, 高木健三, 井上洋西, 琉原順一, 有田健一, 宮本顕二, 相澤久道, 大井元晴, 三嶋理晃, 池田東吾, 桑平一郎

日本人のスパイログラムと動脈血液ガス分圧基準値

日本呼吸器学会肺生理専門委員会報告書 pp 1-17, 2001

〔学会発表〕

MA Xiuyang, **DU Jun**, NAKASHIMA Izumi, **NAGASE Fumihiko**

Characterization of the signal transduction pathway for menadione-induced cell death in leukemia Jurkat cells. (Scand J Immunol 54 (Suppl. 1) : 19, 2001)

11th International Congress of Immunology, 2001. 7 (Stockholm, Sweden)

DU Jun, SUZUKI Haruhiko, **NAGASE Fumihiko**, NAKASHIMA Izumi

Early oxidation is important for initiating methylglyoxal-induced apoptosis process. (Scand J Immunol 54(Suppl. 1) : 18, 2001)

11th International Congress of Immunology, 2001. 7 (Stockholm, Sweden)

HOSSAIN Khaled, AKHAND Anwarul A., KAWAMOTO Yosiyuki, **DU Jun**, TAKEDA Kozue, TSUBOI Hideo, DAI Yan, SUZUKI Haruhiko, NAKASHIMA Izumi

Arsenite triggers a redox-linked Akt pathway in a membrane Raft-dependent way. (抄録集 p 84, 2001)

第31回日本免疫学会総会, 2001. 12 (大阪)

馬 秀楊, 杜 軍, 中島 泉, 長瀬文彦

menadione による JNK の活性化と細胞死の誘導の二相性コントロール (抄録集 p 86, 2001)

第31回日本免疫学会総会, 2001. 12 (大阪)

杜 軍, 鈴木治彦, 馬 秀楊, アカンドアンワルル, 高木義和, 中島 泉, 長瀬文彦

Methylglyoxal による Raf-1 シグナル伝達の阻害 (抄録集 p 192, 2001)

第31回日本免疫学会総会, 2001. 12 (大阪)

高木義和, 杜 軍, 馬 秀楊, 中島 泉, 長瀬文彦

methylglyoxal による T 細胞のアポトーシス誘導の PMA による抑制 (抄録集 p 86, 2001)

第31回日本免疫学会総会, 2001. 12 (大阪)

横山稔厚, 杜 軍, 川本善之, 鈴木治彦, 中島 泉

PKC α トラスジェニックマウスにおけるリンパ球の PKC α 高発現とアポトーシス抑制について (抄録集 p 191, 2001)

第31回日本免疫学会総会, 2001.12 (大阪)

NISHIZAWA Takao, YOKOTA Mitsuhiro, **IWASE Mitsunori**, **KITAICHI Kiyoyuki**, KANAZAWA Hiroaki, ISHIKI Ryoji, SOMURA Fuji, IZAWA Hideo, NAGATA Kozo, FUJITA Yoko, ISHIKAWA Yoshihiro
 β -adrenergic signaling is impaired in the initial development of left ventricular dysfunction in cardiomyopathic hamster

第65回日本循環器学会学術集会, 2001.3 (京都)

岩瀬三紀, 野田明子, 武市康志, 井澤英夫, 石木良治, 曾村富士, 磯部 智, 永田浩三, 横田充弘

肥大型心筋症における運動時左室拡張末期圧二相性変化

第98回日本内科学会学術集会, 2001.4 (横浜)

NISHIZAWA Takao, **IWASE Mitsunori**, KANAZAWA Hiroaki, **Hasegawa Takaaki**, ISHIKI Ryoji, SOMURA Fuji, IZAWA Hideo, ISHIKAWA Yoshihiro, YOKOTA Mitsuhiro

Consistent effects of growth hormone on LV function in early and advanced stage of heart failure

50th Annual Scientific Session American College of Cardiology, 2001.5 (Orland, USA)

岩瀬三紀, 野田明子, 北市清幸, 古池保雄, 高木健次, 金澤寛明, 高木健三, 井澤英夫, 西澤孝夫, 横田充弘

DCM ハムスターにおける左室機能および β 交感神経脱感作の経時的評価 (J Med Ultrasonics 28(3):448, 2001)

第74回日本超音波医学会学術集会, 2001.5 (東京)

岩瀬三紀

シンポジウム 高血圧モデル動物を用いた多因子疾患解明へのアプローチ: モデル小動物の循環機能評価

第48回日本実験動物学会学術集会, 2001.5 (横浜)

UMEDA Hisashi, IZAWA Hideo, **IWASE Mitsunori**, YOKOTA Mitsuhiro

Effects of β -adrenergic stimulation induced by dynamic exercise on the relaxation-frequency relation in patients with effort angina pectoris

Scientific Conference on Molecular Integrative and Clinical Approaches to Myocardial Ischemia, American Heart Association, 2001.8 (Seattle, USA)

YAMADA Akira, IZAWA Hideo, TAKEICHI Yasushi, NISHIZAWA Takao, UMEDA Hisashi, **IWASE Mitsunori**, YOKOTA Mitsuhiro

Improved coronary microcirculation is a possible mechanism of exercise-induced biphasic left ventricular end-diastolic pressure changes in patients with hypertrophic cardiomyopathy

Scientific Conference on Molecular Integrative and Clinical Approaches to Myocardial Ischemia, American Heart Association, 2001.8 (Seattle, USA)

NISHIZAWA Takao, **IWASE Mitsunori**, **TAKAGI Kenji**, KANAZAWA Hiroaki, FUJITA Yohko, ISHIKAWA Yoshihiro, IZAWA Hideo, YOKOTA Mitsuhiro

Ischemia may induce attenuated adenylyl cyclase activities in TO-2 cardiomyopathic hamsters

Scientific Conference on Molecular Integrative and Clinical Approaches to Myocardial Ischemia, American Heart Association, 2001.8 (Seattle, USA)

岩瀬三紀, 高木健次, 加藤洋介, 長谷川高明, 金澤寛明, 西澤孝夫, 横田充弘

The differential myolysis of myocardium vs. skeletal muscle in cardiomyopathic hamsters
第5回日本心不全学会学術集会, 2001.10 (仙台)

井澤英夫, 山田 晶, 梅田久視, 河村大誠, 曾村富士, 磯部 智, 武市康志, 野々川 信, 因田恭也, 永田浩三,
平井真理, 西澤孝夫, 横田充弘, **岩瀬三紀**

肥大型心筋症における運動中の左室拡張末期圧の変化に及ぼす Nicorandil の影響
第14回 Nicorandil 研究会, 2001.10 (東京)

奈田 俊, 大蔵照子, 鈴木香織, **川村久美子**, 日紫喜芳美, 山本秀子, 森下芳孝, 飯沼由嗣

メタロβラクタマーゼ産生 *Pseudomonas aeruginosa* の検出状況 (医学検査 50(4):258, 2001)
第50回日本医学検査学会, 2001.4 (東京)

川村久美子, 森下芳孝, 奈田 俊, 飯沼由嗣

リアルタイムPCRによるBCR/ABLキメラmRNA定量法の検討 (医学検査 50(4):239, 2001)
第50回日本医学検査学会, 2001.4 (東京)

和知野純一, **川村久美子**, **伊藤秀郎**

DISK法を用いた臨床分離グラム陰性桿菌におけるメタロβラクタマーゼ遺伝子の保有分布調査 (抄録集 p36, 2001)

第38回日本細菌学会中部支部総会, 2001.10 (金沢)

北市清幸, 上山 純, **巽 康彰**, **岩瀬三紀**, **高木健次**, **高木健三**, **長谷川高明**

ウルトラフィルトレーション法を用いた生体試料中カテコールアミン測定に関する基礎的検討 (臨床病理 49 (Suppl.):252, 2001)

第48回日本臨床検査医学会総会・第41回日本臨床化学会年会連合大会, 2001.8 (横浜)

北市清幸, 森下友喜, **巽 康彰**, **高木健次**, **柴田英治**, **高木健三**, **長谷川高明**

メタンフェタミン逆耐性現象におけるメタンフェタミン体内動態の変化 (要旨集 p22, 2001)
第7回日本行動薬理研究会, 2001.8 (猪苗代)

KITAICHI Kiyoyuki, MORISHITA Yuki, DOI Yuko, UHEYAMA Jun, TATSUMI Yasuaki, TAKAGI Kenji, SHIBATA Eiji, TAKAGI Kenzo, HASEGAWA Takaaki

Repeated administration of methamphetamine alters pharmacokinetic parameters of methamphetamine in rats : the possible involvement of organic cation transporters. (Abstract. p 286, 2001)

Congress of Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologicum, Regional Meeting, 2001.10 (Hiroshima)

北市清幸, 森下友喜, 土井悠子, 上山 純, **巽 康彰**, **高木健次**, **柴田英治**, **高木健三**, **長谷川高明**

依存性薬物メタンフェタミンによって惹起される逆耐性現象に及ぼすメタンフェタミン体内動態変化の関与 (要旨集 p 286, 2001)

第31回日本神経精神薬理学会年会, 2001.10 (広島)

KITAICHI Kiyoyuki, MORISHITA Yuki, DOI Yuko, UHEYAMA Jun, TATSUMI Yasuaki, TAKAGI Kenji, TAKAGI Kenzo, HASEGAWA Takaaki

Altered disposition of methamphetamine in rats repeatedly treated with methamphetamine : the possible involvement of organic cation transporters. (Abstract. p 453, 2001)

31th Annual Meeting/The Society for Neuroscience, 2001. 11 (San Diego, USA)

古池保雄

多系統萎縮症における睡眠時呼吸障害

第12回東海睡眠時無呼吸研究会 シンポジウム「神経疾患と睡眠時呼吸障害」, 2001. 9 (名古屋)

YAMAMOTO Koji, SHIMAKAWA Takayoshi, KOJIMA Tetsuhito, SAITO Hidehiko

Decreased expression of anticoagulant protein C in murine models of inflammatory or prothrombotic renal diseases. (Inter J Hematol 73(Suppl.) : 248, 2001)

第63回日本血液学会総会, 2001. 4 (名古屋)

ISHIGURO Kazuhiro, KOJIMA Tetsuhito, KUSUGAMI Kazuo, KADOMATSU Kenji, MURAMATSU Takashi, SAITO Hidehiko

Syndecan-4 deficiency increases susceptibilities to thrombosis in the fetal vessels of the placenta, kappa-carrageenan-induced renal damage and lipopolysaccharide-induced lethality. (Inter J Hematol 73(Suppl.) : 269, 2001)

第63回日本血液学会総会, 2001. 4 (名古屋)

柳田正光, 石黒和博, 中山享之, 中山由起子, 山本晃士, 松下 正, 小嶋哲人, 齋藤英彦

アンチトロンビン欠乏マウスに対する LPS 投与の影響 (Inter J Hematol 73(Suppl.) : 89, 2001)

第63回日本血液学会総会, 2001. 4 (名古屋)

国島伸治, 神谷 正, 小嶋哲人

シンポジウム 1 血液疾患とゲノム医学 5. ポジショナルクローニングによる May-Hegglin Anomaly 責任遺伝子の同定 (Inter J Hematol 73(Suppl.) : 22, 2001)

第63回日本血液学会総会, 2001. 4 (名古屋)

石黒和博, 小嶋哲人, 中山由紀子, 高木 明, 山本晃士, 松下 正, 柳田正光, 中山享之, 齋藤英彦

プレナリーセッション 2 マウスアンチトロンビン完全欠損による胎児死亡 (Inter J Hematol 73(Suppl.) : 41, 2001)

第63回日本血液学会総会, 2001. 4 (名古屋)

小嶋哲人, 高木 明, 前田雅弘, 神戸栄喜, 柳田正光, 中山享之, 山本晃士, 松下 正, 齋藤英彦

心筋梗塞患者における ryudocan 血中濃度 (Inter J Hematol 73(Suppl.) : 229, 2001)

第63回日本血液学会総会, 2001. 4 (名古屋)

小嶋哲人, 石黒和博, 門松健治, 村松 喬, 齋藤英彦

血管内皮へパラン硫酸プロテオグリカン・ryudocan の生体内機能解析 (Abstract. p 24, 2001)

6th Annual Scientific Meeting of Japanese Society of Vascular Medicine, 2001. 6 (Tokyo)

ISHIGURO Kazuhiro, KOJIMA Tetsuhito, NAKAYAMA Yukiko, TAKAGI Akira, YAMAMOTO Koji, MATSUSHITA Tadashi, KUSUGAMI Kazuo, MURAMATSU Takashi, SAITO Hidehiko

Antithrombin deficiency causes embryonic lethality accompanied with fibrin deposition in the myocardium and liver in mice. (Thromb Haemost (Suppl.) : 256, 2001)

18th Congress of International Society on Thrombosis and Haemostasis, 2001.7 (Paris, France)

KOJIMA Tetsuhito, TAKAGI Akira, MAEDA Masahiro, SEGAWA Tetsuya, YANADA Masamitsu, NAKAYAMA Takayuki, SHIMIZU Atsuya, YAMAMOTO Koji, MATSUSHITA Tadashi, SAITO Hidehiko

Plasma levels of ryudocan (syndecan-4) are elevated in patients with acute myocardial infarction. (Thromb Haemost (Suppl.) : 507, 2001)

18th Congress of International Society on Thrombosis and Haemostasis, 2001.7 (Paris, France)

石黒和博, 小嶋哲人, 山本晃士, 松下 正, 柳田正光, 高木 明, 中山享之, 齋藤英彦

リュドカン欠損によるエンドトキシシヨックの増悪 (日本血栓止血学会誌 12(5) : 432, 2001)

第24回日本血栓止血学会学術集会, 2001.11 (京都)

山本晃士, 竹下享典, 柳田正光, 中山享之, 松下 正, 小嶋哲人, 齋藤英彦

拘束ストレス負荷マウスにおける PAI-1 の発現変化—TNF-alpha の関与— (日本血栓止血学会誌 12(5) : 402, 2001)

第24回日本血栓止血学会学術集会, 2001.11 (京都)

倉科正徳

良性および悪性腺筋上皮腫の各一例 (日本臨床細胞学会雑誌 40(Suppl.1) : 189, 2001)

日本臨床細胞学会, 2001.6 (宇都宮)

MURATE Takashi, TAMIYA-KOIZUMI Keiko, TAKAGI Akira, SAITO Hidehiko, YOSHIDA Shonen

Retinoic acid-dependent induction of acid sphingomyelinase during myeloid differentiation of a human acute promyelocytic leukemia cell line, NB4. (Exp Hematol 29(8, suppl.1) : 51, 2001)

30th Annual Meeting of the International Society for Experimental Hematology, 2001.8 (Tokyo)

長瀬文彦, 馬 秀揚, 杜 軍, 高木義和, 中島 泉

menadione によるネクロシスの誘導における JNK と Lck の相反する作用 (抄録集 p 85, 2001)

第31回日本免疫学会総会, 2001.12 (大阪)

野田明子, 深津 博, 古池保雄, 中田誠一, 重富俊雄, 岩山範久, 伊藤奈美, 本多久美子, 前田健志, 中島 務, 宮尾悦子, 安間文彦, 岡田 保, 太田龍朗, 高木健三, 井澤英夫, 横田充弘

MR fluoroscopy による閉塞性睡眠時無呼吸症候群における治療評価

第26回睡眠呼吸障害研究会, 2001.2 (東京)

野田明子, 深津 博, 古池保雄, 中田誠一, 重富俊雄, 岩山範久, 伊藤奈美, 本多久美子, 前田健志, 中島 務, 宮尾悦子, 安間文彦, 岡田 保, 太田龍朗, 高木健三, 井澤英夫, 横田充弘

閉塞性睡眠時無呼吸症候群における N-CPAP 療法における鼻呼吸障害治療の重要性

第26回睡眠呼吸障害研究会, 2001.2 (東京)

IZAWA Hideo, TAKEICHI Yasushi, ISHIKI Ryoji, SOMURA Fuji, UMEDA Hisashi, KAWAMURA Taisei, NAGATA Kozo, INDEN Yasuya, AKAHOSHI Makoto, ISOBE Satoshi, HIRAI Makoto, NISHIZAWA Takao, YOKOTA

Mitsuhiro, **NODA Akiko**, **IWASE Mitsunori**

The biphasic changes in left ventricular end-diastolic pressures during exercise in patients with non-obstructive hypertrophic cardiomyopathy

第65回日本循環器学会学術集会, 2001.3 (京都)

UMEDA Hisashi, ISHIHARA Hitoshi, KANDA Hirohumi, NISHIZAWA Takao, YOKOTA Mitsuhiro, TAKEICHI Yasushi, ISHIKI Ryoji, SOMURA Fuji, KAWAMURA Taisei, NAGATA Kozo, IZAWA Hideo, **NODA Akiko**, **IWASE Mitsunori**

Different effects between pacing and dynamic exercise-induced myocardial ischemia on left ventricular relaxation

第65回日本循環器学会学術集会, 2001.3 (京都)

野田明子, 深津 博, **古池保雄**, 中田誠一, 重富俊雄, 岩山範久, 伊藤奈美, 本多久美子, 前田健志, 中島 務, 宮尾悦子, 安間文彦, 岡田 保, 太田龍朗, **高木健三**, 井澤英夫, 横田充弘

MR fluoroscopy による閉塞性睡眠時無呼吸症候群における BiPAP 療法の評価 (抄録集 p 101, 2001)

第41回日本呼吸器学会, 2001.4 (東京)

左 萍, **野田明子**, 加藤倫子, 西澤孝夫, 石木良治, 伊藤奈美, 曾村富士, 山田 晶, 井澤英夫, 横田充弘

肥大型心筋症における運動時心機能評価 (J Med Ultrasonics 28(3):443, 2001)

第74回日本超音波医学会学術集会, 2001.5 (東京)

野田明子, 深津 博, **古池保雄**, 中田誠一, 重富俊雄, 岩山範久, 伊藤奈美, 本多久美子, 前田健志, 中島 務, 宮尾悦子, 安間文彦, 岡田 保 太田龍朗, **高木健三**, 井澤英夫 横田充弘

MR fluoroscopy による閉塞性睡眠時無呼吸症候群における口腔内装具治療評価 (抄録集 p 114, 2001)

第26回日本睡眠学会, 2001.6 (東京)

井澤英夫, 武市康志, 石木良治, 野々川 信, 磯部 智, 西澤孝夫, 曾村富士, 重村一成, 河村大誠, 梅田久視, 永田浩三, 平井真理, **野田明子**, **岩瀬三紀**, 横田充弘

肥大型心筋症における運動時左室拡張末期圧二相性変化

第17回東海心機能研究会, 2001.6 (名古屋)

中田誠一, **野田明子**, 八木英仁, 三村民江, 三沢逸人, **古池保雄**, 中島 務, 岡田 保

鼻呼吸障害を伴った閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対しての鼻手術治療の検討

第27回睡眠呼吸障害研究会, 2001.7 (東京)

野田明子, 越智ひかり, **古池保雄**, **高木健三**, 中田誠一, 三沢逸人, 中島 務, 岩山範久, 前田健志, 安間文彦, 本多久美子, 岡田 保, 伊藤理恵子, 山田 廣, **岩瀬三紀**, 西澤孝夫, 井澤英夫, 横田充弘

閉塞性睡眠時無呼吸症候群における圧受容体反射機能

第27回睡眠呼吸障害研究会, 2001.7 (東京)

太田 瞳, **野田明子**, **古池保雄**, **高木健三**, 中田誠一, 八木英仁, 三村民江, 柳 絵里子, 中島 務, 岩山範久, 前田健志, 安間文彦, 井澤恵子, **岩瀬三紀**, 西澤孝夫, 加藤倫子, 山田 晶, 井澤英夫, 横田充弘

閉塞性睡眠時無呼吸症候群における動脈硬化評価

第27回睡眠呼吸障害研究会, 2001.7 (東京)

中田誠一, 三沢逸人, **野田明子**, 吉田敏章, 八木英仁, 三村民江, **古池保雄**, 中島 務
両側先天性後鼻孔閉鎖を27年間放置した閉塞性睡眠時無呼吸症候群の1例
第27回睡眠呼吸障害研究会, 2001.7 (東京)

井澤英夫, 梅田久視, 武市康志, 野々川 信, 磯部 智, 曾村富士, 河村大誠, 永田浩三, 重村一成, 西澤孝夫,
横田充弘, **野田明子**, **岩瀬三紀**
狭心症における運動負荷および右房ペーシング負荷試験中の心拍-弛緩関係
第51回負荷研究会, 2001.8 (東京)

八木英仁, **野田明子**, 中田誠一, 本多久美子, 三村民江, 柳 絵里子, 伊藤奈美, **古池保雄**, 中島 務
睡眠呼吸障害患者における昼間の睡眠ポリグラフィの有用性
第12回東海睡眠呼吸障害研究会, 2001.9 (名古屋)

越智ひかり, **野田明子**, **古池保雄**, 中田誠一, 中島 務, 岩山範久, 前田健志, **岩瀬三紀**, 横田充弘
閉塞性睡眠時無呼吸症候群における Valsalva 試験による圧受容体反射機能
第12回東海睡眠呼吸障害研究会, 2001.9 (名古屋)

曾村富士, 山田 晶, 河村大誠, 梅田久視, 武市康志, 井澤英夫, 石木良治, 永田浩三, 重村一成, 西澤孝夫,
横田充弘, **野田明子**, **岩瀬三紀**
肥大型心筋症における頻度-収縮関係の破綻と SR 関連蛋白遺伝子発現の異常
第8回関西心不全研究会, 2001.10 (大阪)

中出祐介, 山田貴之, **高木 明**, **村手 隆**, **小嶋哲人**
発現ベクターを用いた抗マウスアンチトロンビン抗体の作製
第2回愛知県医学検査学会, 2001.5 (大府)

高木健三

ガイドラインにおける EBM の有用性と適応喘息管理ガイドラインの薬物療法での EBM の適応 β 刺激薬 (抄録集
p 36, 2001)
第11回国際喘息学会日本北アジア部会, 2001.2 (東京)

高木健三

β 2 刺激剤吸入の最近の展開 (抄録集 p 79, 2001)
第41回日本呼吸器学会総会, 2001.4 (東京)

林 悠太, 松尾正樹, 臼井美穂, 川端 厚, 田代和弘, 鈴木恵理子, 斎藤雅史, 佐竹 章, **横井豊治**
VATS 下肺生検を施行した RBILD の1例
第80回日本呼吸器学会東海地方学会, 2001.11 (浜松)

[公開講座・講演会]

伊藤秀郎

院内感染対策について

平成13年度秋期愛知県厚生連臨床検査技師会研修会(教育講演), 2001.10 (名古屋)

岩瀬三紀

循環器医からみた高脂血症

益田郡医師会講演会, 2001.2 (下呂)

横井豊治

呼吸器細胞診 (その他の病変)

日本臨床細胞学会東海連合会細胞診基礎講習会, 2001.6 (稲沢)

理学療法学専攻

〔著書〕

木山喬博

第8章 発表・論文作成の指導方法

『理学療法研究法（標準理学療法学 専門分野）』（奈良 勲監修，内山 靖編集）医学書院，2001. pp 197-212

木山喬博

超音波療法

『物理療法学（標準理学療法学 専門分野）』（奈良 勲監修，網本 和編集）医学書院，2001. pp 70-86

小林邦彦

第4章 筋系

『解剖学（標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野）』（野村 巖編集）医学書院，2001. pp 213-262

鈴木重行

関節可動域運動

『運動療法学 総論（標準理学療法学 専門分野）』（奈良 勲監修，吉尾雅春編集）医学書院，2001. pp 166-192

辻井洋一郎

マイオセラピー

『図解理学療法技術ガイド，第2版—理学療法臨床の場で必ず役立つ実践のすべて—』（石川 齋，武富由雄（編集主幹），中山彰一，奈良 勲，細田多穂，福田 修（編集委員））文光堂，2001. pp 489-497

辻井洋一郎

マイオセラピーによる頭痛治療

『頭部疾患（疾患別治療大百科シリーズ 4）』（間中信也 [ほか] 著）医道の日本社，2001. pp 216-222

〔原著論文〕

CHOI Ho-Rim, KONDO Seiji, MISHIMA Shinji, SHIMIZU Takuya, HASEGAWA Yukiharu, **IDA Kunio**, HIRAYAMA Masaaki, IWATA Hisashi

Axillary nerve injury caused by intradeltoid muscular injection : a case report

J Shoulder Elbow Surg 10 : 493-495, 2001

CHOI Ho-Rim, HASEGAWA Yukiharu, KONDO Seiji, SHIMIZU Takuya, **IDA Kunio**, IWATA Hisashi

High tibial osteotomy for varus gonarthrosis : a 10- to 24-year follow-up study

J Orthop Sci 6 : 493-497, 2001

三嶋真爾，高橋成夫，近藤精司，長谷川幸治，杉浦博基，黒河内和俊，清水卓也，**猪田邦雄**

ACL 再建術時の膝屈伸に伴う骨孔間距離変化と術後成績

膝 26 : 206-210, 2001

猪田邦雄，加藤智香子，河村守雄

高齢者の転倒予防

現代医学 49(2) : 311-320, 2001

高橋成夫, 杉浦博基, 黒河内和俊, 三嶋真爾, 近藤精司, 猪田邦雄

前十字靭帯再建術でのインピジメント障害予防の工夫

関節鏡 26 : 83-88, 2001

横尾三二, 奥田峰司, 鬼武義幹, 石田和人

骨密度と筋力について

理療 30 : 11-14, 2001

KAWAKAMI Keisuke, TATSUMI Hitoshi, SOKABE Masahiro

Dynamics of clustering of integrins at focal contact studies by multi-mode imaging microscopy

J Cell Sci 114 : 3115-3124, 2001

平野幸伸, 長谷川祐一, 鈴木重行

痛みに対する徒手的アプローチの効果とその限界

理学療法 18(1) : 63-70, 2001

鈴木重行

変形性膝関節症の最新の治療と評価—関節可動域の改善

理学療法学 28(3) : 86-89, 2001

鈴木重行, 平野幸伸, 長谷川祐一

疼痛の機序と治療におけるパラダイム転換

理学療法ジャーナル 35(4) : 239-246, 2001

〔総説・解説・その他〕

石田和人, 野々垣嘉男

クラブ体操の再考

理学療法 18 : 675-679, 2001

石田和人

脳細胞のアポトーシス

理学療法ジャーナル 35 : 147-149, 2001

小林邦彦

コメディカル解剖学教育の将来像

篤志献体 42 : 78, 2001

鈴木重行

肩こり, 腰痛対策 : 痛みの軽減とIDストレッチング

月刊ナーシング 21(10)：26-36, 2001

〔科研費・班研究等〕

猪田邦雄, 小林邦彦, 鈴木重行, 肥田朋子, 河村守雄, 講武芳英

関節拘縮における関節周囲組織の超微構造学的検討

平成11～12年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書 1冊, 2001

〔その他の印刷物等〕

猪田邦雄

「整形外科学」書評

週間医学界新聞 2462：7, 2001

外崎 昭, 渡辺 皓, 小林邦彦, 加藤 征, 時岡孝夫

『医療技術職養成機関における解剖学カリキュラム調査と改善方向の提案』

(財)日本篤志献体協会 1冊, 2001

小林邦彦

第21回人体解剖トレーニングセミナー前後

第21回人体解剖トレーニングセミナー（2001）報告書 p 49, 2001

〔学会発表〕

松田和道, 富田良弘, 藤沢幸三, 深間内誠, 加藤 公, 猪田邦雄

当院における寛骨臼回転骨切り術後患者のスポーツ活動の調査

東海スポーツ傷害研究会, 2001.2（名古屋）

島岡 清, 村本名史, 柴田優子, 猪田邦雄

デイケア施設を利用する要介護者の身体活動水準（体力科学 50：553, 2001）

日本体力医学会東海地方会, 2001.3（名古屋）

石田和人, 清水秀夫, 飛田秀樹, 西野仁雄

ラットへのイボテン酸投与により出現する dark neuron の経過と微細構造変化（予稿集 p 355, 2001）

第78回日本生理学会大会, 2001.3（京都）

石田和人, 加賀富士枝, 小出益徳, 斉藤佳奈子, 原 千由里, 古川和親, 谷田武喜

士会ニュースの編集に携わったこの4年間を振り返る

第11回愛知県理学療法学会, 2001.3（名古屋）

石田和人, 飛田秀樹, 猪田邦雄, 西野仁雄

ラット海馬へのイボテン酸投与により出現する dark neuron は caspase-3の活性化から細胞死に至る (予稿集 p 321, 2001)

第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会, 2001.9 (京都)

KAWAKAMI Keisuke, HAYAKAWA Kimihide, TATSUMI Hitoshi, SOKABE Masahiro

Live imaging of integrin dynamics in response to mechanical stimuli applied through fibronectin coated beads attached on the apical surface of endothelial cells. (Jpn J Physiol 51(Suppl.) : S113, 2001)

第78回日本生理学会大会, 2001.3 (京都)

村岡史江, 加賀祐子, **河上敬介**, 木山喬博, 小林邦彦

モーターポイントの解剖学的位置 (理学療法の医学的基礎 5(1) : 17, 2001)

第6回理学療法の医学的基礎研究会学術集会, 2001.5 (広島)

曾我部正博, 早川公英, **河上敬介**, 辰巳仁史, 成瀬恵治

機械刺激に対する細胞の形態応答とインテグリン/細胞骨格系の役割

第24回バイオレオロジー学会年会, 2001.6 (横浜)

SOKABE Masahiro, HAYAKAWA Kimihide, **KAWAKAMI Keisuke**, TATSUMI Hitoshi

Cell mechanosensing : role of SA channel and integrin/cytoskeleton in stretch-induced cell remodeling of endothelial cells. (Abstract. p 45, 2001)

Switzerland-Japan Workshop "New Directions in Cellular and Tissue Biomechanics", 2001.9 (Les Diablerets, Switzerland)

河上敬介, 辰巳仁史, 早川公英, 曾我部正博

血管内皮細胞における機械刺激依存性接着斑消失のメカニズム (予稿集 p s207, 2001)

第39回日本生物物理学会年会, 2001.10 (大阪)

辰巳仁史, 早川公英, **河上敬介**, 曾我部正博

血管内皮細胞における力受容と細胞反応 (予稿集 p 44, 2001)

第48回中部生理学会, 2001.10 (名古屋)

曾我部正博, 早川公英, **河上敬介**, 辰巳仁史, 成瀬恵治

細胞の形づくりにおける時空間制御: SA チャネル, 接着斑, 細胞骨格

平成13年度生理学研究所研究会, 2001.11 (岡崎)

SOKABE Masahiro, **KAWAKAMI Keisuke**, HAYAKAWA Kimihide, TATSUMI Hitoshi

Internalization of integrins induced by mechanical stretch to focal contacts of endothelial cells. (Mol Biol Cell 12 (Suppl.) : 48, 2001)

41st Annual Meeting of the American Society for Cell Biology, Minisymposium "ECM Proteins and their Receptors : Structure, Function and Modulation", 2001.12 (Washington DC, USA)

戸田秀彦, 衛藤義人, 三宅洋之, **木山喬博**, 戸田 香, 鳥居昭久

人工膝関節置換術後における関節可動域と疼痛の相関について

第36回日本理学療法士学会, 2001.5 (広島)

鳥居昭久, 木山喬博, 戸田秀彦, 松田文浩, 戸田 香, 山田和政
他動的 ROM 測定値と検査肢を押す他動力との関係
第36回日本理学療法士学会, 2001.5 (広島)

木山喬博, 戸田秀彦, 鳥居昭久, 山田和政
超音波照射による水中と寒天中の骨片の温度上昇
第36回日本理学療法士学会, 2001.5 (広島)

小林邦彦

コ・メディカル解剖学教育における人体解剖実習とインターネットの利用 (予稿集 pp 17-19, 2001)
第3回解剖技術研究・研修会, 2001.3 (高知)

小林邦彦

コ・メディカル教育における人体解剖実習の効果—実習後の感想の分析 (解剖学雑誌 76(1):125, 2001)
第106回日本解剖学会全国学術集会, 2001.4 (高知)

小林邦彦

医歯学以外の医療技術職をめざす学生に, 解剖実習カリキュラムは可能か (解剖学雑誌 76(5):505, 2001)
第7回コメディカル解剖学懇話会, 2001.4 (高知)

林 厚宏, 中山裕章, 校條由紀, 鈴木和代, 永田量子, 小林邦彦

下肢関節拘縮遺体における関節可動域制限要因の検討 (解剖学雑誌 76(1):101, 2001)
第106回日本解剖学会全国学術集会, 2001.4 (高知)

中山裕章, 校條由紀, 林 厚宏, 小林邦彦

下肢関節拘縮遺体における膝関節包の組織学的検討 (予稿集 p 47, 2001)
第61回日本解剖学会中部支部学術集会, 2001.10 (豊明)

広田亜里彩, 蛭原哲也, 楠畑 雅, 小林身哉, 小林邦彦, 桑葉くみ子, 入江伸吉, 小山洋一
皮膚の慢性炎症に伴うコラーゲンの質的・機能的変化 (生化学 73(8):742, 2001)
第74回日本生化学会大会, 2001.10 (京都)

KOEDA Tomoko, SATO Jun, KUMAZAWA Takao, MIZUMURA Kazue

Vasodilatation of hindpaw plantar skin induced by intra-arterial injection of noradrenaline in adjuvant inflamed rats.
(Jpn J Physiol 51(Suppl.): S147, 2001)
78th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan, 2001.3 (Kyoto)

田口 徹, 竹下美紀, 肥田朋子, 辻井洋一郎

直線偏光近赤外線照射によるヒトの感覚 (理学療法学 28(Suppl.2):338, 2001)
第36回日本理学療法学会学術大会, 2001.5 (広島)

肥田朋子

病態モデルラットの疼痛と血管反応に関する電気生理学および動物行動学的研究 (理学療法の医学的基礎 5(1):8, 2001)

第6回理学療法の医学的基礎研究会学術集会, 2001.5 (広島)

有馬征宏, 成瀬早苗, 西山知佐, **鈴木重行**, 張本浩平
アンケート調査からみた便秘に対する運動療法の有効性 (予稿集 p 419, 2001)
第36回日本理学療法学会学術大会, 2001.5 (広島)

岩井 歩, 青木直子, **鈴木重行**, 吉川羊子, 後藤百万, 大島伸一
骨盤底筋群の収縮時における骨盤周囲筋群活動の影響 (予稿集 p 68, 2001)
第14回老人泌尿器科研究会, 2001.5 (東京)

青木直子, 岩井 歩, **鈴木重行**, 吉川羊子, 後藤百万, 大島伸一
高齢者腹圧性尿失禁患者に対するEMGバイオフィードバックの試み (予稿集 p 69, 2001)
第14回老人泌尿器科研究会, 2001.5 (東京)

銭田良博, 柴山 靖, 柳田哲也, 長谷川祐一, 平野幸伸, 高木健次, **鈴木重行**, 池野倫弘, 張本浩平, 岩田全広
手術侵襲による炎症がラットの頸静脈内の一酸化窒素濃度変化に及ぼす影響 (予稿集 p 127, 2001)
第36回日本理学療法学会学術大会, 2001.5 (広島)

中井英人, **鈴木重行**, 辻村康彦
脳卒中片麻痺患者におけるエルゴメータートレーニングの有効性—最大歩行速度と各カテゴリー間の検討— (予稿集 p 302, 2001)
第36回日本理学療法学会学術大会, 2001.5 (広島)

吉川羊子, 後藤百万, 服部良平, 小野佳成, 大島伸一, 青木直子, 岩井 歩, **鈴木重行**
根治的前立腺全摘術後の尿失禁に対するEMGバイオフィードバック法による骨盤底筋訓練法の臨床的検討 (予稿集 p 73, 2001)
第8回日本神経因性膀胱学会, 2001.9 (東京)

青木直子, 岩井 歩, **鈴木重行**, 吉川羊子, 後藤百万, 大島伸一
腹圧性尿失禁患者に対するEMGバイオフィードバック療法時の筋活動 (予稿集 p 133, 2001)
第8回日本神経因性膀胱学会, 2001.9 (東京)

平野幸伸, 山口育子, 水野直樹, 野田高虎, **鈴木重行**
広帯域多重複合波治療の臨床的検討—肩関節周囲炎に対して— (予稿集 p 19, 2001)
第9回日本物理療法学会, 2001.10 (浜松)

長谷川祐一, 平野幸伸, 銭田良博, 齋間康晴, **鈴木重行**
整形外科疾患の慢性痛に対する物理療法の効果—VASとマクギル疼痛質問票を指標として— (予稿集 p 18, 2001)
第9回日本物理療法学会, 2001.10 (浜松)

TSUJII Yoichiro

Electromyographic activity in the referred pain area. (J Musculoske Pain 9(Suppl): 94, 2001)
5th World Congress on Myofascial Pain and Fibromyalgia, 2001.5 (Portland, USA)

TSUJII Yoichiro

Intramuscular architecture is fundamental knowledge for examination and treatment of myopain. (J Musculoske Pain 9(Suppl.) : 89, 2001)

5th World Congress on Myofascial Pain and Fibromyalgia, 2001.5 (Portland, USA)

〔公開講座・講演会〕

猪田邦雄

親子で楽しむスポーツ教室

名古屋大学総合保健体育科学センター主催・名古屋大学医学部保健学科, (株)名古屋グランパスエイト協力平成13年度公開講座第1回, 2001.5-6 (名古屋)

猪田邦雄

骨や関節の機能と障害—関節はどのようにして動くか—

河合塾主催「名古屋大学サマーフェスタ」, 2001.8 (名古屋)

猪田邦雄

スポーツと健康：パートI —生涯健康をめざして努力すれば報われる？—

平成13年度名古屋大学医学部医学科公開講座, 2001.10 (名古屋)

猪田邦雄

診断・治療に必要な肩関節の解剖と機能

浜松リハビリテーションセミナー, 2001.12 (浜松)

石田和人

理学療法の科学性・研究

愛知県理学療法士会新人教育プログラム, 2001.7(名古屋)

石田和人

筋電図による神経・筋機能の評価

社団法人日本理学療法士協会第521回短期現職者講習会, 2001.11 (愛知県長久手町)

河上敬介

臨床に役立つ筋の解剖学的特徴

西日本整骨学会学術研修会夏季セミナー, 2001.8 (大阪)

河上敬介

運動器を三次元で捉えるための解剖観察

社団法人大分県理学療法士協会第13回研修会, 2001.9 (名古屋)

河村守雄

脊椎の機能と変性

日本義肢協会研修セミナー, 2001.2 (名古屋)

鈴木重行

世界の理学療法の動向

平成12年度愛知県理学療法士会研修会，2001.1（名古屋）

鈴木重行

疼痛緩和のためのフィジカルセラピー Part 2

東海看護ケア・スキル研究会，2001.6（名古屋）

鈴木重行

ストレッチングの効果

平成13年度名古屋大学総合保健体育科学センター公開講座，2001.7（名古屋）

鈴木重行

ID ストレッチング

第66回北海道理学療法士会講習会，2001.9（函館）

鈴木重行

元気回復の秘法：肩凝り・腰痛緩和と ID ストレッチング

第19回関西ホームケア研究会，2001.10（大阪）

鈴木重行

ID ストレッチングの実際

第11回長崎リハビリテーション学院同窓会講演会，2001.11（長崎）

鈴木重行

肩の運動学と理学療法—拘縮の病態—

平成13年度日本理学療法士協会現職者講習会，2001.11（相生）

鈴木重行

疼痛緩和と ID ストレッチング

平成13年度秋田県理学療法士会研修会，2001.12（秋田）

作業療法学専攻

〔原著論文〕

原 和子

事例報告：作業行動上の変化からみた介助犬の有用性

愛知作業療法 9 : 18-20, 2001

GUNJI Atsuko, **HOSHIYAMA Minoru**, KAKIGI Ryusuke

Auditory response following vocalization : a magnetoencephalographic study

Clin Neurophysiol 112 : 514-520, 2001

HOSHIYAMA Minoru, KAKIGI Ryusuke

Correspondence between short-latency somatosensory evoked brain potentials and cortical magnetic fields following median nerve stimulation

Brain Res 908 : 140-148, 2001

HOSHIYAMA Minoru, KAKIGI Ryusuke

Effects of attention on pattern-reversal visual evoked potentials : foveal field stimulation versus peripheral field stimulation

Brain Topogr 13 : 293-298, 2001

HOSHIYAMA Minoru, GUNJI Atsuko, KAKIGI Ryusuke

Hearing the sound of silence : a magnetoencephalographic study

Neuroreport 12 : 1097-1102, 2001

WANG Lihong, KAKIGI Ryusuke, **HOSHIYAMA Minoru**

Neural activities during Wisconsin Card Sorting Test-MEG observation

Brain Res Cogn Brain Res 12 : 19-31, 2001

TRAN Tuan Diep, LAM Khanh, **HOSHIYAMA Minoru**, KAKIGI Ryusuke

A new method for measuring the conduction velocities of A β -, A δ - and C-fibers following electric and CO(2) laser stimulation in humans

Neurosci Lett 301 : 187-190, 2001

NIHASHI Takashi, KAKIGI Ryusuke, KAWAKAMI Osamu, **HOSHIYAMA Minoru**, ITOMI Kazuya, NAKANISHI

Hiroshi, KAJITA Yasukazu, INAO Suguru, YOSHIDA Jun

Representation of the ear in human primary somatosensory cortex

Neuroimage 13 : 295-304, 2001

HOSHIYAMA Minoru, KAKIGI Ryusuke

Two evoked responses with different recovery functions in the primary somatosensory cortex in humans

Clin Neurophysiol 112 : 1334-1342, 2001

ITOMI Kazuya, KAKIGI Ryusuke, **HOSHIYAMA Minoru**, WATANABE Kazuyoshi

A unique area of the homonculus : the topography of the primary somatosensory cortex in humans following

posterior scalp and shoulder stimulation
Brain Topogr 14 : 15-23, 2001

柿木隆介, TRAN Tuan Diep, 秋 云海, 王 暁宏, 乾 幸二, **宝珠山 稔**
末梢神経C線維を選択的に刺激して得られる大脳誘発電位
臨床神経生理学 30(1) : 45-54, 2001

二橋尚志, 柿木隆介, **宝珠山 稔**, 梶田泰一, 吉田 純
耳の第一次体性感覚野における受容野の検討
臨床脳波 43(9) : 577-582, 2001

伊藤恵美

イギリスの補助器具支給・住宅改造サービス
愛知作業療法 9 : 12-17, 2001

清水英樹, 齋藤洋典, 沖田庸嵩
抑うつ者における人物形容詞の処理特性—事象関連電位による検討—
電子情報通信学会技術研究報告 101(37) : 1-9, 2001

HOTTA Nigishi, TOYOTA Takayoshi, MATSUOKA Kempei, SHIGETA Yukio, KIKKAWA Ryuichi, KANEKO
Toshio, TAKAHASHI Akira, **SUGIMURA Kimiya**, KOIKE Yasuo, ISHII Jun, SAKAMOTO Nobuo, SNK-860 Diabetic
Neuropathy Study Group
Clinical efficacy of fidarestat, a novel aldose reductase inhibitor, for diabetic peripheral neuropathy
Diabetes Care 24 : 1776-1782, 2001

杉村公也

介護老人保健施設のリハビリテーションのチームアプローチシステム
現代医学 48(3) : 589-595, 2001

鈴木國文

EBM／アルゴリズム／背景と諸問題
精神科治療学 15(3) : 237-244, 2001

高木 宏, 西岡和郎, **鈴木國文**
「運良く」治療終結することのできた境界性人格障害の一例
精神科治療学 16(8) : 849-855, 2001

赤堀薫子, 小川豊昭, 西岡和郎, **鈴木國文**
10代で解離性同一性障害を呈した女性症例
精神科治療学 15(5) : 507-514, 2001

鈴木國文

精神科リハビリテーションの近未来
精神科治療学 16(2) : 143-148, 2001

小河原尚泰, 西岡和郎, 鈴木國文

ひきこもり・境界例的巻き込みから幻覚妄想が発展した症例
精神科治療学 15(2):177-184, 2001

植田 恵, 笹沼澄子, 杉原素子, 田川義勝, 萩原喜茂, 下田信明, 三井速雄
老人保健施設入所痴呆高齢者の高次脳機能 ADL の特徴に関する調査研究 第二報
国際医療福祉大学紀要 6:79-105, 2001

〔総説・解説・その他〕

原 和子

アメリカの介助犬見聞
作業療法ジャーナル 35(4):349-352, 2001

原 和子

これからの教育的作業のあり方を考える—'96年米国 OT 学会の話題から—
作業行動研究 5(1):15-24, 2001

杉村公也

ユニットケア
現代医学 48(3):545-546, 2001

鈴木國文

「近未来への提言」特集にあたって
精神科治療学 16(1):1-2, 2001

鈴木國文

時代が病むということ—無意識の構造と美術(9) 戦後社会と日本の「前衛」
こころの科学 95:102-111, 2001

鈴木國文

時代が病むということ—無意識の構造と美術(10) 抽象表現主義と近代の夢
こころの科学 96:100-109, 2001

鈴木國文

時代が病むということ—無意識の構造と美術(11) もの・イメージ・コンセプト
こころの科学 97:108-118, 2001

鈴木國文

時代が病むということ—無意識の構造と美術(12) 眼差しと身体
こころの科学 98:132-141, 2001

鈴木國文, 影山任佐, 内海 健, 樋口輝彦, 笠原 嘉

20世紀の精神病理学とこれから
精神医学レビュー 40：116-134, 2001

鈴木國文

分裂病の発症とそれに先行する時期
精神医学レビュー 40：69-77, 2001

〔科研費・班研究等〕

原 和子

介助犬の作業療法的有用性に関する検討—介助犬使用後の作業行動変化
平成12年度厚生科学研究 障害保健福祉総合研究事業 介助犬の基礎的調査研究報告—介助犬の実態と身体障害者への応用に関する研究 pp 92-94, 2001

原 和子, 村井篤史, 加藤清子, 真野行生, 土田隆政, 高柳友子, 高柳哲也
介助犬希望者に対するリハビリテーション医学的適応評価についての検討
平成12年度厚生科学研究 障害保健福祉総合研究事業 介助犬の基礎的調査研究報告—介助犬の実態と身体障害者への応用に関する研究 pp 121-125, 2001

杉村公也, 宝珠山 稔, 伊藤恵美, 清水英樹

スモン患者の療養, 介護状況および在宅療養破綻因子について
厚生科学研究費補助金スモンに関する調査研究班平成12年度研究報告書 pp 176-179, 2001

杉村公也, 伊藤恵美, 宝珠山 稔, 清水英樹

若年期に発症したスモン患者さんの社会生活実態調査
厚生科学研究費補助金スモンに関する調査研究班平成12年度研究報告書 pp 108-110, 2001

〔学会発表〕

高柳友子, 真野行生, 土田隆政, 原 和子, 大林博美, 高柳哲也
Assistive Technology としての介助犬の有効性と実態 (リハビリテーション医学 38(特別)：S197, 2001)
第38回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2001.6 (横浜)

山田郁子, 澤田雄二, 原 和子, 宮前珠子, 西上忠臣
作業として音楽をする提案 (プログラム p 85, 2001)
第35回日本作業療法学会, 2001.6 (金沢)

亀山清子, 原 和子, 高柳友子
脊髄損傷者における介助犬の有効性に関する検討—ADLの広がり と QOLの向上— (作業療法 20(特別1)：462, 2001)
第35回日本作業療法学会, 2001.6 (金沢)

HARA Kazuko, UEDA Masahiro

The influence of WHO(Wrist Hand Orthosis) upon the motion of upper extremity at IADL(Instrumental Activities of Daily Living)

10th World Congress of the International Society for Prosthetics & Orthotics, 2001.7 (Glasgow, UK)

原 和子

総合臨床実習中に占める内容の時間調査による変遷

日本作業療法教育研究会, 2001.10 (金沢)

原 和子, 宝珠山 稔

オーバーヘッドスリング及びスクーターボードが上肢動作に与える影響 (日本義肢装具学会誌 17(特別):174-175, 2001)

第17回日本義肢装具学会, 2001.11 (東京)

高柳泰世, 宮尾 克, **原 和子**

視覚障害者に対する道路標識の配慮 (日本公衆衛生雑誌 48(10):878, 2001)

第60回日本公衆衛生学会, 2001.11 (香川)

HOSHIYAMA Minoru, KAKIGI Ryusuke

Somatosensory evoked magnetic fields

第12回国際脳電磁図トポグラフィ会議, 2001.3 (宇都宮)

寶珠山 稔, 柿木隆介

正中神経刺激による体性感覚脳磁界の Recovery function

第42回日本神経学会, 2001.5 (東京)

寶珠山 稔

脳磁計(magneto-encephalography)による脳磁場計測

第97回日本精神神経学会, 2001.5 (大阪)

HOSHIYAMA Minoru

The somatosensory brain responses recorded by MEG

第17回韓国臨床神経生理学会, 2001.11 (ソウル, 大韓民国)

寶珠山 稔, 軍司敦子, 柿木隆介

聴覚系高次脳機能の脳磁図

第31回日本臨床神経生理学会, 2001.11 (京都)

伊藤恵美, 清水英樹, 杉村公也, 宝珠山 稔

若年期に発症したスモン患者の社会生活実態調査 (作業療法 20(特別1):527, 2001)

第35回日本作業療法学会, 2001.6 (金沢)

渡辺章由, 萩野雅仁, 山田恭子, **伊藤恵美**, 柴田澄江, 森田美弥子

地域作業療法学におけるアンケート調査—地域作業療法学の構築に向けて— (作業療法 20(特別1):558, 2001)

第35回日本作業療法学会，2001.6（金沢）

向 文緒，藤井雅裕，新宮尚人，田口 修，名和郁子，**鈴木國文**

精神科作業療法の実態と作業療法士の問題意識—プログラムの構成に注目して—（作業療法 20(特別1)：151, 2001)
第35回日本作業療法学会，2001.6（金沢）

清水英樹

抑うつ状態が感情形容語の認知的処理に及ぼす影響—事象関連電位による検討—（作業療法 20(特別1)：102, 2001)
第35回日本作業療法学会，2001.6（金沢）

清水英樹

自己関連情報に対する処理特性（1）—抑うつ傾向者における人物形容語に対する注意と記憶の特徴—（発表論文集
p 321, 2001）
第65回日本心理学会大会，2001.11（つくば）

高久朋子，**田川義勝**，武田陽子，尾形良子，池谷義道

重心動揺計を用いた視覚フィードバック訓練効果—立位バランス機能とADLの変化—（抄録集 p 583, 2001）
第12回全国介護老人保健施設東京大会，2001.8（東京）

宇梶夏代，斑目恵理子，**田川義勝**

重複障害者に対する代償的方法の試み—視覚・聴覚障害を伴う痴呆症と接して—（抄録集 p 286, 2001）
第12回全国介護老人保健施設東京大会，2001.8（東京）

猪野麻衣子，**田川義勝**

食事選択メニューの導入—アンケート調査・観察などを参考に—（抄録集 p 149, 2001）
第12回全国介護老人保健施設東京大会，2001.8（東京）

栗原千陽，**田川義勝**，福士尚美

生活の危険回避—側性無視を伴う脳卒中左片麻痺のケア経験—（抄録集 p 684, 2001）
第12回全国介護老人保健施設東京大会，2001.8（東京）

松田まや，**田川義勝**

老健施設における園芸療法と痴呆症状—自発的活動の機会をつくる—（抄録集 p 415, 2001）
第12回全国介護老人保健施設東京大会，2001.8（東京）

〔公開講座・講演会〕

原 和子

介助犬の実際

介護支援ネットワークひだまりねっと第2回オープン講座，2001.3（名古屋）

原 和子

介助犬の実際

長野県動物愛護週間講演会，2001.9（諏訪）

伊藤恵美

住宅改修

小牧市ホームヘルパー研修会，2001.6（小牧）

伊藤恵美

福祉用具

尾張旭市ホームヘルパー研修会，2001.8（尾張旭）

伊藤恵美

老化予防について

伊吹町保健センター主催転倒予防教室，2001.9（滋賀県伊吹町）

杉村公也

痴呆のリハビリテーション

高齢者痴呆介護研究・研修大府センター 高齢者痴呆介護指導者養成研修，2001.6，2001.10（大府）

田川義勝

作業療法の成果を考える

平成13年度愛知県作業療法士会学術研修会，2001.1（名古屋）

田川義勝

脳障害とともに生きる—高次機能障害とその対策—

第3回北勢地域リハビリテーション研修会，2001.1（四日市）

田川義勝

リハビリテーション雑感—これもリハビリテーションこれがリハビリテーション

第2回広域研究会D研修会，2001.7（名古屋）

田川義勝

介護方法論（摂食障害と自助具について）

栃木県河内町講演会，2001.8（栃木県河内町）

田川義勝

介護老人保健施設におけるケアプランの策定方法

医療法人宇都宮定期講演会，2001.8（宇都宮）

田川義勝

障害からの自立の方法—作業療法的観点から

財団法人仁泉会医学研究所講演会，2001.8（福島県保原町）

田川義勝

リハビリテーションサービスと介護の連携について

医療法人宇都宮定期講演会, 2001.9 (宇都宮)

編集後記

名古屋大学医学部保健学科教育・研究年報第5巻（2001年）を発刊いたしました。保健学科5専攻全教官の一年間における教育・研究業績をどうぞご覧ください。

初めての保健学科卒業生を送り出したのと同時に、本年度は博士課程前期（修士課程）がスタートしました。授業も昼夜とウィークエンドに開講される中、さらに博士課程後期（博士課程）開設に向け全学構成員が多面的な準備に追われる状況の中にありながら教育・研究を積み重ね、よりグレードの高い研究システム構築をめざしています。

活力ある教官の教育・研究活動は、大学を支える基盤であり、知的財産です。それらの財産を蓄積し、積み上げていくために、保健学科教育・研究年報は第1巻より各専攻の特長を活かし、さらに各種の委員会の活動や公開講座の内容も盛り込みながら収載内容を充実していくよう要請されています。

教育・研究業績数は以下の通りです。

	第1巻 (1997年)	第2巻 (1998年)	第3巻 (1999年)	第4巻 (2000年)	第5巻 (2001年)
著書	17	39	55	56	38
原著論文	58	123	141	163	137
総説・解説・その他	64	61	92	106	58
科研費・班研究等	6	12	10	26	23
その他の印刷物等	10	14	26	18	13
学会発表	115	173	252	268	246
公開講座・講演会	45	73	96	102	70
計	315	495	672	739	585

さて、今回より編集作業は電子ファイリングシステムによる新たな手続きを取り入れました。（これまではフロッピーで各自が委員会に提出したものは冊子で残されただけでした。）そのため、教育・研究データの入力方法の試行、収集から入稿、校正作業など一連の作業工程が軌道に乗るまでには大変な労力が掛かりました。しかし、電子媒体として総括されたものを大容量のデータとして残すことは、今後の保健学科の発展のために大きなステップを踏むことになると思います。

最後に、保健学科教育・研究年報の編集作業に携わっていただいた保健学情報掛の職員の皆様に深謝申し上げます。

平成15年3月7日
年報編集委員会委員長 前川厚子

年報編集委員

看護学専攻	前川厚子
放射線技術科学専攻	伊藤茂樹
検査技術科学専攻	野田明子
理学療法学専攻	河村守雄
作業療法学専攻	美和千尋

名古屋大学医学部保健学科教育・研究年報 第5卷

2003年3月28日 発行

発行 名古屋大学医学部保健学科

〒461-8673 名古屋市東区大幸南一丁目1番20号

TEL(052)719-1504

印刷 (株)荒川印刷

〒460-0012 名古屋市中区千代田2丁目16番38号

TEL(052)262-1006 (代表)
